

# 日本の高等学校における 韓国朝鮮語教育

## 일본 고등학교에 있어서의 한국어 교육

中国語教育との比較で見る  
중국어 교육과의 비교를 통하여

1999年6月

財團法人国際文化フォーラム  
재단법인국제문화포럼

表紙は『釈譜詳節』(1447年)の一部を拡大したものです。釈迦の家系と一代記を記録した同書はハングルで著された初めての散文作品であり、最古のハングル活字本としても貴重な資料です。

표지는 《석보상절》(1447년)의 일부를 확대한 것입니다. 석가모니의 가계와 그 일대기를 기록한 이 책은 한글로 된 최초의 산문작품이며, 최초의 국문활자본이란 점에서도 귀한 자료입니다.



# 日本の高等学校における 韓国朝鮮語教育

中国語教育との比較で見る



# 目 次

I.	国際文化フォーラム(TJF)とアジアの言語	
1.	アジアの言語と中国語教育の調査 .....	3
2.	韓国朝鮮語と中国語教育の合同調査 .....	4
II.	韓国朝鮮語と中国語教育の取り組み校	
1.	二つの言語教育の広がり .....	6
2.	講座名で見た韓国朝鮮語教育 .....	10
3.	外国語教育の中の韓国朝鮮語と中国語 .....	12
III.	韓国朝鮮語教育の現状	
1.	導入の経緯 .....	14
2.	履修概要 .....	15
3.	教員をめぐる状況 .....	18
4.	教材と授業の工夫 .....	20
5.	修学旅行と姉妹校交流 .....	23
IV.	韓国朝鮮語教育の基盤作り	
1.	高等学校韓国語教師研修会の開催 .....	26
2.	ネットワークの形成とTJFの役割 .....	30
	韓国朝鮮語教育に取り組む高等学校 .....	31
	日本 고등학교에 있어서의 한국어 교육 .....	39-68

表で見る高等学校の韓国朝鮮語教育

項目	表 [No.]	ページ
地域	地域で見た取り組み校 [1] .....	7
	韓国朝鮮語と中国語教育の重なり [3] .....	8
	取り組み率 [4] .....	9
	公私立別の取り組み率 [5] .....	10
開始時期	講座名 [6] .....	11
	開始年度で見た取り組み校 [2] .....	7
	講座名 [7] .....	12
	地域と開始年度で見た講座名 [8] .....	13
公私立別	地域で見た取り組み校 [1] .....	7
	開始年度 [2] .....	7
	取り組み率 [5] .....	10
	地域で見た講座名 [6] .....	11
	開始年度で見た講座名 [7] .....	12
	地域と開始年度で見た講座名 [8] .....	13
	英語以外の外国語 [9] .....	13
	履修形態 [12] .....	16
	履修単位数 [14] .....	16
	学習者数 [17] .....	17
	海外修学旅行 [25] .....	24
履修概要	海外姉妹校 [26] .....	25
	設置学科 [10] .....	15
	専門高校 [11] .....	15
	履修形態 [12] .....	16
	履修期間 [13] .....	16
	履修単位数 [14] .....	16
	履修の単位数と形態 [15] .....	17
	履修単位数の多い取り組み校 [16] .....	17
	学習者数 [17] .....	17
	学習者数の多い取り組み校 [18] .....	18
教員	職名 [19] .....	19
	免許 [20] .....	19
	担当教員数 [21] .....	20
	担当教員の母語 [22] .....	20
	担当講師の母語 [23] .....	20
	授業時間数 [24] .....	21
交流	第1回教師研修会の参加者 [28] .....	27
	海外修学旅行 [25] .....	24
	海外姉妹校 [26] .....	25
	韓国・中国との姉妹校交流 [27] .....	25
外国語	英語以外の外国語 [9] .....	13

# I 国際文化フォーラム(TJF)と アジアの言語

21世紀を目前にして、ことばや文化の異なる人びとが出会い、ともに活動する機会が増えていくことに伴って、お互いのコミュニケーションを図る必要性がますます強まっています。国際文化フォーラム(TJF: The Japan Forum)は、そのようなコミュニケーションが円滑に行われるために、それぞれの人を育んできたことばや文化をお互いに理解することが重要だと考えています。なかでも、若い世代のための外国語教育と文化理解教育を重視し、中国、米国、オーストラリアを中心とするアジア太平洋地域の小中高における日本語教育をサポートするプログラムを実施しています。このような事業と平行して、TJFは日本の若い人々が英語だけでなくアジア地域のことばと文化を学びやすくするための教育環境づくりにも取り組んでいます。また、これらの地域の小中高生が日本の同世代の人々と相互に交流することも願って活動しています。

の教育に取り組む必要性を認めていたからです。調査の結果、韓国朝鮮語と中国語との教育に取り組む日本の高等学校が90年代に入つてから着実に広がっていることがわかりました。その一方で、必ずしも二つの言語教育の実態が明らかになっていないことがはっきりしました。また、教育環境の整備が十分でないことも確認できました。

## ■ 高等学校の中国語教育

こうした問題意識に基づいて、中国語教育を実施している高等学校を対象に、94年度に第1回のアンケートとインタビューによる調査を実施しました。調査で明らかになった学校現場の状況と課題を『いま高校の中国語教育を問い合わせ』と題して出版しましたが(96年)、この種の報告が初めてだったこともあり、大きな反響を呼びました。報告書の中でTJFは、課題を解決するための以下の提言を行いました。

1. 第二外国語としての中国語教育を積極的に推進する
2. 高校中国語のガイドラインを作成する
3. 高校中国語の標準テキストを編纂する
4. 資格をもった中国語担当教員を確保する
5. 教員を養成するとともに再研修の機会を提供する
6. 教員主導の研鑽の機会を充実させる
7. 教員の海外研修の機会をつくる
8. 一日も早く中国語指導助手 ACT<sup>注)</sup> 招致を実現させる

注) ACT: Assistant Chinese teacher

## 1 アジアの言語と中国語教育の調査

アジアの言語に関する事業の一環として、TJFはまず、1993年度に日本におけるアジア地域のことばの学習状況について事前調査を行いました。調査の対象は、韓国、中国、タイ、インドネシア各国の言語としました。その理由は、これらの国々の初等中等教育で日本語学習が盛んなことと、日本にとって最も身近なことばであるべき韓国朝鮮語と中国語

9. 教員間のネットワークを構築する
10. 中国語教育関連の情報を共有する

## 2 韓国朝鮮語と中国語教育の合同調査

97年度から98年度にかけて、第1回調査後の高等学校の中国語教育を取り巻く状況を追うとともに、韓国朝鮮語教育の実態を把握するために、二つの言語教育に関する合同調査と情報収集に取り組みました。合同調査にしたのは、取り組み校が重なっていたことと、共通する点が多いと思われる二つの言語の教育事情を比較することによって、それぞれの言語教育について掘り下げた見方ができると考えたためです。

### ■ 調査対象

今回の合同調査では、97-98年度の時点で韓国朝鮮語または中国語教育を実施していた学校だけでなく、講座開設を計画または希望している学校や、以前は実施していた学校も対象としました。二つの言語教育の置かれた状況は必ずしも安定したものではなく、現状を捉えるためには、ある年度の実施状況だけではなく、数年間におよぶ動きを見る必要があると考えたからです。実際、学校側の姿勢の変化、カリキュラム編成の変更、授業を行う教員の確保、講座の世話をする教諭の異動、履修希望者数の不足などによって、カリキュラムに組み込んだり、開設を予定していても開講に至らなかった例が見られました。

なお、韓国朝鮮語や中国語教育は必ずしも外国語科目の中だけで行われているわけではなく、課題研究や他教科の授業、必修クラブなど教科外活動として取り組んでいる場合も少なくないので、これらの一覧を調査対象に含めることにしました。

### ■ 調査経過

まず、先行調査・研究を参考にしながら、97年5月末までに韓国朝鮮語または中国語教育を実施している可能性のある高等学校375校をリストアップしました。97年6月から98年3月にかけて、これらの学校を対象にアンケート調査を実施しました。調査票を回収できなかった学校に対する電話インタビューによる確認を含めて、98年6月までに韓国朝鮮語教育130校、中国語教育308校の取り組み校を確認しました。アンケート調査の集計結果とこれらの高等学校の地域別リストは、中間報告として小冊子を発行するとともにTJFのホームページ(<http://www.tjf.or.jp/>)に掲載しました。

アンケート調査の回答者は、高等学校の韓国朝鮮語と中国語教育に携わる教員が大半ですが、回答された調査票から読み取れる内容には限界があります。98年度に入ってから、それを補うために二つの言語教育に取り組んでいる学校を訪問し、講座を担当する教員や学校関係者へのインタビュー、教師研修会や教員との座談会を通じて取材しました。教育委員会や大学関係者などからも取材し、周辺情報を得てきました。

### ■ このレポートがめざすもの

2年間におよぶ調査の結果、図に示したように、98年度末現在で韓国朝鮮語教育165校、中国語教育353校、共通するもの107校の取り組みを確認できました。このレポートは、アンケート調査結果を表で示しながら、学校や教師の取り組み例をいくつか紹介することによって、日本の高等学校における二つの言語教育の現状と問題点をわかりやすく提示することをめざしています。

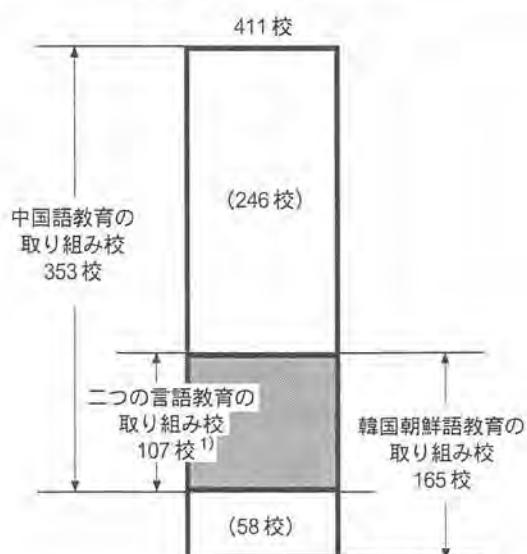
今回の調査と情報収集を通じて、修学旅行で韓国や中国語圏(中国・台湾・シンガポール・マレーシア)を訪れる学校が年々増えていることがわかりました。これら地域の学校と姉妹校関係を結んでいる学校が数多くあるこ

とも気づきました。こうした交流が言語学習と結びつくことによって、お互いの理解をさらに深めることになると思われます。

高等学校の韓国朝鮮語教育に関するこのレポートは、別冊の中国語教育に関するレポートと対をなしています。韓国や中国などの関係者の便に供するため、韓国朝鮮語教育のレポートは日本語とハングル表記、中国語教育のレポートは日本語と中国語による二部構成にしています。なお、このレポートの日本語部分における「韓国朝鮮語」は、日本でハングル、韓国語、朝鮮語などの名称で呼ばれている言語、「中国語」は普通话を示します。これらの用語について、ハングル表記は한국어(ハングゴ、韓国語)、중국어(チュングゴ、中国語)とします。

二冊のレポートによって、日本の高等学校における外国語教育の一端を、それぞれの地域でご理解いただくことにも大いに意義があると考えています。

#### このレポートが対象とする取り組み校



注) 取り組み校： 調査時点で実施しているもの、以前実施していたもの、開講予定のあるもの、開講しているが実施していないものを対象とする。一部の教科外活動を含む。

1) 中国語の取り組み校の30.3%、韓国朝鮮語の取り組み校の64.8%に相当する。

# 韓国朝鮮語と中国語教育の取り組み校

韓国朝鮮語と中国語教育に取り組む高等學校の都道府県別の数は表1のとおりです。97年度に実施したアンケート調査を土台に、98年度中に確認したものを加えてあります。履修概要などを含む取り組み校のリストをレポートの中央部分(pp. 31-37)に挿入しました。リストはTJFのホームページに掲載し、隨時更新しています。

二つの言語教育の現状を浮き彫りにするために、97-98年度時点で実施していた学校だけでなく、調査時点で99年度以降の開講を予定している学校、96年度以前に実施していながら97-98年度には実施しなかった学校も含めました。このレポートでは、<取り組み校>という用語をこれらの学校すべてを含むものとして使っています。また、講座がカリキュラムに組み込まれている状態を<開講>としています。新たに導入する場合は、実際に講座がスタートした年度を開始時期と見なしています。

このレポートが対象とするのは日本の高等学校(98年度現在、全国で5,493校)<sup>注1)</sup>における外国語教育の中の韓国朝鮮語と中国語に関する教育であり、専修学校や各種学校は対象としていません。また、韓国学校・学園、朝鮮学校などの民族系学校<sup>注2)</sup>で実施されている言語教育も今回のアンケート調査の対象としません。

注1) 平成10年度学校基本調査報告書(文部省)

注2) 民族系学校の中で大阪の金剛学園と建国高等学校は、それぞれ51年度と86年度から学校教育法第一条に定める高等学校となっているので、取り組み校リストに掲載するとともに、表データに含めている。

## 1 二つの言語教育の広がり

表1と2に、地域と開始時期ごとの取り組み校数を公私立別に示しました。それぞれの地域と時期による状況の変化とともに、公立校と私立校では取り組み方に違いが見られます。二つの言語教育について全国的に捉えることと同時に、もう一步掘り下げる、地域ごと、公私立校ごと、さらには学校ごとの取り組みを見ることが重要だと考えています。

### ■ 80年代後半から増加する取り組み校

表2に見られるように、韓国朝鮮語と中国語教育の取り組み校は80年代後半から増加しています。87年度から98年度にかけて、韓国朝鮮語は年平均9.4校、中国語は年平均21.8校の割合で取り組み校が増加しています。87年に提出された臨時教育審議会の最終答申で、中高における選択科目の多様化が提案されたり、学習指導要領が改訂されるなど、英語教育を中心にコミュニケーション手段や国際理解のための外国語教育が重視されるようになったことも背景にあると考えられます。

91年度に「外国語教育多様化研究協力校」が設けられ、英語以外の外国語教育に関する研究が始まりました。93年には「外国語教育の改善に関する調査研究協力者会議」と「高等学校教育の改革の推進に関する会議」が、相次いで報告書を発行しました。前者の報告書「中学校高等学校における外国語教育改善の在り方について」では、近隣のアジア地域の言語をはじ

表1 地域で見た取り組み校

都道府県	中国語(C)			韓国朝鮮語(K)			C∩K <sup>1)</sup>		
	合計	公立	私立	合計	公立	私立	合計	公立	私立
北海道	4	2	2	3	1	2	1	1	-
青森	1	-	1	-	-	-	-	-	-
岩手	2	2	-	3	2	1	1	1	-
宮城	4	3	1	3	1	2	2	1	1
秋田	1	1	-	-	-	-	-	-	-
山形	4	3	1	2	-	2	1	-	1
福島	2	1	1	-	-	-	-	-	-
茨城	3	2	1	-	-	-	-	-	-
栃木	3	2	1	-	-	-	-	-	-
群馬	6	1	5	1	-	1	1	-	1
埼玉	18	12	6	4	-	4	3	-	3
千葉	14	8	6	2	1	1	2	1	1
東京	51	28	23	12	9	3	11	8	3
神奈川	21	15	6	6	5	1	3	2	1
新潟	1	1	-	1	1	-	1	1	-
山梨	2	2	-	-	-	-	-	-	-
長野	2	1	1	3	2	1	1	1	-
富山	5	4	1	1	1	-	-	-	-
石川	3	3	-	3	3	-	3	3	-
福井	4	1	3	2	-	2	2	-	2
岐阜	6	4	2	1	1	-	1	1	-
静岡	7	4	3	-	-	-	-	-	-
愛知	9	4	5	1	-	1	1	-	1
三重	3	3	-	1	1	-	1	1	-
滋賀	8	7	1	5	4	1	4	3	1
京都	15	6	9	6	2	4	6	2	4
大阪	28	22	6	32	26	6	15	13	2
兵庫	24	21	3	11	10	1	8	7	1
奈良	4	3	1	2	1	1	2	1	1
和歌山	5	4	1	1	-	1	-	-	-
鳥取	4	4	-	4	4	-	2	2	-
島根	4	4	-	3	3	-	2	2	-
岡山	6	3	3	-	-	-	-	-	-
広島	6	6	-	16	11	5	6	6	-
山口	6	4	2	3	2	1	2	2	-
徳島	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛	-	-	-	2	2	-	-	-	-
高知	2	1	1	-	-	-	-	-	-
福岡	18	13	5	8	4	4	8	4	4
佐賀	8	7	1	4	4	-	2	2	-
長崎	9	8	1	1	1	-	-	-	-
熊本	5	3	2	5	2	3	2	1	1
大分	9	5	4	6	3	3	6	3	3
宮崎	5	4	1	4	3	1	4	3	1
鹿児島	3	2	1	1	1	-	1	1	-
沖縄	8	8	-	2	2	-	2	2	-
合計	353	242	111	165	113	52	107	75	32

1) 二つの言語教育にともに取り組んでいる学校

表2 開始年度で見た取り組み校

年度	中国語			韓国朝鮮語			同時 開講
	合計	公立	私立	合計	公立	私立	
未定	1	-	1	4	2	2	-
2001	1	1	-	1	1	-	1
2000	2	2	-	3	3	-	2
1999	15	11	4	13	11	2	4
1998	18	16	2	21	18	3	10
1997	31	23	8	22	18	4	9
1996	27	21	6	11	9	2	5
1995	37	27	10	7	4	3	3
1994	20	15	5	21	9	12	5
1993	20	15	5	8	5	3	3
1992	17	13	4	6	4	2	2
1991	25	15	10	6	4	2	3
1990	19	15	4	2	-	2	1
1989	18	10	8	2	1	1	-
1988	13	9	4	2	1	1	1
1987	16	11	5	5	1	4	3
1986	6	3	3	-	-	-	-
1985	6	2	4	1	-	1	-
1984	2	-	2	-	-	-	-
1983	3	2	1	-	-	-	-
1982	2	2	-	1	1	-	-
1981	-	-	-	-	-	-	-
1980	1	-	1	1	1	-	-
1979	4	3	1	-	-	-	-
1978	-	-	-	1	1	-	-
1977	-	-	-	1	1	-	-
1976	-	-	-	1	1	-	-
1975	-	-	-	1	1	-	-
1974	1	-	1	-	-	-	-
1973	4	-	4	2	1	1	-
1972	-	-	-	-	-	-	-
1971	-	-	-	-	-	-	-
1970	3	-	3	-	-	-	-
1969以前	8	6	2	2	-	2	-
不明	33	20	13	20	15	5	-
合計	353	242	111	165	113	52	52

表3 二つの言語教育の取り組み校

都道府県 (学校数)	学校 <sup>1)</sup> *私立	開始年度 <sup>2)</sup>			都道府県 (学校数)	学校 <sup>1)</sup> *私立	開始年度 <sup>2)</sup>		
		C	K	ほかの外国語			C	K	ほかの外国語
北海道 (1)	札幌国際情報	96 → 97		仏露		佐野工業定時制	98 ← 91		
岩手 (1)	不来方	87 → 89		仏独西		此花総合(市)	99 = 99		仏
宮城 (2)	*仙台育英学園 宮城野	91 → 97 97 = 97		仏	兵庫 (8)	姫路商業	79 → 未		
山形 (1)	*山形城北女子	未 ← 88		仏		*関西学院高等部	86 → 94		仏独
群馬 (1)	*白根開善	95 ← 94				湊川	87 = 87		
埼玉 (3)	*自由の森学園 *慶應義塾志木 *立教	85 → 87 91 = 91 96 = 96		仏西 仏独ほか17 仏独西露ほか2		尼崎(市)	98 = 98		
千葉 (2)	*千葉明徳 流山東	93 → 94 98 = 98				神戸甲北	98 = 98		ほか2
東京 (11)	*武蔵 *桜美林 国際	73 → 90 88 → 99 89 → 92		仏独		尼崎	99 = 99		
	都立大学附属	90 [94]		仏独西		六甲アイランド(市)	00 = 00		仏
	飛鳥	94 ← 80		仏		芦屋(市)	[97] ?		
	葛西南定時制	95 = 95			奈良 (2)	*天理教校親里	89 → 94		仏西ほか1
	西	97 = 97		仏独		山辺	97 = 97		
	日比谷	97 = 97		仏独		鳥取 (2)	米子	92 → 93	
	晴海総合	97 → 99		仏独西		青谷	95 = 95		
	*芝浦工業大学	98 = 98		仏		島根 (2)	浜田商業	97 = 97	
	狛江	[95] → 98		仏		邇摩	98 = 98		
神奈川 (3)	*栄光学園 神奈川総合	80 → 94 96 ← 95		仏独西		広島 (6)	安芸府中	92 → 94	仏ほか1
	大師	97 → 98		仏西		広島商業	93 = 93		
新潟 (1)	新潟商業	94 = 94		露		大竹	98 = 98		
長野 (1)	塩尻	01 = 01				三次青陵	98 = 98		
石川 (3)	金沢辰巳丘	95 → 99		仏独露		舟入(市)	99 = 99		
	金沢伏見	96 = 96				広島觀音	00 = 00		
	金沢北陵	97 → 未			山口 (2)	響	97 ← 96		
福井 (2)	*啓新	89 [94]				下関国際	[98] [98]		
	*敦賀気比	94 = 94			福岡 (8)	戸畠商業(市)	69 → 95		
岐阜 (1)	土岐紅陵	98 → 99				*九州国際大学付属	94 = 94		
愛知 (1)	*安城学園	90 = 90				東鷹	94 = 94		
三重 (1)	昂学園	96 = 96				*沖学園	97 → 99		
滋賀 (4)	守山女子(市)	87 → 99				*慶成	98 = 98		
	国際情報	88 = 88				博多青松	98 → 99		
	*近江兄弟社	94 = 94				福岡女子(市)	[95] 94		
	水口	95 → 96				*福岡第一	? ?		
京都 (6)	*南京都	94 → 未			佐賀 (2)	高志館	92 → 97		
	日吉ヶ丘(市)	96 → 97		独西		神崎清明	96 → [97]		
	*同志社国際	97 = 97		仏独西		熊本 (2)	東稜	87 = 87	
	*花園	97 = 97				*玉名女子	92 = 92		
	嵯峨野	97 → 98		仏西		大分 (6)	*別府大学附属	93 → [97]	
	*同志社	[97] ?		仏独		*日本文理大学附属	95 = 95		
大阪 (15)	*帝塚山学院泉ヶ丘	84 → 87		仏西		大分東	96 = 96		仏独
	*大阪体育大学浪商	89 → 95		独		日田三隅	97 = 97		
	住吉	91 = 91		仏西		日出陽谷	98 = 98		
	桃谷通信制・定時制	92 = 92				*楊志館	99 ← 93		
	旭	92 ?		仏独		宮崎 (4)	*日章学園	87 = 87	
	佐野	92 ?		仏独西		富島	90 → 98		
	阪南	93 = 93				本庄	91 = 91		
	松原	93 = 93		仏西		都農	98 = 98		
	枚方	93 → 97		仏独西		鹿児島 (1)	鹿児島東	86 → 98	仏西
	箕面	93 ?		仏独西		沖縄 (2)	向陽	95 → 97	
	花園	95 ← 94					那霸国際	99 = 99	仏独西
	西	96 = 96		仏					
	柴島	97 = 97		仏					

1) 都道府県ごとの中国語の開始年度順 (同年の場合は韓国朝鮮語の開始年度順) に掲載した。

2) 開始年度は西暦19--、20--の--のみ記載した。

C : 中国語 K : 韓国朝鮮語

= : 同時開講 → : 中国語が先行 ← : 韓国朝鮮語が先行

[ ] : 実施が確認されている年度 ? : 開始年度が不明

未 : 開始年度が未定

め英語以外のさまざまな外国語教育推進の必要性が強調されました。後者の報告を受けて、総合学科や単位制高校などの新しいタイプの高等学校と特色ある学科やコースの設置が促進されました。

二つの言語教育に取り組む高等学校の重なりは、表1と3に示したとおり107校(表中のC△K、公立75、私立32)であり、公立校の数が私立校の約2.3倍となっています。これらの学校における韓国朝鮮語と中国語の導入時期の前後関係を表3に示しました。多くは中国語先行型になっていますが、韓国朝鮮語先行型も一部(8校、7.5%)見られます。二つの言語教育を同時に開講した学校は52校(表2)あり、87年度以後に集中しています。107校のうち、英語以外の外国语として韓国朝鮮語と中国語だけを開講している学校が64校(59.8%)あり、中国・四国と九州地域に多く見られます。

### ■ 地域と公私立別の取り組み率

表1に示したように、98年度末で韓国朝鮮語の取り組み校が確認できていない県は、関東北部・東北・四国地域などの計11県です。中国語の取り組み校は全国的に広がっており、98年度末の時点で取り組み校を確認できなかったのは徳島、香川、愛媛の3県だけです。

地域と公私立校ごとの取り組みの違いを見るために、取り組み率(ある地域の高等学校数に対する取り組み校の割合、%)を、都道府県別・公私立別に算出してみました。表4に、それぞれの言語といずれかの言語の取り組み校(CUK)について取り組み率を示しています。また、表5に公私立別の取り組み率を示しました。これらの表から、地域と公私立校ごとの取り組みの特徴が浮き彫りになってくると思います。

全国的な割合を見ると、全高等学校の7.5%、公立校の6.7%、私立校の10.0%が韓国朝鮮語または中国語教育に取り組んでいます。韓国朝鮮語は全高等学校の3.0%、公立校の2.7%、私立校の4.0%、中国語は全高等学校の6.4%、公立校の5.8%、私立校の8.4%となっています。

表4 地域で見た取り組み率

都道府県	中国語 (C)	韓国朝鮮語 (K)	C△K <sup>1)</sup>
北海道	1.2	0.9	1.8
青森	1.1	-	1.1
岩手	2.0	3.0	4.0
宮城	3.5	2.7	4.4
秋田	1.5	-	1.5
山形	5.6	2.8	7.0
福島	1.8	-	1.8
茨城	2.3	-	2.3
栃木	3.6	-	3.6
群馬	6.9	1.1	6.9
埼玉	8.5	1.9	9.0
千葉	6.8	1.0	6.8
東京	11.1	2.6	11.4
神奈川	8.0	2.3	9.2
新潟	0.8	0.8	0.8
山梨	3.9	-	3.9
長野	1.9	2.8	3.7
富山	8.5	1.7	10.2
石川	4.5	4.5	4.5
福井	10.3	5.1	10.3
岐阜	6.4	1.1	6.4
静岡	4.7	-	4.7
愛知	3.9	0.4	3.9
三重	3.8	1.3	3.8
滋賀	13.8	8.6	15.5
京都	14.4	5.8	14.4
大阪	9.9	11.3	15.8
兵庫	10.4	4.8	11.7
奈良	6.2	3.1	6.2
和歌山	9.3	1.9	11.1
鳥取	11.4	11.4	17.1
島根	7.8	5.9	9.8
岡山	5.6	-	5.6
広島	4.3	11.3	11.3
山口	6.5	3.3	7.6
徳島	-	-	-
香川	-	-	-
愛媛	0.0	2.7	2.7
高知	3.8	-	3.8
福岡	9.7	4.3	9.7
佐賀	17.4	8.7	21.7
長崎	10.2	1.1	11.4
熊本	5.9	5.9	9.4
大分	11.7	7.8	11.7
宮崎	8.5	6.8	8.5
鹿児島	2.9	1.0	2.9
沖縄	12.1	3.0	12.1
全国	6.4	3.0	7.5

注) 都道府県別の高等学校の数は、平成10年度 学校基本調査報告書(文部省)による。

1) 二つの言語教育いずれかの取り組み校

表5 公私立別の取り組み率

都道府県	公 立			私 立		
	中国語 (C)	韓国朝鮮語 (K)	C U K <sup>1)</sup>	中国語 (C)	韓国朝鮮語 (K)	C U K <sup>1)</sup>
北海道	0.7	0.3	0.7	3.7	3.7	7.4
青森	-	-	-	5.9	-	5.9
岩手	2.3	2.3	3.4	-	7.7	7.7
宮城	3.2	1.1	3.2	5.3	10.5	10.5
秋田	1.7	-	1.7	-	-	-
山形	5.4	-	5.4	6.7	13.3	13.3
福島	1.0	-	1.0	5.9	-	5.9
茨城	1.8	-	1.8	4.8	-	4.8
栃木	2.9	-	2.9	6.7	-	6.7
群馬	1.4	-	1.4	38.5	7.7	38.5
埼玉	7.3	-	7.3	13.0	8.7	15.2
千葉	5.3	0.7	5.3	10.9	1.8	10.9
東京	12.7	4.1	13.1	9.7	1.3	9.7
神奈川	8.1	2.7	9.7	7.9	1.3	7.9
新潟	0.9	0.9	0.9	-	-	-
山梨	5.0	-	5.0	-	-	-
長野	1.1	2.2	2.2	6.3	6.3	12.5
富山	8.0	2.0	10.0	11.1	-	11.1
石川	5.4	5.4	5.4	-	-	0.0
福井	3.1	-	3.1	42.9	28.6	42.9
岐阜	5.1	1.3	5.1	12.5	-	12.5
静岡	3.8	-	3.8	7.0	-	7.0
愛知	2.3	-	2.3	8.9	1.8	8.9
三重	4.6	1.5	4.6	-	-	-
滋賀	14.0	8.0	16.0	12.5	12.5	12.5
京都	9.2	3.1	9.2	23.1	10.3	23.1
大阪	11.6	13.8	18.5	6.3	6.3	10.5
兵庫	11.8	5.6	13.5	5.8	1.9	5.8
奈良	6.1	2.0	6.1	6.3	6.3	6.3
和歌山	8.7	-	8.7	12.5	12.5	25.0
鳥取	13.8	13.8	20.7	-	-	-
島根	9.8	7.3	12.2	-	-	-
岡山	3.6	-	3.6	12.5	-	12.5
広島	5.7	10.4	10.4	-	14.3	14.3
山口	5.6	2.8	5.6	10.0	5.0	15.0
徳島	-	-	-	-	-	-
香川	-	-	-	-	-	-
愛媛	-	3.2	3.2	-	-	-
高知	2.2	-	2.2	12.5	-	12.5
福岡	10.5	3.2	10.5	8.1	6.5	8.1
佐賀	18.4	10.5	23.7	12.5	-	12.5
長崎	11.9	1.5	13.4	4.8	-	4.8
熊本	4.8	3.2	6.3	9.1	13.6	18.2
大分	8.2	4.9	8.2	25.0	18.8	25.0
宮崎	9.1	6.8	9.1	6.7	6.7	6.7
鹿児島	2.4	1.2	2.4	4.5	-	4.5
沖縄	12.9	3.2	12.9	-	-	-
全国	5.8	2.7	6.7	8.4	4.0	10.0

注) 都道府県別の高等学校の数は、平成10年度 学校基本調査報告書(文部省)による。

1) 二つの言語教育いずれかの取り組み校

## 2 講座名で見た韓国朝鮮語教育

表6と表7、8(pp. 12-13)に講座名と地域別、導入時期で見た取り組み状況を示しました。全国的に見ると、講座名にハングルを用いている学校が講座名を確認できた学校(140校)の42.1%、韓国語が24.3%、朝鮮語が20.0%、韓国朝鮮語が13.6%となっています。また、公立校の約半数がハングル、私立校の約半数が韓国語を講座名として使っています。以下、( )内に導入年度を示し、同年度の場合は、広島・熊本(87)のように記します。

最も多くの学校で使われているハングルという名称を初めて使用したのは大阪(85)で、岩手(89)、愛知(90)、和歌山・宮崎(91)が統きました。その後、地域的にも広がりを見せ、現在28都道府県で使用されています。公私立別に見ると、ハングルを使用している学校の81.4%が公立校です。韓国語という名称は、46年度の2校(いずれも民族系の高等学校)を除いて、87年度以後に埼玉・大阪・宮崎(87)、山形・滋賀(88)、熊本(89)で導入され、21道府県に及んでいます。公私立別に見ると、韓国語を講座名に使っている学校の67.6%が私立校です。ハングルと韓国語の使用については、84年度に始まったNHKのハングル講座や88年に開催されたソウル・オリンピックの影響などが考えられます。

73年度から82年度の間に韓国朝鮮語教育を導入した学校は兵庫・広島・大阪・東京の順であり、いずれも講座名として朝鮮語を使っています。87年に熊本県が加わり、91年度以後これらを含む8都府県で使われています。兵庫では公立校の半数(他の半数はハングル)、大阪では公立校の約三分の一(約半数が韓国朝鮮語)で使われており、東京・広島では公立校の半数を超えていました。

韓国朝鮮語という名称が使われるるのは90年度以降で、東京(90)、大阪(91)、広島(93)と統きます。6都府県で使用されており、半数以上が大阪に集中しています。ハングルと同じくほとんどが公立校です。

表6 地域で見た講座名

	ハングル			韓国語			朝鮮語 <sup>1)</sup>			韓国朝鮮語 <sup>2)</sup>			合計		
	公立	私立	計	公立	私立	計	公立	私立	計	公立	私立	計	公立	私立	計
北海道	1	1	2			1	1						1	2	3
青森													-	-	-
岩手	2	1	3										2	1	3
宮城	1	1	2			1	1						1	2	3
秋田													-	-	-
山形				2	2								-	2	2
福島													-	-	-
茨城													-	-	-
栃木													-	-	-
群馬				1	1								-	1	1
埼玉					1	1		1	1		1	1	-	3	3
千葉	1	1			1	1							1	1	2
東京	4	1	5			5		5		1	1	9	2	11	
神奈川	3	1	4									3	1	4	
新潟	1	1										1	-	1	
山梨												-	-	-	
長野	2	2					1	1				2	1	3	
富山	1	1										1	-	1	
石川	1	1	1		1	1						2	-	2	
福井		1	1			1	1					-	2	2	
岐阜	1	1										1	-	1	
静岡												-	-	-	
愛知		1	1									-	1	1	
三重	1	1										1	-	1	
滋賀	3	3		1	1	2						4	1	5	
京都	1	2	3							1	1	2	3	5	
大阪	2	1	3		3	3	6		6	9	2	11	17	6	23
兵庫	4	4					4	1	5			8	1	9	
奈良				1	1	1		1	1			1	1	2	
和歌山		1	1									-	1	1	
鳥取	4	4										4	-	4	
島根				3	3							3	-	3	
岡山												-	-	-	
広島	2	2		1	1	5	3	8	2		2	9	4	13	
山口	2	2		1	1							2	1	3	
徳島												-	-	-	
香川												-	-	-	
愛媛	2	2										2	-	2	
高知												-	-	-	
福岡	2	2	1	2	3							3	2	5	
佐賀	4	4										4	-	4	
長崎												-	-	-	
熊本				1	3	4	1		1			2	3	5	
大分	1	1	1	2	3					2	2	3	3	6	
宮崎	2	2		1	1							2	1	3	
鹿児島				1	1							1	-	1	
沖縄				2	2							2	-	2	
合計	47	12	59	11	23	34	22	6	28	14	5	19	94	46	140

1) チヨソン語 [1] を含む

2) 朝鮮韓国語 [1]、朝鮮語(韓国語) [1] を含む

### 3 外国語教育の中の韓国朝鮮語と中国語

ここまで、二つの言語教育の取り組み校の概要を地域、開始年度、公私立別に見てきました。ここで日本の高等学校の外国語教育における韓国朝鮮語と中国語の位置づけを見たいと思います。

表9は、英語以外の外国語教育に取り組んでいる高等学校の現状を示しています。全国的に見ると、90年度以降は中国語が最も多く、97年度に303校となっています。同年に韓国朝鮮語は103校で、フランス語の191校に次いで多くの学校で開講されています。それぞれの学習者数が高等学校の全生徒数<sup>注)</sup>に占める割合を見ると、中国語が15,390名で0.35%、韓国朝鮮語が3,929名で0.09%であり、高校生1,000人あたり

の学習者は、それぞれ3.5人と0.9人となっています。フランス語、ドイツ語、スペイン語、ロシア語は、それぞれ、1,000人あたり2.1人、1.1人、0.5人、0.2人であり、英語以外の外国語学習者はきわめて少数であることがわかります。ただし、これらの言語の取り組み校と学習者数が年ごとに増加していることも事実です。

<sup>注)</sup>97年度の生徒数4,371,360名。平成10年度学校基本調査報告書(文部省)に基づく

表7 開始年度で見た講座名

年度	ハングル			韓国語			朝鮮語 <sup>1)</sup>			韓国朝鮮語 <sup>2)</sup>			合計		
	公立	私立	計	公立	私立	計	公立	私立	計	公立	私立	計	公立	私立	計
未定	1		1										1	-	1
2001	1		1										1	-	1
2000	1		1				1		1	1		1	3	-	3
1999	5		5	2		2	1		1				8	-	8
1998	8	1	9	2	1	3	3		3	3	1	4	16	3	19
1997	9	3	12	3		3	3		3	2	1	3	17	4	21
1996	5		5	2		2		2	2	1		1	8	2	10
1995	2	1	3	1	1	2	1		1		1	1	4	3	7
1994	5	2	7		8	8	1	2	3	2		2	8	12	20
1993	2	1	3		1	1			3		3	5	2		7
1992	2		2		2	2	2		2			4	2		6
1991	2	1	3				1		1	1	2	4	2		6
1990		1	1							1	1		2		2
1989	1		1		1	1						1	1		2
1988				1	1	2						1	1		2
1987					3	3	1	1	2			1	4		5
1985		1	1									-	1		1
1982							1		1			1	-		1
1980							1		1			1	-		1
1978							1		1			1	-		1
1977							1		1			1	-		1
1976							1		1			1	-		1
1975							1		1			1	-		1
1973								1	1	2			1	1	2
1946					2	2						-	2		2
不明	3	1	4		3	3	1		1	1	1	5	4		9
合計	47	12	59	11	23	34	22	6	28	14	5	19	94	46	140

1) チヨン語[1]を含む

2) 朝鮮韓国語[1]、朝鮮語(韓国語)[1]を含む

表8 地域と開始年度で見た講座名

年度	ハンガル	韓国語	朝鮮語 <sup>1)</sup>	韓国朝鮮語 <sup>2)</sup>	校数
未定	1 滋賀				1
2001	1 長野				1
2000	1 兵庫		1 広島	1 広島	3
1999	5 岐阜、滋賀、大阪、兵庫、広島	2 石川、沖縄	1 東京		8
1998	9 千葉、東京(1+1*)、神奈川、富山、兵庫(2)、鳥取、宮崎	3 島根、福岡*、鹿児島	3 兵庫、広島(2)	4 大阪(2*)、大分、京都 <sup>a</sup>	19
1997	12 北海道、岩手、宮城(1+1*)、東京(2)、京都(1+1*)、鳥取、愛媛(2)、佐賀	3 島根、熊本、沖縄	3 大阪、奈良、広島	3 京都*、大阪、大分	21
1996	5 長野、石川、三重、滋賀、山口	2 島根、大分	2 埼玉*、長野*	1 大阪	10
1995	3 神奈川、鳥取、大分*	2 広島*、福岡	1 東京	1 大阪*	7
1994	7 神奈川*、新潟、福井*、広島、福岡(2)、佐賀	8 宮城*、山形*、群馬*、千葉*、滋賀*、奈良*、福岡*、熊本*	3 兵庫*、広島(1+1*)	2 大阪(2)	20
1993	3 北海道*、大阪、鳥取	1 大分*		3 大阪(2)、広島	7
1992	2 神奈川、佐賀	2 山口*、熊本*	2 東京、大阪		6
1991	3 岩手、和歌山*、宮崎		1 大阪	2 大阪、埼玉*	6
1990	1 愛知*			1 東京*	2
1989	1 岩手	1 熊本*			2
1988		2 山形*、滋賀			2
1987		3 埼玉*、大阪*、宮崎*	2 広島*、熊本		5
1985	1 大阪*				1
1982			1 東京		1
1980			1 東京		1
1978			1 大阪		1
1977			1 大阪		1
1976			1 大阪		1
1975			1 兵庫		1
1973			2 兵庫、広島*		2
1946		2 大阪(2*)			2
不明	4 東京、京都*、山口、佐賀	3 北海道*、福井*、大分*	1 兵庫	1 大阪	9
合計	59 (*11; 18.6%)	34 (*23; 67.6%)	28 (*6; 21.4%)	19 (*6; 31.6%)	140

1) チョソングル語[1]を含む 2) 朝鮮韓国語[1]、朝鮮語(韓国語)[1]を含む

\* 私立校 合計( )内に、私立校の数と割合を示す a. 朝鮮韓国語 b. 朝鮮語(韓国語) c. チョソングル語

表9 英語以外の外国語を開講する高等学校

言語	学校数						履修者数					
	1986	1988	1990	1993	1995	1997	1986	1988	1990	1993	1995	1997
中国語	公立	19	40	64	96	124	201	7,915				
	私立	27	31	47	58	68	102	7,475				
	合計	46	71	111	154	192	303	15,390				
韓国朝鮮語 <sup>1)</sup>	公立	4	8	10	25	47	64	2,046				
	私立	3	6	14	17	26	39	1,883				
	合計	7	14	24	42	73	103	3,929				
フランス語	公立	26	34	44	57	74	101	3,448				
	私立	49	55	63	71	73	90	5,739				
	合計	75	89	107	128	147	191	9,187				
ドイツ語	公立	17	24	31	37	43	55	1,549				
	私立	26	30	30	36	32	42	3,218				
	合計	43	54	61	73	75	97	4,767				
スペイン語	公立	7	9	13	23	27	47	1,249				
	私立	12	12	18	16	16	21	987				
	合計	19	21	31	39	43	68	2,236				
ロシア語	公立	1	2	3	5	11	11	315				
	私立	1	2	3	6	9	10	504				
	合計	2	4	6	11	20	21	819				
その他の	公立	0	0	0	0	0	5	71				
外国語	私立	6	6	5	6	20	21	324				
	合計	6	6	5	6	20	26	395				
合計	公立	74	117	165	243	326	484	16,593				
	私立	124	142	180	211	244	325	20,130				
	合計	198	259	345	454	570	809	36,723				

資料：高等学校における国際交流等の状況（文部省）

1) 文部省資料では朝鮮・韓国語

# 韓国朝鮮語教育の現状

## 中国語教育との比較で見る

各校における韓国朝鮮語と中国語教育の開講にいたる経緯や取り組みの内容は、地域や導入時期、学校の特性などによってさまざまであり、一様に論することはできません。そこで、韓国朝鮮語の取り組みの具体例を紹介することによって現状を浮き彫りにしたいと思います。なお、講座名については、ハングルや韓国語など、各学校が使っている名称を用います。

### 1 導入の経緯

取り組みに影響を及ぼす要因は、個々の学校で開講を推進し、維持している教員の努力、学校の改編(普通科・商業科から総合学科、統廃合など)、校長や理事長などの考え方、自治体の国際化政策など、さまざまです。以下、学校や教育委員会などの例を紹介します。文章や発言を引用する場合、[ ]に筆者または発言者の姓を記します。

◆ 兵庫県立湊川 全国に先駆けて73年に朝鮮語を必修正科として開講した。今でこそ全国約150校余りの高校で授業が行われ、少しほとんど國語としての市民権を得ようとしているが、隣国のことばが日本の公教育の中に入る余地すらなかった時代に、ことばを学ぶことを通して隣国を(「在日」も含め)正しく理解し、友好を深めようという目標を掲げて設置されたのである。開講に至るまでの努力と英断と先見性が、四半世紀を経て今ようやく実りを結びつつあると感じている。[方](表28参照)

◆ 鹿児島県立鹿児島東 86年、全国で2番目に国際教養科を設置した。当初から実施していた中国語に加え、98年度に韓国語、フランス語、スペイン語を導入した。1年生全員が、必修科目として中国語会話を2単位履修する。4つの言語のいずれかを2年次は2単位、3年次は3単位履修できるカリキュラムを組んでいる。コミュニケーション能力の育成を第一に考えた10-20名のクラス編成で、韓国語と中国語はネイティブ教員とのチームティーチングで行う。韓国、中国の学校との姉妹校交流を始めており、将来は交換留学につなげたいと考えている。

◆ 兵庫県教育委員会 多様な外国語を学ぶ機会を設けるため、87年度に3つの県立高校を会場にハングルと中国語講座を開始した。二つの言語を学ぶことを通じて近隣地域との友好を深めて欲しいという願いからだ。県立高校に通う全ての生徒を対象としている。授業は、土曜日(ほぼ隔週)の午後と夏季に行われる。クラブ活動や学校行事と重なることもあるが、出席状況が必ずしもよくないことや、講座の会場から遠い生徒の通学問題もあるが、一つのモデルとして注目される。湊川(ハングルと中国語)、神崎工業(中国語)、姫路北(中国語)の3校で実施している。履修単位数は2単位。

◆ 大阪府教育委員会 91年度から93年度にかけて府立高校9校に国際教養科を設置した。語学教育の充実を特色の一つとしており、第二外国語をカリキュラムに組み込んでいる。旭・佐野・住吉・花園・枚方・箕面

の6校は韓国朝鮮語と中国語を、泉北・千里・長野の3校は中国語を開講している。旭は韓国、佐野・泉北・千里・花園・箕面は中国への修学旅行を実施している。韓国朝鮮語については、97-98年度に実施していない学校を含む。(表28参照)

◆ 鳥取県立青谷 友好都市である中国江蘇省太倉(タイツァン)市との交流を基盤に、環日本海交流の拠点をめざしていた青谷町と、生徒に目的意識を持たせるためのコース制導入を検討していた青谷高校の考えが一致し、95年度の国際コース誕生と同時に第二外国語としてハングルと中国語の授業を開始した。学校祭の一環として日韓中の高校生国際シンポジウムを青谷町が主催し、韓国慶尚南道の居昌(コチャン)商業高校と太倉師範学校から生徒と教員を招いている。ハングル講座の講師は、町が招致した国際交流員である。

## 2 履修概要

表10に韓国朝鮮語と中国語の講座を設置している学科を示しました。どちらも普通科が最も多くなっています。普通科に設置している学校でも一部のコースだけで開講している場合が多く、韓国朝鮮語は52校中14校(26.9%)、中国語は94校中42校(44.7%)がそうなっています。97年度以降は、幅広い選択科目を設置できる総合学科で二つの言語教育を取り入れるところが増えています。

韓国朝鮮語と中国語の同時開講52校のうち14校は総合学科に設置しています。総合学科での取り組みは韓国朝鮮語18校、中国語29校を確認しています。韓国朝鮮語は総合学科を設置している学校(98年度、全国で106校)の17.0%、中国語は27.4%に相当します。教育行政上も各通学地域に総合学科を持つ学校を1校ずつ設置することが目標となっており、総合学科の増加は二つの言語教育の広がりにつながることが期待されます。

◆ 神奈川県立大師 96年度に総合学科に移行し、97年度に中国語、フランス語、スペイン語、98年度にハングル、99年度にポルトガル語を開講した。6つの系列があり、地域国際系列の生徒が総合選択科目として履修している。

◆ 兵庫県立神戸甲北 97年度に普通科から総合学科へ移行した。アジア系の在日外国人が地域内に多く在住することから、「アジアと結ぶ」を学校の特色の一つに掲げ、外国語科目としてハングル、中国語、ベトナム語、インドネシア語を開講している。姉妹校関係にある韓国ウルサンの高校との間で、生徒の相互訪問を行っている。98年度に韓国へ修学旅行を実施した。

学校名に商業や工業などが含まれる専門(職業)高校での取り組み状況を表11に示しました。

表10 設置学科で見た取り組み校

学科	中国語	韓国朝鮮語
普通科	94	52
総合学科	29	18
国際経済科	22	4
商業科	19	4
国際科	14	6
国際教養科	14	6
国際文化科	7	3
外国語科	6	1
英語科	5	1
工業科	2	1
国際観光科	2	-
国際情報科	2	-
情報処理科	2	-
情報科	2	-

注) 一つの学校が複数の学科で取り組んでいる場合、重複がある。回答校のうち、2校以上で開講されている学科を記載した。

表11 専門高校での取り組み

専門高校	中国語	韓国朝鮮語
商業高校	43	8
工業高校	4	4
農業高校	1	1

韓国朝鮮語の場合、専門高校の中で商業高校の割合が最も多く、工業高校がこれに次いでいます。中国語は、取り組み校全体の12.2%が商業高校です。

表12に履修形態ごとの取り組み校数を示しました。最も多いのは自由選択で、韓国朝鮮語が53.2%、中国語が46.6%となっています。次に多いのが必修選択で、韓国朝鮮語33.3%、中国語32.8%となっています。韓国朝鮮語は87.3%が自由または必修選択で、必修は9.5%です。中国語は83.8%が自由または必修選択で、必修は12.5%です。必修と選択を組み合わせている学校が、それぞれ3.2%、3.7%あります。いずれの場合も選択科目として位置づける学

表12 履修形態で見た取り組み校

履修形態	中国語			韓国朝鮮語				
	合計	(%)	公立	私立	合計	(%)	公立	私立
自由選択	138	(46.6)	109	29	67	(53.2)	54	13
必修選択	97	(32.8)	77	20	42	(33.3)	33	9
必修	37	(12.5)	11	26	12	(9.5)	3	9
必修選択+自由選択	13	(4.4)	11	2	1	(0.8)	1	-
必修+必修選択	9	(3.0)	5	4	1	(0.8)	-	1
その他 <sup>1)</sup>	2	(0.7)	1	1	3	(2.4)	2	1
合計	296	(100.0)	214	82	126	(100.0)	93	33

注) 一つの学校が複数の学科で取り組んでいる場合、重複がある。

1) 必修+自由選択、必修+必修選択+自由選択

校が大半を占めています。

表13は、履修期間ごとの取り組み状況を示しています。選択の場合は、履修できる最長期間を意味します。履修期間1年の取り組み校が韓国朝鮮語52.7%、中国語46.9%、2年間がそれぞれ35.7%と38.5%であり、韓国朝鮮語の88.4%、中国語の85.3%で履修期間が1年または2年となっています。

◆ 自由の森学園(埼玉) 1年間で30时限しかなく、2年間の継続学習なので多くても90分授業が60回。学生に選択させることを基本に、1年間の場合は会話を優先させる。文法を学習したいという要望に対しては、2年間の継続学習を約束させる。学生のレベルを考えたうえで、目標について学生と話し合うのがよいと思う。文字と発音の問題から入ると、生徒に最初に与えるストレスが大きい。ストレスの大きさを理解してもらったうえで目標を立ててもらうようにしている。  
[黒澤] (表28参照)

表14に履修単位数ごとの開講状況を示しました。選択の場合は、履修できる最大単位数を意味します。韓国朝鮮語、中国語のいずれも2単位が最も多く、それぞれ40.8%と37.6%を占めています。次に多いのが4単位で、30.8%、29.3%

表13 履修期間で見た取り組み校

期間	学年	中国語(%)	韓国朝鮮語(%)
1年	1	6	6
	2	43	22
	3	72	30
	その他	13	10
		134 (46.9)	68 (52.7)
2年	1-2	9	6
	2-3	97	40
	その他	4	0
		110 (38.5)	46 (35.7)
3年以上	1-3	42	11
	その他	0	4
		42 (14.7)	15 (11.6)
合計		286 (100.0)	129 (100.0)

注) 一つの学校が複数の学科で取り組んでいる場合、重複がある。

表14 履修単位数で見た取り組み校

単位数	中国語			韓国朝鮮語				
	合計	(%)	公立	私立	合計	(%)	公立	私立
1	4	(1.4)	2	2	5	(4.2)	3	2
2	108	(37.6)	81	27	49	(40.8)	41	8
3	24	(8.4)	14	10	7	(5.8)	4	3
4	84	(29.3)	66	18	37	(30.8)	30	7
5	13	(4.5)	10	3	6	(5.0)	4	2
6	29	(10.1)	21	8	10	(8.3)	7	3
7	8	(2.8)	7	1	1	(0.8)	1	0
8	3	(1.0)	3	0	0	(0.0)	0	0
9	2	(0.7)	1	1	2	(1.7)	1	1
10-19	8	(2.8)	4	4	2	(1.7)	1	1
20-28	4	(1.4)	2	2	1	(0.8)	0	1
	287	(100.0)	211	76	120	(100.0)	92	28

注) 一つの学校が複数の学科で取り組んでいる場合、重複がある。

です。これらを合わせると、2または4単位の取り組み校が、韓国朝鮮語71.7%、中国語66.9%となります。表15は、履修単位数と形態を合わせて見たものです。

韓国朝鮮語、中国語とともに多くの学校で、選択科目として位置づけられており、履修単位数は2~4単位であることがわかります。表16に単位数の多い取り組み校を示しました。

韓国朝鮮語や中国語など英語以外の外国語を履修している生徒は、ほとんどの学校でごく一部に限られています。このことは学校ごとの学習者数(表17)にも表れています。1校あたりの学習者数は11名から20名規模のところが最も多く、韓国朝鮮語で25.4%、中国語で23.0%となっています。韓国朝鮮語の場合、10名以下が22.2%、101名以上が14.3%、31~40名が12.7%、21~30名が9.5%の順です。中国語の場合は、21~30名が回答数の15.3%、10名以下と101名以上が各11.5%、31~40名が10.0%の順です。学習者数が20名以下の学校は、韓国朝鮮語が47.6%、中国語が34.4%で、30名以下は57.1%と49.8%となっています。中国語は取り組み校の約半数が学習者数30名以下であり、韓国朝鮮語になると約半数が20名以下です。

表18(p. 18)は、これらの中で特に学習者数が多い学校を示します。韓国朝鮮語の場合は

学習者数が100名を超える高校10校のうち4校が私立校で、中国語の場合は150名を超える高校17校のうち13校が私立校です。韓国朝鮮語の上位6校は韓国へ修学旅行を実施しており、中国語では修学旅行以外にも語学研修や姉妹校提携を実施している学校が多く見られ

表16 履修単位数の多い取り組み校

学校 (*私立)	都府県	単位数	設置学科 (開始年度)
* 敦賀気比	福井	28	国際科ハングルコース (94-97)
* 金剛学園	大阪	13	普通科 (46)
佐野工業定時制	大阪	12	普通科 (91)
* 建国	大阪	9	(46)
下関国際	山口	9	[98]
長吉	大阪	7	普通科 (77)
* 酒田南	山形	6	(94)
花巻南	岩手	6	国際科 (91)
南葛飾定時制	東京	6	普通科 (82)
* 上田西	長野	6	(96)
* 同志社国際	京都	6	普通科 (97)
今宮工業定時制	大阪	6	普通科 (78)
阪南	大阪	6	普通科 (93)
神戸甲北	兵庫	6	総合学科 (98)
湊川	兵庫	6	普通科 (定時制) (73)
青谷	鳥取	6	普通科 (95)

注) 単位数が6単位以上の取り組み校を掲載した。

表17 学習者数で見た取り組み校

学習者数	中国語			韓国朝鮮語				
	合計	(%)	公立	私立	合計	(%)	公立	私立
2 - 10	24	(11.5)	19	5	14	(22.2)	12	2
11 - 20	48	(23.0)	34	14	16	(25.4)	7	9
21 - 30	32	(15.3)	27	5	6	(9.5)	4	2
31 - 40	21	(10.0)	17	4	8	(12.7)	6	2
41 - 50	10	(4.8)	7	3	4	(6.3)	2	2
51 - 60	17	(8.1)	11	6	2	(3.2)	1	1
61 - 70	12	(5.7)	9	3	3	(4.8)	1	2
71 - 80	10	(4.8)	8	2	0	(0.0)	0	0
81 - 90	6	(2.9)	3	3	0	(0.0)	0	0
91 - 100	5	(2.4)	5	0	1	(1.6)	1	0
101以上	24	(11.5)	7	17	9	(14.3)	5	4
学校数	209	(100.0)	147	62	63	(100.0)	39	24
学習者数	11,981		5,990	5,991	3,276		1,589	1,687

注) 文部省資料によれば、97年度の開設学校数(学習者数)は、中国語303(15,390)、韓国朝鮮語103(3,929)である。表はアンケート調査の回答分のみ。

表15 履修の単位数と形態で見た取り組み校

中国語				韓国朝鮮語				
単位数	自選	必選	必修	その他	自選	必選	必修	
1	1	0	3	0	2	0	3	0
2	52	42	13	1	30	15	3	1
3	11	9	4	0	6	1	0	0
4	40	35	3	6	19	16	0	2
5	6	4	1	2	1	4	1	0
6	17	4	6	2	4	3	2	1
7	1	1	1	5	0	1	0	0
8	2	0	0	1	0	0	0	0
9	1	0	0	1	1	0	1	0
10-19	0	1	4	3	0	1	0	1
20-28	0	0	2	2	0	0	1	0
	131	96	37	23	63	41	11	5

注) 回答数は中国語287、韓国朝鮮語120

ます。地域的に見ると、中国語が全国に広がっているのに対して、韓国朝鮮語は山形・東京（各1校）以外は関西以西に集中しています。

### 3 教員をめぐる状況

講座を担当する教員として中国語360名、韓国朝鮮語101名（いずれも延べ人数）を確認しました。複数の学校で教えている教員も多く、実際の人数はこれより少ないものと思われます。

調査では、講座の担当教員とともに、講座を担当する教科の教諭の役割に着目しました。担当教科の教諭は、韓国朝鮮語や中国語を導入するために、教職員や管理職を説得することから、講師の確保や受講生募集、教室の手配などを一手に引き受けるだけでなく、開講後も授業がある時間しか学校に来ない非常勤講師と生徒や学校側との調整役を務めるなど、講座運営に積極的に関わっています。こうした教師たち（本人が授業を受け持つ場合とそうでない場合がある）が韓国朝鮮語と中国語教育を支える大きな力となっています。次に、県立高校でハングル講座の導入に尽力した教員の文章を引用します。

◆ 長野県立松本蟻ヶ崎 ハングル基礎の授業を開講して3年が過ぎた。教材選びから

日々の授業展開まで、手探りで進めてきた。3年生の2単位の選択科目という開講形態の中で、何をどのように扱っていけばよいのか、試行錯誤の状況の中で、98年夏、韓国朝鮮語教育に携わる高校教師たちが会したこと自体、私にとって意義深いことだった。教科書・教材開発、韓国朝鮮語教育の普及、さまざまな開講形態に応じたガイドライン作り等々、やらなければならない課題の多さを考えると気が遠くなるほどだが、地に足をつけて、できることから一つひとつやっていくほかないと考えている。[西澤]（表28参照）

表19に、講師・教諭等の職名ごとの担当教員数を示しました。韓国朝鮮語、中国語いずれの場合も講師が多く、それぞれ59.4%、65.0%です。教諭の占める割合は、それぞれ33.7%、26.1%となっています。

表20に、教員免許ごとの教員数を示しました。中国語免許の保持者が63.9%であるのに対して、朝鮮語免許の保持者は37.3%であり、教員免許の保有率に大きな差があります。また、中国語は国語免許の保持者が42.2%いるのが特徴であり、韓国朝鮮語の場合は英語免許の保持者が27.5%いるのが特徴となっています。臨時免許の保持者は韓国朝鮮語が15.7%、中国語が5.6%です。担当教科の外国語免許（臨時を含む）を保持する者の割合は、中国語教員69.4%に対

表18 学習者数の多い取り組み校

学校名（*私立）	都府県	学習者数	履修形態（開始年度）	韓国との交流
*楊志館	大分	464	1年全員必修（93）	修学旅行
*酒田南	山形	315	各学年必修（94）	修学旅行
唐津商業	佐賀	210	商業科2-3年必修+自選（92）	修学旅行
菊池農業	熊本	207	1年全員必修（97）	修学旅行
*早鞆	山口	180	普通科、商業科、家政科2年必修（92）	修学旅行
*建国	大阪	169	各学年必修（46）	修学旅行
湊川	兵庫	135	普通科（定時制）2-4年必修（73）	
尼崎工業	兵庫	130	外国語科朝鮮語コース自選（75）	
西成	大阪	126	普通科2-3年必選（76）	
南葛飾定期制	東京	100	普通科（定時制）2-3年必修（82）	

注) 学習者数が100名以上のものを掲載した。

して、韓国朝鮮語教員52.9%となっています。

韓国朝鮮語と中国語のJETプログラム(語学指導等を行う外国青年招致事業)によるALTは、98年度に初めて、韓国から1名(鳥取県)、中国から3名(長崎・福井県)が招致されました。英語圏から約5年遅れて、92年度に中国から、93年度に韓国から招致されるようになった国際交流員も、中国語や韓国朝鮮語の講師を務めています。地域に在住する留学生や母語話者が授業に参加している例も多く見られます。

次に、98年8月に開催された第1回高等学校韓国語教師研修会と同世話人会における発

言から引用することで、教員をめぐる状況を示します。韓国朝鮮語の場合、教員免許は朝鮮語という名称を使っています。臨時免許については各地の教育委員会ごとに名称や有効期限がまちまちです。

#### ◆ 教員の資格に関する要望

—熊本県の担当教員の中で教員免許を持っている者は1人しかいない。講座を開設する際に県教委が心配するのも、教員の資格の問題である。韓国語能力試験の成績が免許取得につながるようなシステムがあればよい。

—大学の通信教育で韓国朝鮮語の教員免許を取得するための専門科目の受講ができるようになればよい。

—慶應大、玉川大、佛教大など、教職課程を持っていて通信教育課程があるところに働きかけられないだろうか。

#### ◆ 臨時免許

—兵庫県では、他の免許が一つあることを前提に校長が教育委員会に申請する。原則

表19 職名で見た担当教員数

職名	中国語		韓国朝鮮語
	94年度 (%)	97年度 (%)	97年度 (%)
講師	128 (59.8)	234 (65.0)	60 (59.4)
教諭	59 (27.6)	94 (26.1)	34 (33.7)
ALT <sup>1)</sup>	27 (12.6)	25 (6.9)	3 (3.0)
その他	0 (0.0)	7 (1.9)	4 (4.0)
	214 (100.0)	360 (100.0)	101 (100.0)

1) Assistant language teacher

表20 免許で見た担当教員数

中国語		
免許の科目と種類	教員数	(%)
中国語 中国語のみ	40	
+国語	48	
+英語	20	
+その他	7	
	115	(63.9)
臨時免許 臨時免許のみ	6	
+社会	2	
+国語	1	
+国語+社会	1	
	10	(5.6)
他教科 国語	26	
社会	10	
英語	9	
その他	10	
	55	(30.6)
合計	180	(100.0)

韓国朝鮮語		
免許の科目と種類	教員数	(%)
朝鮮語 <sup>1)</sup> 朝鮮語のみ	11	
+英語	5	
+その他	3	
	19	(37.3)
臨時免許 <sup>2)</sup> 臨時免許のみ	6	
+英語	2	
	8	(15.7)
他教科 英語	7	
国語	4	
音楽	3	
商業	2	
社会+その他	2	
農業	2	
その他	4	
	24	(47.1)
合計	51	(100.0)

1) 免許の科目名は朝鮮語である。 2) 臨時免許の科目名は教育委員会によって異なる。

は3年間、延長は3回まで。都道府県、学校によっても状況が異なり、免許外申請が学校内だけで通じることもある。

－大阪府では、他の免許の所有者に対して、校長の推薦を得て教育委員会との話し合いで臨時免許を交付していた。最近、交付の条件が厳しくなっているだけでなく、有効期間3年間で更新できない。また、国際教養科と普通科で免許の扱いが異なる。国際教養科では第二外国語教育の教員は免許がなくてもよいが、普通科の教員は免許の有無が問われる。

表21に、担当教員数ごとの取り組み校数を示しました。韓国朝鮮語と中国語ともに1名だけの教員で担当している場合が最も多く、それぞれ75.4%、69.1%となっています。2名の場合(14.5%、22.0%)を含めた教員数1~2名は、それぞれ89.9%、91.1%であり、大部分の

取り組み校で常勤と非常勤を合わせて2名以下の教員が担当していることがわかります。

表22に担当教員の母語について示しました。また、いずれの言語の場合も担当教員の約6割を占め、今後も二つの言語教育を支える大きな力になると予想される講師の母語を見たのが表23です。日本語を母語とする者の割合は担当教員と講師の間で10%以上の差があり、それぞれ韓国朝鮮語では41.1%、27.8%、中国語では56.4%、44.3%となっています。

表24に授業時間数別の教員数を示しました。韓国朝鮮語、中国語いずれも2時間が最も多く、それぞれ28.9%、28.7%を占めています。次に多いのが4時間で、17.8%、23.1%となっており、いずれも担当教員の約半数が2から4時間となっています。

#### 4 教材と授業の工夫

これまで見てきた単位数・学習者数や教員数などの実情に応じて、韓国朝鮮語、中国語教育とともに、多くの学校では会話と社会・文化事情の学習に重点を置いています。ガイドラインがなく、教材が不足している中で、担当教員は日々の授業に取り組んでいます。

表21 担当教員数で見た取り組み校

教員数／職名	中国語 (%)	韓国朝鮮語 (%)
1名 講師	128	39
教諭	35	10
ALT	3	1
その他	4	2
	170 (69.1)	52 (75.4)
2名 教諭+講師	22	4
講師	16	4
講師+ALT	8	0
教諭+ALT	4	2
教諭	2	0
教諭+その他	2	0
	54 (22.0)	10 (14.5)
3名 教諭+講師	3	2
講師	3	1
教諭+講師+ALT	3	0
教諭	1	2
講師+ALT	1	0
教諭+その他	1	0
	12 (4.9)	5 (7.2)
4名 教諭+講師	4	2
以上 教諭+ALT	3	0
講師	2	0
教諭+講師+ALT	1	0
	10 (4.1)	2 (2.9)
合計	246 (100.0)	69 (100.0)

表22 担当教員の母語

母語	中国語 (%)	母語	韓国朝鮮語 (%)
中国語	141 (42.7)	韓国朝鮮語	48 (50.5)
日本語	186 (56.4)	日本語	39 (41.1)
バイリンガル	3 (0.9)	バイリンガル	8 (8.4)
	330 (100.0)		95 (100.0)

表23 担当講師の母語

母語	中国語 (%)	母語	韓国朝鮮語 (%)
中国語	114 (54.3)	韓国朝鮮語	34 (63.0)
日本語	93 (44.3)	日本語	15 (27.8)
バイリンガル	3 (1.4)	バイリンガル	5 (9.3)
	210 (100.0)		54 (100.0)

## ■ 教材

韓国朝鮮語の多くの教員が高校生向けの教科書や教材の不足を訴えています。特定の教科書や教材が特に多く使われていることはありませんが、調査回答の中で最も多かったのは『韓国語Ⅰ』(韓国文化体育部、ハンリム出版社)と『書いて覚える初級朝鮮語』(白水社)の2点です。中国語の場合、全国高等学校中国語教育研究会<sup>注)</sup>編著の『高校中国語』(初版87年、改訂版94年 白帝社発行)が多くの中学校で使われています。

### ◆『高校中国語教育のめやす』

全国高等学校中国語教育研究会は、高校生が第二外国語として中国語を学ぶことを念頭において『高校中国語教育のめやす』を発行し

ました(99年6月)。この「めやす」は、韓国朝鮮語教育にとっても参考になると思われます。

高校生が、何をどのような配列・順序で学習することが望ましいかを軸にして、授業の条件を異にするさまざまな経験を持つ教員が慎重な討議を通じて作成したもので、拘束的性格を持つものではありません。高等学校における中国語教育の目標として(1)中国語の音声上の特徴を考慮し、発音を重視した中国語の基礎的な能力を養うこと、(2)コミュニケーション能力の養成を図り、国際理解・異文化理解を深めることを掲げて3-4単位が必要だと考え、それを標準単位数としています。文法編と語彙編(約700語)の2部構成。A4版、本文20ページ。

次に引用するのは、第1回研修会の世話人会における意見交換の一部です。

### ◆ 教材と教科書作りの検討

- 3年前の開講時にいろいろ教科書を見たが、分量が多く、高校生に教えるのには適さない。20年前の英語教科書を見ているようを感じた。教材開発を考える際しては、各学校の単位数が大きく影響すると思う。6単位くらいになると文法を体系的に学習する必要も出てくるだろうが、大部分の学校では単位数がそれに及ばない。

- 自主作成教材を使用している。自分で購入したテキストのよいところを取って、生徒に合わせて組み直す。定時制の場合、不登校生や夜間中学を卒業したハルモニなどの学習者に合わせた教材を作る必要がある。生徒の自主性を引き出す教材作りを心がけている。生徒は文法に興味を示さない。文法を教えた後は歌、そして会話と、目先を変えて生徒が進んで学ぶような講座を作っている。

- 第1回研修会の発言を聞いて、標準的な教科書、ガイドライン、センター入試への朝鮮語の導入、教員の身分が課題だと感じた。

- 教科書とガイドラインは密接に関わっている。英語の場合、標準単位数と指導要領

表24 授業時間で見た担当教員数

時間数	中国語 (%)	韓国朝鮮語 (%)
1	8 (2.6)	4 (4.4)
2	87 (28.7)	26 (28.9)
3	28 (9.2)	8 (8.9)
4	70 (23.1)	16 (17.8)
5	15 (5.0)	5 (5.6)
6	39 (12.9)	3 (3.3)
7	4 (1.3)	1 (1.1)
8	10 (3.3)	6 (6.7)
9	3 (1.0)	4 (4.4)
10	9 (3.0)	2 (2.2)
11	6 (2.0)	1 (1.1)
12	2 (0.7)	3 (3.3)
13	0 (0.0)	1 (1.1)
14	2 (0.7)	4 (4.4)
15	5 (1.7)	1 (1.1)
16	9 (3.0)	0 (0.0)
17	1 (0.3)	1 (1.1)
18	5 (1.7)	3 (3.3)
19	0 (0.0)	1 (1.1)
	303 (100.0)	90 (100.0)

にもとづいて編成されている。韓国朝鮮語の場合は、国際教養的なものや人権教育を重視するものなど、さまざまな授業形態があり、統一的な教科書を作るのは難しい。

—統一的な教科書があれば、開講するときに県の認可を取りやすい。開講するための条件が整備されている証しになるからだ。

—既存の教科書の主人公は大学生か社会人である。高校生を主人公にした教材が欲しい。授業によって単位数が違うので、上下2巻にして、単位数が多い場合は下巻まで進むようにする。値段は1,000円から1,500円に抑えられるとよい。話題が豊富で、日本や韓国の高校生だけでなく、米国の高校の場面も登場するようなものがよい。

—教科書を作る場合、トピックなどは現場の教師でわかるが、語学的側面から基本語彙の選定が必要である。文法事項、語彙とトピックをからませたものができたらよいと思う。

—生徒は使えることばを求めている。既存の教材は旅行者向けが多い。同世代の韓国人高校生の生活がわかるような初步的な会話を中心に、彼らと話す時に使え、楽しみながら学習できる教科書ができるとよい。

—全日制・定時制向け、文化理解中心のものなど、いくつかの教科書が必要だ。

—少なくとも入門、初級、文化理解の3種類が必要だが、作成するのは途方もない作業である。まず、何年も使っている教材を補助教材としてまとめることに着手するはどうか。

—韓国で歴史教育や日本語教育を担当している教師との共同執筆も考えられる。

—何校かで長年使われている市販テキストをモデルにして改訂する方法もある。

—日頃の授業内容の蓄積と整理が必要だ。ほかの人の授業内容を知るのは、大いに参考になる。

—教材の収集と整理から始める。3年分のプリントを集めることも意味がある。あるものから手をつけるのがよい。

## ■ 授業の工夫

映画やビデオ鑑賞、調理実習、民俗芸能や歌、地域在住の留学生や母語話者の授業参加など、生徒の学習意欲を高めるためにさまざまな工夫がこらされています。次に、授業例を二つ紹介します。(表28参照)

◆ 大阪府立阪南 93年に韓国朝鮮語が選択必修科目として開講し、はや6年が過ぎようとしている。その前の非常勤講師の期間も含めた西成高校での10年間を入れると、16年も朝鮮語教育に携わっていたことになる。新卒で、いきなり夜間中学や民族学級、高校の朝鮮語授業などを経験することになり、今思い起こせば本当に貴重な体験だった。小学校の民族学級では慣れないオルガンを弾き、粘土で亀甲船を作ったり、夜間中学では畏れ多くも一世のハルモニと民謡を歌い、高校では朝文研の生徒とチャンゴを叩き、見よう見まねでチマチョゴリを作って扇舞を踊ったりと、自分の学生時代には考えられないような民族との豊かな出会いがあり、本当に刺激的な毎日だった。

授業はできるだけゆっくり復習しながら進むようにしている。大学生や一般社会人を対象にした教材が多いので、地名を入れ替えたり、単語を入れ替えて会話の応用をする。生徒自らが変格活用を辞書で調べて原形を探すのは難しい。また、短い文章を読ませる教材がない。民話や童話の本を韓国から購入してくるが、1冊の分量が多く、児童向けなので内容が幼稚で適さない。若者の話や人気歌手・俳優などの話をもとにした、短い簡単な文章教材が望まれる。[任]

◆ 広島女学院(広島) 第1回の授業で自己紹介を行う。文字の構成を説明した後で、反切表を見ながら自分の名前をハングルで書けるようにする。その後で、高校生に関心のある表現や簡単なあいさつを教えていく。今では発音もできるし、文字も書ける。1年の学習目標は検定試験合格ではなく、意味が通じることだ。3、4時限目に

なると生徒も眠くなるので、体の名称を覚えるゲームを実施し、バツとして韓国語の歌を歌わせる。教師よりも生徒が話す時間を多くしている。予算の中で購入したいいろいろな教材を使って副教材プリントを作成し、文法やドリルは自分で補足している。ハングルで「あいうえお」を書くためのプリントを必ず配る。ハングルを書かせるため、ドリルをコピーして宿題にする。発音も大事だが、書くことが必要だ。パッチムの学習を重視し、本教材に沿って授業を実施している。[鞠]

愛知、和歌山)と6政令指定都市(札幌、千葉、川崎、横浜、名古屋、神戸)が海外への修学旅行を認めていないため、これらの地域にある公立高校では実施できない状況にあります。しかし、すでに試行に入っているところもあり、規制緩和の方向にあります。

海外への修学旅行の実施状況(表25、p. 24)を目的別に見ると、生徒数では韓国が最も多く、中国が次いでいます。97年度は韓国38,769名(228校)、中国27,810名(124校)、北米・ハワイ27,303名(155校)、オセアニア19,352名(104校)の順です。97年度に修学旅行で韓国を訪れた生徒数は韓国朝鮮語の学習者の約10倍であり、中国を訪れた生徒数は中国語学習者数の約2倍となっています。教科として韓国朝鮮語や中国語を取り入れていなくても、修学旅行の事前学習として訪問先の文化事情や言語について学ぶ学校が多く、修学旅行(外国からの受け入れも含む)との関連で、これらの言語や文化について学ぶ機会が広がることが期待されます。

## 5 修学旅行と姉妹校交流

生徒が少しでも韓国朝鮮語や中国語を話す地域の文化を身近なものに感じられるよう、取り組み校では授業のほかにも、言語学習を支えるさまざまなプログラムを実施しています。

### ■ 韓国与中国語圏への修学旅行

最多くの取り組み校が実施しているのが修学旅行です。韓国朝鮮語の取り組み校で韓国を訪問している学校は25.5%(42校)です。中国語の場合、中国・台湾・シンガポールなどの中国語圏に修学旅行を実施している学校は15.6%(55校)です(いずれも予定を含む)。修学旅行を目標に学習を進めていくなど、言語学習と積極的に関連づけている学校も見られます。

72年に私立高校2校が韓国への修学旅行を実施したのが海外への修学旅行の始まりです。それから約10年後の81年度には全国で62の私立高校が修学旅行で海外へ行っています。公立高校の海外修学旅行は、84年の韓国(福岡県)、87年の中国(浦和市)に始まり、その後実施校と生徒数は年々増え続けています。一方で、海外への修学旅行を規制している自治体もあります。98年度現在、8都道府県(茨城、栃木、千葉、東京、神奈川、長野、

### ■ 姉妹校交流

韓国朝鮮語の場合、韓国に姉妹校のある学校は取り組み校の13.3%(22校 公立4、私立18)あり、中国語の場合、中国・台湾・シンガポールなどの中国語圏に姉妹校を持つ学校は13.0%(46校 公立19、私立27)あります。修学旅行や語学研修旅行の際に姉妹校を訪問し、交流会を開催する例が多く見られます。表25に1986-97年の姉妹校提携の増加傾向を示しました。

次に、第1回研修会における発言を紹介し、韓国の農業学校との交流が言語学習に結びついた例として菊池農業高校の担当教員の文章を引用します。

### ◆ 姉妹校の提携、修学旅行の実施

—金沢伏見の場合、姉妹校はなかった。石川県が4年前から招致している韓国人国際交流員が仲介役となり、韓国への修学旅行での交流から始まって、姉妹校提携の方向に向かっている。

—広島県では、韓国教育院<sup>注1)</sup>を通して韓国の教育部から交流校を紹介してもらっている。  
—日常的な交流という意味で、日韓合同授業研究会<sup>注2)</sup>では、共通の教材を使った授業の実践例を互いに報告することを通じた交流を実施している。

**注1)** 日本国内にある韓国政府教育部の出先機関。大都市部の総合教育院(5ヶ所)と全国の都市に置かれた教育院(12ヶ所)があり、韓国語と韓国文化に関する教育関連事業を実施している。

**注2)** 94年に発足した日韓の教育交流市民団体(<http://www.asahi-net.or.jp/~bi8k-ysmt/>)。学識者を招いて学習会を開催するほか、95・97・98年にソウル、96・99年(7月)に東京で交流会を実施している。

◆ 熊本県立菊池農業 韓国語会話が導入されたのは、韓国全土の農業高校と交流を始めて10年経った97年の4月のことだ。「せめてカタコトでも韓国語をしゃべれたら」「せめてハングルだけでも読むことができたら」—積もり積もった思いが学校に届けられ、1年生全員に1単位の「韓国語会話」が導入されることになった。教材その他、準備も調わないままの見切り発車だった。韓国的学生を自宅に受け入れ、寝食を共にし、身振り手振りで心が通じ合うようになったかと思うと別れ、互いに涙をボロボロ流し、抱き合って最後の握手。でも、手のひらの温もりが残るだけに切ない。

[馬場](表28参照)

表25 海外修学旅行を実施する高等学校：1991-98

国・地域	学校/生徒数	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998
韓国	公立	40	45	49	67	107	139	146	145
	私立	90	85	92	90	84	90	82	79
	合計	130	130	141	157	191	229	228	224
	生徒数	-	-	33,760	36,570	40,677	41,599	38,769	37,180
中国	公立	5	10	31	44	57	62	69	89
	私立	21	21	40	46	46	54	55	57
	合計	26	31	71	90	103	116	124	146
	生徒数	-	-	19,619	25,126	29,497	27,840	27,810	31,537
アジア (韓国・中国を除く)	公立	3	3	7	3	10	17	36	50
	私立	31	30	34	40	45	60	55	65
	合計	34	33	41	43	55	77	91	115
	生徒数	-	6,714	6,815	6,591	9,666	11,736	13,896	16,867
北米 <sup>1)</sup> ・ハワイ	公立	0	1	2	4	8	13	17	19
	私立	72	66	84	100	113	132	138	137
	合計	72	67	86	104	121	145	155	156
	生徒数	-	8,635	18,759	21,916	23,218	26,556	27,303	26,346
オセアニア <sup>2)</sup>	公立	0	1	1	1	3	12	16	24
	私立	22	24	39	48	59	85	88	102
	合計	22	25	40	49	62	97	104	126
	生徒数	-	6,160	8,570	10,157	13,339	20,047	19,352	21,166
ヨーロッパ・ その他の地域	公立	0	0	0	0	0	4	2	3
	私立	5	7	18	22	27	45	47	68
	合計	5	7	18	22	27	49	49	71
	生徒数	-	446	1,008	1,633	3,047	5,508	5,160	7,822
合計	公立	48	60	90	119	185	247	286	330
	私立	241	233	307	346	374	466	465	508
	合計	289	293	397	465	559	713	751	838
	生徒数	-	-	88,531	101,993	119,444	133,286	132,290	140,918

資料：海外修学旅行の実施状況（日本修学旅行協会）

1) 米国、カナダ、メキシコ 2) オーストラリア、ニュージーランド、グアム、サイパン

表26 海外姉妹校と提携する高等学校

国・地域		1986	1989	1991	1993	1995	1997
米 国	公立	64	81	133	137	150	160
	私立	68	83	123	121	197	233
	合計	132	164	256	258	347	393
オースト ラリア	公立	17	26	45	56	83	92
	私立	23	34	61	75	136	183
	合計	40	60	106	131	219	275
ニュージーランド	公立	0	0	8	11	15	26
	私立	6	10	25	28	47	125
	合計	6	10	33	39	62	151
韓 国	公立	6	9	17	20	28	36
	私立	56	65	79	77	83	96
	合計	62	74	96	97	111	132
カナダ	公立	7	8	19	20	19	27
	私立	7	14	30	32	62	97
	合計	14	22	49	52	81	124
中 国	公立	11	13	20	13	21	34
	私立	19	29	24	29	51	65
	合計	30	42	44	42	72	99
台 湾	公立	0	0	3	2	4	3
	私立	24	11	32	31	29	32
	合計	24	11	35	33	33	35
その他の 地域	公立	2	3	7	8	14	24
	私立	15	18	34	52	58	119
	合計	17	21	41	60	72	143
合 計	公立	107	140	252	267	334	402
	私立	218	264	408	445	663	950
	合計	325	404	660	712	997	1,352

資料：高等学校における国際交流等の状況（文部省）

表27 韓国と中国に姉妹校を持つ取り組み校

学校名(*私立)	都道府県	交流相手校	所在地
* 山形城北女子	山形	正義女子	ソウル
* 白根開善	群馬	信一	ソウル
* 細田学園女子	埼玉	永東女子	ソウル
* 敦賀気比	福井	大田	大田
国際情報(C)	滋賀	文一	ソウル
* 京都西(C)	京都	東明情報工業	釜山
佐野工業定期制	大阪	西大田工業	大田
* 帝塚山学院泉ヶ丘	大阪	淑明女子	ソウル
		董花女子	慶州
神戸甲北	兵庫	蔚山情報通信 位育中学校(第51中学校)	蔚山 上海
高取(C)	奈良	扶餘	扶餘
星林(C)	和歌山	大元外国语	ソウル
* 智辯学園和歌山	和歌山	漢陽工業	ソウル
* 岡山理科大学 附属(C)	岡山	機張綜合 昌原慶一	
* 山陽女子	広島	舞鶴女子	ソウル
* 広島県新庄	広島	釜山鏡好商業	釜山
広島皆実	広島	大新	ソウル
下関商業(C)	山口	釜山商業 青島第一職業高級中学	釜山 青島
* 早鞆	山口	徳明女子商業	釜山
* 九州国際大学付属	福岡	培花女子	ソウル
* 慶成	福岡	善花女子商業	釜山
戸畠商業	福岡	慶一女子商業	大邱
* 熊本中央女子	熊本	論山女子商業	論山
* 熊本フェイス女学院	熊本	東丘女子商業	ソウル
* 玉名女子	熊本	馬山女子商業	馬山
* 楊志館	大分	富平 北京月壇中学	仁川 北京
* 日章学園	宮崎	宇信 協和高級工商職業学校 大連第一中学	ソウル 台北 大連

注) 交流相手校の名称は、アンケート調査の回答内容に基づいて記載した。台湾の学校1校を含む。

(C)：中国語教育の取り組み校。韓国朝鮮語教育には取り組んでいない。

以上、韓国朝鮮語と中国語教育の現状を比較することによって、二つの言語教育が関連しながら日本の高等学校教育の中に広がっている状況を示してきました。両者が多くの共通点を持ちながら、異なる点も少なくないことが明らかになり、課題のいくつかが浮き彫りになったことだと思います。

韓国朝鮮語教育の場合、中国語教育のような高等学校教員の全国的な組織がないため、教員間の情報交換が思うようにならない状況にあります。教材や教科書作りを進めるためにも、韓国朝鮮語教育に携わる教員間のネットワーク形成が強く求められています。

## 1 高等学校韓国語教師研修会の開催

このような状況の中にあって、98年8月に東京の韓国YMCAで開催された第1回高等学校韓国語教師研修会の持つ意義は大きかったと思います。韓国文化院の資金的・人的支援と、TJFの調査を通じて得た全国の高等学校に関するデータがうまく噛み合ったことで、研修会が実現しました。99年4月には、全国の韓国朝鮮語教員を対象とする研修会の世話人会だより『물결』も創刊されました。この刊行物(年2回 A4 6-8ページ)が、年1回開催される研修会と研修会の間のパイプ役を果たし、研修会参加者間のネットワーク形成が促進されることを期待しています。(第2回研修会は99年8月に開催)

第1回研修会には、全国の高等学校で韓国朝鮮語を教える教員34名が参加しました。参加教員は表28のとおりです。

以下に紹介するのは、研修会の最終セッション「教師間のネットワーク形成」で交わされた参加者の意見や感想の一部です。韓国朝鮮語教育の今後について考える手がかりが数多く含まれているのではないかでしょうか。

### ◆ ネットワークから組織づくりへ

-高等学校での韓国語教育の実施校が100校を越えている中で、今回の参加者は34名だ。参加者を拡大するために、地区別に都市を巡回して開催し、各地の結果を報告書にまとめてはどうか。研修会を現場の教師の悩みに耳を傾ける場にしてほしい。

-今回は集まるだけでも意義があった。ややもすれば孤立し、一人で授業をしている私たちが、これだけたくさんの仲間に会えただけでも勇気が出た。初回でもあり、総花的だったが、今後はモデル授業など、具体的に明日の授業に役立つような形がよいのではないか。将来何かをアピールするには、個人の意見よりも組織としての方が力があると思う。

-集まるだけでも意義があった。今後、現場でがんばるという気持ちを新たにした。北の籍を持っている先生方も参加できるようになればよいと思う。

-韓国文化院としては国籍にこだわりはありません。

-研修会の継続には組織が必要だ。山形県にも自分以外に韓国語教師がいる。組織的

なネットワークがないと学習者も増えない。－底辺拡大は賛成だが、情報交換だけでも意味がある。大阪も兵庫も長年細々と韓国語教育を続けてきたが、ネットワークはできなかつた。情報交換、交流、実践報告、センター試験、私立大学の入試科目に加えてもらうなどの要望を出すことにつなげたい。そういう動きがないと、質・量の拡大につながら

ない。より多くの人が集まれる、ゆるやかな組織を作っていくのがよいと思う。－10年前に韓国語の教育事情についてリサーチしたことがある。韓国語を教え始めた時期、高校の韓国語教師は周囲にまったくいなかった。ずっとネットワークを望んでいたので、10年後にこうした研修会が実現して、とてもよい刺激を受けた。教材作

表28 第1回高等学校韓国語教師研修会の参加者たち

地域(人数)	学校ほか(*私学)	参加教員	学校の特色、教員の発言・文章から	[ ] 参照ページ
岩手 (2)	花巻南	阿部宣姫	韓国修学旅行中に1週間の語学研修を実施する	
	不来方ほか	毛利靖子	外国語系の1クラスで<ハングル>を開講している	
山形 (1)	* 酒田南	金昶寧	韓国修学旅行の前後で生徒の韓国観が変化する	
埼玉 (1)	* 自由の森学園	黒澤眞爾	99年度は発音記号IPA <sup>1)</sup> を導入してみた [p. 16]	
千葉 (1)	* 千葉明徳	朴章美	生徒の学習動機を高めるのが課題だ	
東京 (1)	葛西南定時制	田附和久	教師の実力向上のため勉強会の場が必要だ	
神奈川 (1)	岸根	山下誠	赴任して3年目、99年度自由選択で開講へ	
長野 (1)	松本蠶ヶ崎	西澤俊幸	なんで<朝鮮語>やらないの? そう問い合わせたい [p. 18]	
石川 (1)	教育センター	嶋田進	97年度まで県立高校で<ハングル>を担当した	
京都 (1)	* 南京都	尹道心	毎年韓国に修学旅行／クラブ活動で実施している	
大阪 (8)	桃谷通信制ほか	大島知美	生野区の高等学校／人権教育の一環として実施している	
	住吉	鄭一珠	4つの高校の講師／母語を学ぶ在日の生徒は多くない	
	西成	李愈知	在日と多くの日本人生徒の署名で開講へ	
	今宮工業定時制	鄭良二	人権教育と国際理解教育の二つの流れがある	
	枚方津田ほか	李貞榮	5つの高校のほか夜間中学と民族学級の講師	
	阪南	任喜久子	語学・人権・国際理解・民族教育としての<朝鮮語>教育 [p. 22]	
	* 帝塚山学院泉ヶ丘	李章柱	1期生(84年)から韓国へ研修旅行を実施している	
	* 建国	李庭宮	高校カリキュラム以外に韓国語と韓国歴史を学習する	
	尼崎工業	文東載	選択必修の生徒にやる気を起こさせるのが課題だ	
兵庫 (5)	姫路商業	大垣輝行	商業科の課題研究で開講、99年度から選択科目へ	
	武庫(定時制)	辻本久夫	韓国修学旅行の実施を前提に県教委の認可を得た	
	湊川(定時制)ほか	方政雄	あたりまえの外国語として隣国のことばを学ぶ [p. 14]	
	尼崎(市)	鄭奈美	自分が韓国を好きになればこそ生徒に伝えられる	
	* 智弁学園和歌山	朴貴善	79年から韓国へ修学旅行／進学校での学習のあり方が課題	
和歌山 (1)	米子ほか	金映希	JETプログラム初の韓国語ALT <sup>2)</sup> として日本へ	
	米子南商業	遠藤宏子	県の方針を受けて開講／98年度から韓国修学旅行	
島根 (2)	松江商業	横田正四郎	商業高校の改革の一環として<韓国語>を開講した	
	浜田商業	金秀明	韓国修学旅行で使うことばを並べた教材で学習している	
広島 (2)	* 広島女学院	鞠承姫	3年の選択科目／受験科目とのバランスを図る [p. 22]	
	* 崇徳ほか	李菊枝	語学と修学旅行、文化・スポーツ交流を組み合せている	
熊本 (1)	菊池農業	馬場純二	全学科に1名ずつ韓国語のできる教員を養成中 [p. 24]	
大分 (3)	* 楊志館	趙源逸	学力に応じながら学習意欲を高めるのが課題だ	
	大分東	宋孝源	県国際交流員として日本人教員とチームティーチング	
	日出陽谷	李鍾洙	県国際交流員の業務のかたわら講師を担当する	

1) International phonetic alphabet

2) Assistant language teacher

成より普及に関心がある。教材と普及は分けて考えた方がよい。文化院やTJFなど支援団体に普及について考えてもらいたい。大阪は人権教育という窓口があり、地方は高校の生き残りとして新しいカリキュラムの設定がある。東京にはそういう問題がないので、どのように普及させたらよいか難しい。教員自身が説明できるように、研修会の記録をていねいに作成し、成果を整理してほしい。

#### ◆ 研修と勉強会の場に

－どのように授業を進めているかの話もあったし、初めての研修会で勉強になった。今年から常勤講師になり、どのように授業展開をしたらよいか一人で悩んでいたので、教育実践について聞けたのがよかったです。韓国語とその文化を勉強していくなければならないという気持ちを新たにした。来年以降、教員研修の場として教員が専門的に勉強する機会となるようなプログラムを組んでほしい。

－教員の立場によって悩みが違うので、来年以降は分科会があってもよい。ロック別の分科会も考えられる。

－東京からの参加が少ないので残念だ。教員免許の規定が厳しいなど、行政の問題もある。朝鮮語はほかの語学教育に比べて基本的な研究が足りない。学習しやすいこともあり、自己流で作られた教材もあるようだ。底辺の部分で教師自身も勉強することがすそ野拡大のために必要だ。ネイティブの教師にも勉強してもらうことがある。研修会で勉強したことの積み重ねが教材作成やネットワークにつながる。日本における朝鮮語研究の近況などについて勉強会があればよいと思う。

#### ◆ 教科書と教材を作るために

－文部省検定の教科書ができるまでには時間がかかると思う。韓国語能力試験などを基準にしながら、教師たちで統一教科書を作ってはどうか。教科書の問題で悩んだ

り、個人的にそれぞれ工夫しながら教えていると思う。教科書の問題を解決していきたい。

－教科書を作るとなると、高校生の学習到達度の基準が必要だ。まず底辺を広げる方法を考えることが、韓国語教育に関してレベルの高い学校にも、始まったばかりの学校にも大事ではないか。既存の教材の評価を行うのもよい。

－生徒が韓国語をやってよかったという感想を持ち、後輩にそれを伝えていくためには教材の工夫が必要だ。到達度を決めることで自分たちの首をしめることにならないよう、一つの参考例として教材を作ってはどうか。

#### ◆ センター試験<sup>注)</sup>の科目に

－全国で多くの学校が韓国語を実施していると知り、勇気づけられた。将来的には組織づくりが必要だが、ここ数年は情報交換を続けることが大事だと思う。センター試験、私大への働きかけが必要だ。教師も生徒も熱が入り、チャレンジする生徒も出てくると思うので、入試との結びつきは重要だ。

－開講していくなくても韓国語学習を続けている教師に研修会の内容を報告したいと思う。センター試験の科目に韓国語が加わることに賛成だ。民族問題を抱える学校や進学校など、それぞれの悩みを持ち寄って相談、検討できる場がこの研修会ではないか。検討の結果をまとめることで教科書ができればよいと思う。毎年研修会を開催し、参加者を拡大していくことが望まれる。教師の研修の場であり、教員自身のつながりを増やして行くことで、今後の研修会の方向性が見えてくるのではないか。

注) 97年1月から、センター入試の外国語科目に中国語が加わった。99年1月の受験者数は、中国語223名、フランス語178名、ドイツ語134名(大学入試センター資料)。中国語教育の取り組み校の中でセンター入試の中国語受験者がいたのは15校(回答校の5.7%)で、うち7校は3年間の中国語履修単位数が10単位を超えていた。

—大阪府立在日外国人教育協議会でセンター入試の要望をした背景には、在日同胞に韓国語を勉強してほしいという願いがあった。進学校に在日同胞が多数在籍している。彼らに勉強してもらうためには、受験科目に加えることが効果的だと思う。在日の民族教育の観点から考えた、同胞に母国語を勉強してもらうためのアピールだった。

#### ◆授業実践と文化祭など

—次の研修会では授業実践の報告、文化祭での取り組みなどを交換するのがよい。

—個人として、岩手で何ができるかを考えた。文化祭でビビムバを出すことで、他校からの来訪者に学校でハングルをやっていることを知ってもらう。中学生、高校生だけでなく小学生にも、子どもたちの関心のありそうな話をしたい。国語の教科書に韓国の民話が載っているが、堅苦しいことばで伝えるのではなく、小学生や中学生に韓国について知ってもらうきっかけを作るようなことをしていきたい。そのためにも、受験しやすく、合格しやすい韓国語能力試験にしてほしい。

—文化祭で10分ほどの発表時間がある。民団からもらったチマチョゴリやパジチョゴリを着る体験をする。朝鮮や韓国に対して偏見を持っている人が多いのも事実だが、生徒たちには好評だ。兼任校では、県立高校より学習意欲は劣るが、韓国語を選択していない生徒たちからも「안녕하세요?」という声がかかる。以前から修学旅行を実施していたり、全体の食事会で韓国料理が出されている。子どもたちから妙な偏見に対する疑問が出るようになってほしい。みんなの意識を変えることから始めたいと思う。

#### ◆韓国朝鮮語教育の今後

—97年から始まった第6期中央教育審議会の答申が出され、小学校からの外国語会話導入などが表明されている。語学はできるだけ早い年齢で始めるのがよいと思う。高



教師研修会の一場面

校では、国際交流関係などの科目の中に韓国語が入ってくる余地がある。

—生徒や周囲が関心を持つような、日々の授業のあり方が大事だ。毎年同じ教材を使っているが、中身の質的な向上を考える時期にきていると感じる。量的な拡大と質的な拡大を考えるために、よりどころとなるような集まり、センター試験や韓国政府へのアピール、授業実践例の交換を吸収できるようなバックボーンがぜひ必要だ。地域の世話人、世話人の連絡会、意見交換ができる機関紙の発行ができればよい。

\* \* \*

最後に、高等学校韓国語教師研修会を積極的に推進した一韓国人の文章を引用することで、第1回研修会開催に注いだ関係者の思いの一端を記録して置くことにします。

韓国人が日本語を話しても日本人を感動させることはできないが、日本人がたった一言韓国語を口にするだけで韓国人を感動させてしまう……。「感動」こそ私のテーマだ。

私にとって「日本」というのは、ライフワークを探し求めながら、ふと気づいたら捕まっていたというようなものである。だが、「日本」に関係するようになってからは、仕事の上だけでなく、それは離れようにも離れられない生活の一部になってしまった。

趣味程度のつもりで日本語の勉強を始めた

が、「日本」をほんとうに興味深い社会だと感じるようになると、韓国と「日本」の間にやるべき仕事が山積していることを考えないわけにはいかなかった。二つの民族が経済的また文化的に補完関係にあることが間違いないならば、私の仕事は、韓国からのメッセージを日本人に伝え、ありのままの「日本」を韓国人に知らせることと同じ割合でやりとげることだろう。

日本勤務に際して第一の課題だった韓国語教師研修会が、国際文化フォーラムのおかげで定着することになった。これ以上の喜びはない。韓国語を教える日本人教師と韓国語を学ぶ日本人の学生というのは、実は韓国では想像しにくいイメージである。その実像ができるだけ広く韓国に伝えたいと思う。〔金〕

### 一人ひとりが寄せる波　물결

『물결』は高等学校の韓国朝鮮語教育に関する教師たちみなさんのです。一人ひとりの活動が静かな波紋となって、しだいに広がっていくことを願い、『물결(ムルキヨル)』と名づけました。浜辺に打ち寄せる波や湖面に広がる波紋のように、韓国朝鮮語の教師が作り出す波動を着実に伝えていきたいと思います。

各学校の取り組みや授業風景、近況、エッセイなど、みなさんの原稿を基に年2回のペースで発行します。形式は自由ですが、文字数は1原稿につき1,000字程度とします。記述は日本文・ハングルいずれでも結構です。

電子メールで国際文化フォーラム(forum@tjf.or.jp)

宛に原稿をお送りいただければ幸いです。

郵送・ファックスの場合も含め、

『물결』の原稿であることを

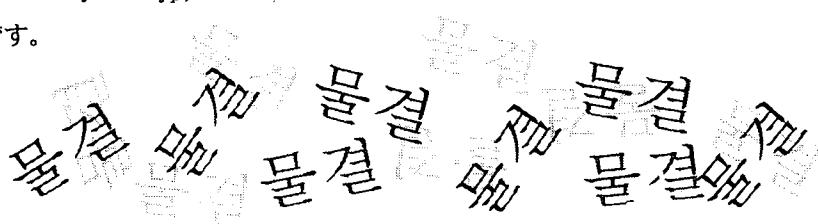
明記してください。

## 2 ネットワークの形成とTJFの役割

TJFの中国語教育の関連事業には、機関誌を通じた取り組み校の紹介、中国東北部の中高校で日本語を教える中国人教師と日本の高等学校で中国語教育に取り組む教師を対象にした友好クラス交流の試み、『高校中国語教育のめやす』(p. 21参照)作成に対する助成と編集協力、ニュースレター『小溪』の発行などがあります。

TJFは高等学校の韓国朝鮮語教育に関する調査を踏まえながら、韓国文化院と共同で教師研修会を支援することによって、韓国朝鮮語の関連事業に取り組むことになりました。その後も研修会世話人会の運営を補佐し、世話人会だより『물결』の編集に協力してネットワーク形成を手伝っています。TJFが中国語教育の関連事業を通じて蓄積した情報や人脈が韓国朝鮮語教育の基盤作りに大いに役立っています。

高等学校の韓国朝鮮語教育の基盤作り事業は他の関連団体からも評価されており、担当教員を核にしながら周囲の関係者を巻き込んだネットワークが着々と広がっています。その中で、TJFは引き続き機関誌やホームページに取り組み校を紹介したり、関連情報を掲載しながら、韓国朝鮮語教育の関連事業を開拓していくたいと考えています。



# 한국어 교육 • 한국어 교육 • 한국어 교육

## 韓国朝鮮語教育に取り組む高等学校

### 한국어 교육에 착수하는 고등학교

1999年6月20日までに確認した韓国朝鮮語教育の取り組み校の概要を掲載しています。同じ内容がTJFホームページ(<http://www.tjf.or.jp/>)にも掲載されており、追加情報を基に随時更新されますので、最新情報はホームページをご参照ください。なお、レポート本文の記述や表データ(3月末までの情報に基づく)と以下のリストでは、取り組み校数(リスト上は171校)や記載内容が一部異なります。

1999년 6월 20일까지 확인한 한국어 교육 착수학교에 관한 개요를 게재하였습니다. 동일한 내용이 TJF 홈페이지(<http://www.tjf.or.jp/>)에도 게재되어 있으며, 추가 정보를 기초로 수시 갱신됨으로서 최신정보는 홈페이지를 참조하여 주십시오. 또한 리포트 본문 중의 기술과 표데이터(3월 말까지의 정보에 근거함)와 이하 리스트하고는 착수학교수(리스트 상은 171개교) 및 기재내용이 일부 다릅니다.

## 用語と用例 용어 및 용례

開始年度	新たな導入の場合は実際に講座を開始した年度をさす	
개시년도	강좌가 새롭게 도입된 경우 실제로 시작된 년도를 가리킴.	
[実施]年度	[ ]内の年度のみ実施を確認している	
[실시]년도	[ ]내의 년도만 실시한것을 확인했음.	
87～	87年から	87년부터
～93	93年まで	93년까지
97×	97年実施せず	97년 실시하지 않았음

### 履修形態 이수형태

必選：必修選択	필선(必選)：필수선택 과목
自選：自由選択	자선(自選)：자유선택 과목
必修：必修	필수(必修)：필수 과목
二2三2：	二学年と三学年で各2単位履修
	2학년과 3학년에서 각각 2 단위 이수함.
二三2：	二学年または三学年で 2 単位履修
	2학년 또는 3학년에서 2 단위 이수함.
教科外：	教科外活動 (一部のみ掲載)
교과외(教科外)：	교과외 활동(일부만 게재)
//：	確認できていない項目 미확인 항목

### 修学旅行・姉妹校 수학여행·자매교

修：	韓国への修学旅行を実施	한국으로 수학여행을 실시
姉：	韓国の姉妹校と交流	한국의 자매학교와 교류

### 他の外国語 기타 외국어

英語、韓国朝鮮語以外の外国語	영어, 한국어 이외의 외국어
C：中国語 中國어	F：フランス語 프랑스어
G：ドイツ語 독일어	S：スペイン語 스페인어
R：ロシア語 러시아어	I：インドネシア語 인도네시아어
M：マレーシア語 말레이지아어	P：ポルトガル語 포루투갈어
V：ベトナム語 베트남어	+2：その他2言語 기타 2언어



都道府県 (学校数) 지역 (학교수)		学校名 학교명 *私立 (*사립)	履修概要 이수개요 講座名 강좌명 /開始[実施]年度 개시[실시]년도 / 学科コース名 학과코스명 /履修形態 이수형태	修学旅行·姉妹校 수학여행·자매교	他の外国語教育 기타 외국어 교육
新潟 (1) 니이가타	新潟商業 ニイガタショウガ	ハンガル/94/商業科国際経済コース/必選 二2 三3、 国際教養コース/自選 二2		C R	
長野 (3) 나가노	* 上田西 ..... 塩尻 ..... 松本蟻ヶ崎 .....	朝鮮語/96/ /自選 各学年2 ハンガル基礎/2001/総合学科国際文化系列/自選 二2 ハンガル/96/普通科/必選 三2			C

北陸東海

富山 (1) 도야마	新湊	ハングル/98/普通科国際コース/自選 三1	
石川 (3) 이시카와	金沢辰巳丘 김재진미丘	韓国語/99/普通科外国語コース英語専攻/必選 二2 三2, 普通コース/必選 二2	C F G R
	金沢伏見 김제복지	ハングル/96/普通科国際文化普通コース/自選 二2 三2	C
	金沢北陵 김제북릉	開講予定	修 C
福井 (2) 후쿠이	* 啓新 * 敦賀気比	韓国語/ [94] ハンガル/94-97/国際科ハングルコース/必修 一8 二9 三11 98/普通科選択コース/必選 二2 三1	C C
岐阜 (1) 기후	土岐紅陵 토기홍릉	ハンガル/99/ /自選 三2	C
愛知 (1) 아이치	* 安城学園 * 애성학원	ハンガル/90	C
三重 (1) 미에	昂学園 옹학원	ハンガル/96	C

近畿

滋賀 (5) 시가	石部 * 近江兄弟社 国際情報 水口 守山女子(市)	ハンガル/開講予定 韓国語/94/自選 各学年1 韓国語/88/自選 二2 三2 ハンガル/96/普通科国際クラス/必選 二2 三2 ハンガル/99/英語科/自選 二1	修 修 修 修 修	C C C C C
京都 (6) 교토	嵯峨野 * 同志社 * 同志社国際 * 花園 日吉ヶ丘(市) * 南京都	朝鮮韓国語/98/京都こすもす科国際文化系・人文芸術系/ 自選 二2 三2 ハンガル/普通科/必選 三2 韓国朝鮮語/97/普通科/自選 一2 二2 三2 ハンガル/97/自選 二2 三2 ハンガル/97/必選 二2 /2000/国際交流コース		CFS CFG CFG S C CGS 修・姉 C
大阪 (33) 오사카	旭 今宮 今宮工業定期制 * 大阪女子短期大学 * 大阪成蹊女子 * 大阪体育大学浪商 貝塚南 柏原東	/ [過去に実施、97・98×] /国際教養科 / [98] /総合学科/選択 三2 朝鮮語/78/普通科/必選 一3 二2、工業科/必選 一2 二2 四2 ハンガル/85/特別講座(土曜) 韓国朝鮮語/98/普通科/自選二三2(二学期制) 韓国朝鮮語/95/普通科/自選 三3 / [98×] /普通科/選択 三2 / [98×] /普通科/選択 三2		CFG CFG CG

都道府県 (学校数) 지역 (학교수)	学校名 *私立 (*사립)	履修概要 이수개요		修学旅行·姉妹校 수학여행·자매교	他の外国語教育 기타 외국어 교육
		講座名 강좌명 /開始[実施]年度 개시[실시]년도 / 学科コース名 학과코스명 /履修形態 이수형태			
(大阪継ぎ オサカ)	勝山	/ [98×] /普通科/選択 三2			
	勝山定時制	韓国朝鮮語/ [93~98、 98に閉校]			
	* 関西創価	99/教科外			
	柴島	朝鮮語/97/総合学科多文化理解系列/自選 二三2			C F
	* 建国	韓国語/46/ /必修 各学年3		修	
	此花総合(市)	ハングル/99			C F
	* 金剛学園	韓国語/46/普通科/必修 各学年3、 自選 二2 三2		修	
	佐野	/ [98×] /国際教養科/必選 二2 三2			C F G S
	佐野工業定時制	朝鮮語/91/機械科・自動車科/必選 一2 二2、 普通科/必選 一4 二4 三4		修・姉	C
	清水谷	/ [98×] /普通科/選択 三2			
	住吉	韓国朝鮮語/91/国際教養科/必選 二2			C F S
	* 帝塚山学院泉ヶ丘	韓国語/87/国際科第二外国語コース/必選 一2 二2 三1		修・姉	C F S
	長吉	朝鮮語/77/普通科/必選 二3 三4			
	西	韓国朝鮮語/96/ /必選 三4			C F
	西成	朝鮮語/76/普通科/必選 二2 三2			
	花園	韓国朝鮮語/94/国際教養Aコース/必選 二2			C
	阪南	韓国朝鮮語/93/普通科国際文化コース/必選 二4 三2		修	C
	枚方	韓国朝鮮語/97/国際教養科/自選 二2 三2			C F G S
	枚方津田	韓国朝鮮語/98/普通科/自選 三2			
	布施定時制	韓国朝鮮語/94/普通科/必選 三2			
	松原	ハングル/93/総合学科/自選 二2、 普通科/必選 三4			C F S
	箕面	/ [98×] /国際教養科/自選 二2 三2			C F G S
	桃谷通信制・定時制	朝鮮語/92/通信制・単位制/一4 二3 三2 四3、 朝鮮語/95/定時制・単位制/一2 二2			C
	守口東	韓国朝鮮語/ //2			
	八尾	/ [98×] /普通科/選択 三2			
兵庫 (11) 堺	芦屋(市)	朝鮮語/ [96以前~、 97~98×] /普通科/自選 二2 三2			C
	尼崎	ハングル/99/普通科/自選 二2 三2			C
	尼崎(市)	ハングル/98/普通科/三3			C
	尼崎工業	朝鮮語/75/外国語科朝鮮語A・Bコース/自選 三2			
	* 関西学院高等部	朝鮮語/94			C F G
	香寺	/99			
	神戸甲北	ハングル/98/総合学科/自選 二3 三3		修・姉	C V I
	姫路商業	/ [99~2000] (96~、 外国語商業の中で一部実施)			C
	湊川	朝鮮語/73/普通科/必修 二2 三2 四2； ハングル/87/県立高校在籍者対象/全学年 自選 2			C
	武庫	朝鮮語/98/普通科/必修 四			
	六甲アイランド(市)	ハングル入門/99/普通科国際情報学系/自選 二2			C F

都道府県 (学校数) 지역 (학교수)	학교명 *私立 (*사립)	履修概要 이수개요		修学旅行·姉妹校 수학여행·자매교	他の外国語教育 기타 외국어 교육
		講座名 강좌명 /開始[実施]年度 개시[실시]년도 / 学科コース名 학과코스명 /履修形態 이수형태			
奈良 (2)	* 天理教校親里	韓国語/94/普通科		C F S P	
나라	山辺	朝鮮語/97/総合学科/二2 三2		C	
和歌山 (1)	* 智辯学園和歌山	한글/91		修·姉	
	와카야마				

## 中国四国

鳥取 (4) 시도리	青谷	한글/95/普通科国際コース/必選 二3 三3		C	
	境	한글/98			
	米子	한글/93/総合学科/自選 三2、国際・福祉コース/必選 二2 三2	修	C	
	米子南商業	한글/97/流通経済科・会計情報科・情報システム科	修		
島根 (3) 시마네	邇摩	韓国語/98/総合学科/自選 三2		C	
	浜田商業	韓国語/97/国際経済科/自選 三3	修	C	
	松江商業	韓国語/96/商業科・国際経済科/自選 三2	修		
岡山 (2) 오카야마	* 岡山学芸館	教科外	姉		
	岡山後楽館(市)	한글/99/総合学科/一2 二三2	修(予定)	C	
広島 (18) 히로시마	安芸府中	朝鮮語/94		C F M	
	因島	朝鮮語/2000/総合学科/自選 二2 三2			
	大竹	朝鮮語/98/総合学科/総合選択 二三2		C	
	尾道工業	/97			
	* 山陽	教科外			
	* 山陽女子	/ [93~95]	修·姉		
	* 崇徳	朝鮮語/94/普通科/自選 全学年			
	高宮	国際理解講座/94/普通科/自選 全学年2			
	西	朝鮮語/97			
	広島観音	韓国朝鮮語/2000		C	
	* 広島県新庄	韓国語/ [95~96] /教科外	姉		
	* 広島工業大学附属	教科外			
	広島商業	韓国朝鮮語/93/国際経済科/必選 二2		C	
	* 広島女学院	朝鮮語/87//自選 三			
	* 広島電機大学附属	チョソル語/73/普通科/必選 二2 三2	修		
	広島皆実	한글/94/教科外	姉		
	舟入(市)	한글/99/普通科国際コミュニケーションコース/必選 二2 自選 三2		C	
	三次青陵	朝鮮語/98/総合学科/自選 二2		C	
山口 (3) 아마구치	下関国際	한글/ [98] //選択 6から9		C	
	* 早鞆	韓国語/92/普通科・商業科・家政科/必修 二1	修·姉		
	響	한글/96//必選 二2 三2	修	C	
愛媛 (2) 에히메	新居浜南	한글/97/総合学科/自選 二4			
	北条	한글/97/総合学科/自選 二4	修		

都道府県 (学校数) 지역 (학교수)	学校名	학교명 *私立 (*사립)	履修概要 이수개요 講座名 강좌명 /開始[実施]年度 개시[실시]년도 / 学科コース名 학과코스명 /履修形態 이수형태	修学旅行·姉妹校 他の外国語教育 수학여행·자매교 기타 외국어 교육
<b>九州沖縄</b>				
福岡 (8) 후쿠오카	* 沖学園	/99		C
	* 九州国際大学付属	韓国語/94/普通科国際教養コース/必修 一2	修·姉	C
	* 慶成	韓国語/98/人間科学科社会教養コース/必選 二2	姉	C
	東鷹	ハングル/94/普通科国際コース/必選 二2 三2		C
	戸畠商業 (市)	韓国語/95/国際経済科ビジネスコミュニケーションコース/ 必選 二2 三2	修·姉	C
	博多青松	ハングル/99/普通科·情報科/自選 全学年2		C
	福岡女子 (市)	ハングル/94		C
	* 福岡第一	//教科外		C
佐賀 (4) 사가	唐津北	ハングル/94/普通科/自選 二2 三2		
	唐津商業	ハングル/92/商業科/必修 二1 自選 三3	修	
	神崎清明	ハングル/ [97] //自選 一2		C
	高志館	ハングル/97/自選 二2 三2		C
長崎 (1) 나가사키	豊玉	/ [97] /必修クラブ	修	
熊本 (5) 구마모토	菊池農業	韓国語/97/全学科/必修 一1	修	
	* 熊本中央女子	韓国語/94/普通科国際コース/必修 二2 三3	修·姉	
	* 熊本フェイス女学院	韓国語/ [89~96]	修·姉	
	* 玉名女子	韓国語/92/普通科国際教養コース/必修 二2	修·姉	C
	東稜	朝鮮語/87/普通科国際コース/必選 各学年1	修	C
大分 (6) 오이타	大分東	韓国語/96/国際コミュニケーション科/必選 二2 三2	修	C F G
	* 日本文理大学附属	ハングル/95		C
	日出暘谷	韓国朝鮮語/98/総合学科/自選 二2 三3		C
	日田三隅	韓国朝鮮語/97/総合学科/自選 二2 三2		C
	* 別府大学附属	韓国語/ [97]	修	C
	* 楊志館	韓国語/ [93~98] /全学科/必修 一1、ホテルコース/必選 二1	修·姉	C
宮崎 (4) 미야자키	都農	ハングル/98/総合学科		C
	富島	/98		C
	* 日章学園	韓国語/87/国際科/必修 一1 二1	修·姉	C
	本庄	ハングル/91//自選 三2		C
鹿児島 (1) 가고시마	鹿児島東	韓国語/98/国際教養科/必選 二2 三3		C F S
沖縄 (2) 오키나와	向陽	韓国語/97/国際文化科/自選 三3、理数科/自選 三2		C
	那覇国際	韓国語/99/普通科·国際科/必選 二2		C F G S





# 일본 고등학교에 있어서의 한국어 교육

중국어 교육과의 비교를 통하여



# 차 례

I . 국제문화포럼 ( TJF ) 과 아시아의 언어	
1. 아시아의 언어 및 중국어 교육에 관한 조사	41
2. 한국어 및 중국어 교육에 관한 합동조사	42
II . 한·중국어 교육 착수학교 현황	
1. 한·중국어 교육 착수학교의 증가	44
2. 강좌명으로 본 한국어 교육 착수상황	48
3. 외국어 교육에 있어서의 한국어 및 중국어	49
III . 한국어 교육 현황	
1. 도입 경위	51
2. 이수개요	52
3. 교원들을 둘러싸는 상황	55
4. 교재와 수업 연구	58
5. 수학여행과 자매학교 교류	60
IV . 한국어 교육의 기반 조성	
1. 고등학교 한국어 교사 연수회의 개최	64
2. 네트워크의 형성과 TJF의 역할	68
한국어 교육에 착수하는 고등학교	31
日本の高等学校における韓国朝鮮語教育	1-30

표로 보는 고등학교의 한국어교육		
항목	표 [No.]	페이지
지역	지역별 착수학교 [2] ..... 한·중국어 교육 착수학교 [3] .....	45 46
개시시기	지역별 착수률 [4] ..... 공·사립별 착수률 [5] .....	47 48
공·사립별	개시년도 [1] ..... 개시년도별 강좌명 [6] .....	44 49
이수개요	지역·개시년도별 강좌명 [7] .....	50
교원	개시년도 [1] ..... 지역별 착수학교 [2] .....	44 45
교류	공·사립별 착수률 [5] .....	48
외국어	개시년도별 강좌명 [6] .....	49
	지역·개시년도별 강좌명 [7] .....	50
	영어 이외의 외국어 [8] .....	50
	이수형태 [11] .....	53
	이수단위수 [13] .....	54
	학습자수 [16] .....	55
	해외 수학여행 [24] .....	61
	해외 자매학교 [25] .....	62
	설치학과 [9] .....	52
	전문학교 [10] .....	53
	이수형태 [11] .....	53
	이수기간 [12] .....	53
	이수단위수 [13] .....	54
	이수단위수와 형태 [14] .....	54
	이수단위수가 많은 착수학교 [15] .....	54
	학습자수 [16] .....	55
	학습자수가 많은 착수학교 [17] .....	55
	직명 [18] .....	56
	자격증 [19] .....	56
	교원수 [20] .....	57
	담당교원의 모어 [21] .....	58
	담당강사의 모어 [22] .....	58
	수업시간 [23] .....	58
	제 1 차 교사 연수회 참가자를 [27] .....	65
	해외 수학여행 [24] .....	61
	해외 자매학교 [25] .....	62
	한국·중국과의 자매학교 교류 [26] .....	63
	영어 이외의 외국어 [8] .....	50

# I 국제문화포럼(TJF)과 아시아의 언어

21세기를 앞두고 언어나 문화가 서로 다른 사람들끼리 만나서 함께 활동하는 기회가 많아져, 서로가 교류할 필요성이 갈수록 높아지고 있습니다. 국제문화포럼(TJF: The Japan Forum)은 여러 부류의 사람들을 양육해 온 언어, 문화를 서로가 이해하는 것이 무엇보다도 중요하다고 생각합니다. 그 중에서도 젊은 세대가 외국어와 외국의 문화를 이해하는 것은 더욱 중요하다고 봅니다. 이와 같은 생각으로 TJF는 중국, 미국, 호주를 중심으로 하는 아시아·태평양 지역의 초·중학교 및 고등학교에 있어서의 일본어 교육을 후원하는 프로그램을 실시해 왔으며, 이 지역의 초·중·고등학교 학생들이 일본의 같은 세대들과 상호 교류를 할 수 있음을 바라는 입장에서 사업을 실시해 왔습니다. 그것과 동시에 일본의 젊은이들이 영어뿐만 아니라 아시아 지역의 언어를 쉽게 배울 수 있도록 교육환경을 마련해 주는 것을 목표로 삼아 활동하고 있습니다.

## 1 아시아의 언어 및 중국어 교육에 관한 조사

아시아의 언어에 관한 사업의 일환으로서 TJF는 1993년도에 일본에서 아시아 지역 언어에 대한 학습상황을 사전에 조사하였습니다. 조사 대상은 한국, 중국, 태국, 인도네시아 각국의 언어들이었으며, 그 이유는 이 지역의 초·중등교육에서 일본어 학습이 한창이었던 것과, 일본에 있어서 가장 가까워

야 할 언어인 한국어와 중국어 교육을 다루는 필요성을 인정하였기 때문입니다. 조사 결과 한국어와 중국어 교육에 착수한 고등학교가 90년대에 들어서서부터 현저히 늘어나고 있음을 알게 되었습니다. 그러나 한편으로 그 실태는 아직 명확하지 않다는 것도 확실해졌으며, 교육환경의 정비도 충분치 못하다는 사실도 확인되었습니다.

### ■ 고등학교에서의 중국어 교육

이러한 문제 의식에 근거하여 94년도에는 중국어 교육을 실시하고 있는 고등학교를 대상으로 제1차 앙케이트와 인터뷰 조사를 실시하였습니다. 조사에서 밝혀진 학교현장의 상황과 과제를 “현재의 고등학교 중국어 교육을 추궁한다”라는 제목으로 출판하였지만 (96년), 이러한 부류의 보고는 처음이었기에 큰 반응을 얻었습니다. 보고서 중에서 TJF는 민간 단체의 입장에서 과제를 해결하기 위해 고등학교에 있어서의 중국어 교육에 관한 10항목을 제언하였습니다.

1. 제2외국어로서의 중국어 교육을 적극적으로 추진한다.
2. 고등학교 중국어의 가이드라인을 작성한다.
3. 고등학교 중국어의 표준 교재를 편찬한다.
4. 자격을 소지하고 있는 중국어 담당교원을 확보한다.
5. 교원을 양성하는 일과 함께 현직 교원을 위한 재연수 기회를 제공한다.
6. 교원의 자주 연수 기회를 풍부하게 만든다.

7. 교원의 해외연수 기회를 만든다.
8. 하루속히 중국어 지도조수 초치를 실현 시킨다.
9. 교원간의 네트워크를 구축한다.
10. 중국어 교육에 관한 정보를 공유한다.

등의 교과외 활동으로서 실시하는 경우가 적지 않았기 때문에 이를 일부도 조사대상 안에 포함하였습니다.

### ■ 조사 결과

## 2 한국어 및 중국어 교육에 관한 합동조사

제1차 조사에 이어 고등학교 중국어 교육 현황의 계속 조사와 더불어 한국어 교육의 실태를 파악하기 위해 97년도부터 98년도에 걸쳐서 한·중국어 교육에 관한 합동조사와 정보수집을 실시하였습니다. 합동조사로 한 이유는 두 언어교육을 착수하는 학교가 서로 겹치고 있었다는 것과 공통점이 많은 두 언어의 교육사정을 비교함으로서 각각의 언어 교육 상황을 보다 깊게 분석할 수 있었기 때문입니다.

### ■ 조사대상

이번 합동조사에서는 97~98년도 당시 한국어 또는 중국어 교육을 실시하고 있었던 학교 뿐만 아니라, 강좌개설을 계획 또는 희망하고 있는 학교나 과거에 실시하고 있었지만 지금은 하지 않은 학교도 대상으로 삼았습니다. 한·중국어 교육이 처한 상황은 결코 안정한 것이 아니므로 현상을 바로 파악하기 위해서는 어느 시점에서의 실시상황만을 보는 것이 아니라 수년간에 걸친 움직임을 보아야 할 필요가 있다고 생각하였기 때문입니다. 실제로 학교측의 자세 변화, 커리큘럼 편성의 변경, 수업을 담당하는 교원의 확보, 강좌 책임자인 교원의 이동, 이수 희망자의 부족 등으로 인해서 교육과정에 넣거나 개설을 예정하고 있었는데도 실시까지 이르지 못했던 예가 적지 않았습니다.

또한 한·중국어 교육은 반드시 외국어 과목으로서만 실시되는 것이 아니라, 과제연구나 다른 과목의 수업, 특별 활동(필수 클럽)

우선 선행 조사 연구를 참고로 97년 5월 말까지 확인된 한국어 또는 중국어 교육을 실시하고 있는 가능성이 있는 고등학교 375개교를 대상으로 97년 6월부터 98년 3월까지 앙케이트 조사를 실시하였습니다. 앙케이트 용지 미회수 학교에 대해서는 전화 인터뷰에 의한 확인으로 대신하여, 98년 6월까지 한국어 교육을 착수하는 130개교와, 중국어 교육을 착수하는 308개교를 확인하였습니다. 앙케이트 조사의 집계결과와 이를 고등학교의 지역별 리스트는 중간 보고서로서 소책자를 발행함과 동시에 TJF의 홈페이지(<http://www.tjf.or.jp/>)에도 게재하였습니다.

앙케이트 조사 응답자는 대체로 고등학교에서 한국어 및 중국어 교육에 종사하는 교원이 반수 이상이었지만 회수한 앙케이트 내용만으로는 상황을 파악하는데 한계가 있어 그것을 보충하기 위해 98년도에 들어서서부터는 두 언어 교육에 착수한 몇 개 학교를 직접 방문하여 강좌를 담당하는 교사, 학교 관계자들을 인터뷰하거나 교사 연수회 및 교사와의 좌담회를 통하여 취재를 하였습니다. 고등학교의 한·중국어 교육에 관한 주변 정보를 얻기 위하여 교육위원회와 대학관계자분들로부터도 일부 취재하였습니다.

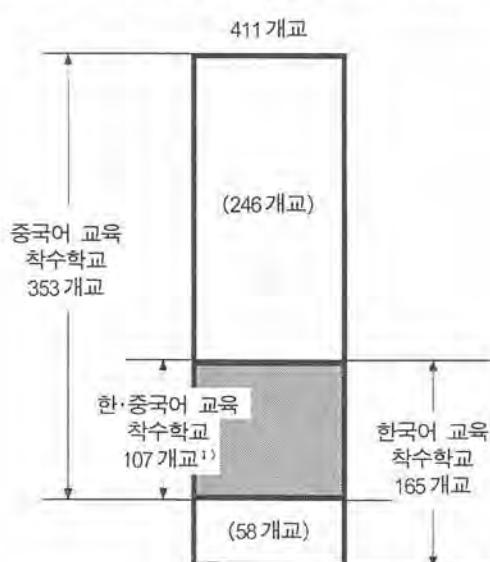
### ■ 본 리포트가 지향하는 것

2년간에 걸친 조사 결과 98년도말(99년3월 말) 현재 한국어 교육에 착수하는 학교가 165개교, 중국어 교육에 착수하는 학교가 353개교 (공통되는 학교 107개교)임을 확인하였습니다. 본 리포트는 앙케이트 조사 결과를 표로 제시하고, 몇몇 학교와 교사의 교육방법의 예를 소개함으로서 일본의 고등학교에 있어서의 한·중국어 교육의 현황과 문제점을 알기 쉽게 제시하는 것을 지향하고 있습니다.

이번 조사와 정보수집을 통하여 수학여행으로 한국이나 중국어권(중국, 대만, 싱가포르, 말레이지아 등) 지역을 방문하는 학교가 증가하고 있다는 것, 이를 지역의 학교와 자매관계를 맺고 있는 예가 많다는 것도 알게 되었습니다. 이러한 교류가 언어 학습과 결합되는 가운데서 더욱더 상호간의 이해를 깊히는 것으로 생각합니다.

일본 고등학교에서의 한국어 교육에 관한 이번 리포트는 별책의 중국어 교육에 관한 리포트와 한 쌍으로 되어 있습니다. 한국어 교육에 관한 리포트는 일본어와 한국어, 중국어 교육에 관한 리포트는 일본어와 중국어의 일부로 구성되어 있습니다. 또한 이 리포트의 일어부분에 나오는 <韓國朝鮮語>는 일본에서 <ハングル><韓国語><朝鮮語> 등으로 불리고 있는 언어를 가리키며 <中国語>는 보통화(普通話)를 가리킵니다. 이들은 한글표기에서는 <한국어>와 <중국어>로 표기합니다.

#### 이 리포트가 대상으로 하는 한·중국어 교육 착수학교



주) 착수학교: 조사 시점에 있어서 실시하고 있는 학교, 과거에 실시하고 있었던 학교, 개강 예정이 있는 학교, 개강하고 있지만 실시하지 않은 학교를 대상으로 함. 일부 교과외 활동을 포함함.

1) 중국어 교육 착수학교의 30.3%, 한국어 교육 착수학교의 64.8%에 상당함.

# 한·중국어 교육 착수학교 현황

97년도에 실시한 앙케이트 조사를 토대로 98년도에 확인한 것을 보충 개신한 한국어 또는 중국어 교육에 착수한 고등학교의 개강년도 및 지역별 수는 표 1-3과 같습니다. 지역별 한·중국어교육 착수학교 리스트는 리포트 중앙부분에 삽입하였습니다. 같은 리스트를 TJF의 홈페이지에 게재하여 수시로 개신하고 있습니다.

두 언어교육 현황을 파악하기 위하여 97-98년도 당시에 실시하고 있었던 학교뿐만 아니라 99년도 이후에 개강 예정인 학교 및 96년도 이전에 실시하였지만 97-98년도에는 실시하지 않았던 학교도 포함시켰습니다. 본 리포트에서는 상술한 상황의 학교들을 다 포함하여 <착수학교>라는 용어를 사용합니다. 그리고 강좌명이 커리큘럼에 들어가 있는 상태를 <개강>으로 합니다. 그러나 새롭게 도입할 경우에는 실제로 강좌가 개시된 년도를 개시년도로 봅니다.

## 1 한·중국어 교육 착수학교의 증가

표 1과 2에 개시년도별·지역별 학교수를 공·사립별로 표시하였습니다. 지역과 시기에 따른 상황의 변화와 더불어 공립학교와 사립학교에서의 차이도 볼 수 있습니다. 두 언어 교육에 대하여 전국적으로 파악하는 것과 동시에 한 층 더 들어가서 지역별과 공·사립별로 또는 학교별로 다양하게 살펴 보는 것이 중요하다고 생각합니다.

표 1 개시년도별 한·중국어 교육 착수학교

년도	중국어			한국어			동시 개강
	합계	공립	사립	합계	공립	사립	
미정	1	-	1	4	2	2	-
2001	1	1	-	1	1	-	1
2000	2	2	-	3	3	-	2
1999	15	11	4	13	11	2	4
1998	18	16	2	21	18	3	10
1997	31	23	8	22	18	4	9
1996	27	21	6	11	9	2	5
1995	37	27	10	7	4	3	3
1994	20	15	5	21	9	12	5
1993	20	15	5	8	5	3	3
1992	17	13	4	6	4	2	2
1991	25	15	10	6	4	2	3
1990	19	15	4	2	-	2	1
1989	18	10	8	2	1	1	-
1988	13	9	4	2	1	1	1
1987	16	11	5	5	1	4	3
1986	6	3	3	-	-	-	-
1985	6	2	4	1	-	1	-
1984	2	-	2	-	-	-	-
1983	3	2	1	-	-	-	-
1982	2	2	-	1	1	-	-
1981	-	-	-	-	-	-	-
1980	1	-	1	1	1	-	-
1979	4	3	1	-	-	-	-
1978	-	-	-	1	1	-	-
1977	-	-	-	1	1	-	-
1976	-	-	-	1	1	-	-
1975	-	-	-	1	1	-	-
1974	1	-	1	-	-	-	-
1973	4	-	4	2	1	1	-
1972	-	-	-	-	-	-	-
1971	-	-	-	-	-	-	-
1970	3	-	3	-	-	-	-
1969 이전	8	6	2	2	-	2	-
불명	33	20	13	20	15	5	-
합계	353	242	111	165	113	52	52

## ■ 80년대 후반 이후에 증가한 착수학교

표 1에서 볼 수 있는 바와 같이 한·중국어 교육에 착수한 학교는 80년대 후반부터 증가하고 있습니다. 87년도부터 98년도에 걸쳐 한국어는 년 평균 9.4개교, 중국어는 년 평균 21.8개교의 비율로 증가하고 있습니다. 87년에 제출된 임시교육심의회(臨時教育審議會)의 최종 담신 가운데서, 중·고등학교에 있어서 선택과목의 다양화가 제안되거나 학습지도요령이 개정되는 등 영어교육을 중심으로 커뮤니케이션 수단과 국제 이해 교육을 위한 외국어 교육을 중시하는 추세가 되어 있다는 것도 그 배경에 있다고 봅니다.

91년도에 “외국어 교육 다양화 연구 협력학교(外國語教育多樣化研究協力校)”가 설립되었고, 93년에는 “외국어 교육 개선에 관한 조사 연구 협력자 회의”와 “고등학교 교육 개혁 추진에 관한 회의”가 잇따라 보고서를 발행하였습니다. 전자의 보고서인 “중·고등학교에 있어서의 외국어 교육 개선 방안에 대하여”에서는 아시아 인근 각 지역의 언어를 위주로 하여 영어 이외의 여러 가지 외국어 교육 추진의 필요성을 강조하였습니다. 후자의 보고서는 종합학과<sup>주1)</sup>, 단위제 고등학교<sup>주2)</sup> 등 새로운 형태의 고등학교와 특색 있는 코스가 설치되도록 추진하였습니다.

한·중국어 교육에 착수하는 고등학교는 표 2와 3에서 본 바와 같이 107개(표 2에서 C △K로 표시, 공립 75, 사립 32)이며 공립 학교가 사립 학교의 약 2.3배가 됩니다. 이러한 학교들에서의 한·중국어 교육 도입 시기의 전후 관계를 표 3에 표시하였습니다. 많은 학

주1) 일반과목 및 전문과목에 걸쳐 다양한 교과·과목을 개설하여 학생들이 자기의 흥미나 관심에 근거하여 주체적으로 이수할 과목을 선택하는 것을 특징으로 함. 보통과 및 전문학과에 비견하는 제3의 학과로 93년 3월에 제도화되어, 94년도부터 설치되었음.

주2) 학년제를 위한 교육과정의 틀을 설치하지 않고, 또 학년마다 진급 인정을 하지 않고, 졸업까지 정해진 단위를 취득하면 졸업을 인정하는 학교. 정시제·통신제 과정에 있어서는 88년도부터, 전일제 과정에서는 93년도부터 도입되었습니다.

표 2 지역별 한·중국어 교육 착수학교

都道府県 / 지역	중국어 (C)			한국어 (K)			C △K <sup>1)</sup>		
	합계	공립	사립	합계	공립	사립	합계	공립	사립
北海道	홋카이도	4	2	2	3	1	2	1	1
青森	아오모리	1	-	1	-	-	-	-	-
岩手	이와테	2	2	-	3	2	1	1	1
宮城	미야기	4	3	1	3	1	2	2	1
秋田	아키타	1	1	-	-	-	-	-	-
山形	야마가타	4	3	1	2	-	2	1	-
福島	후쿠시마	2	1	1	-	-	-	-	-
茨城	이바라키	3	2	1	-	-	-	-	-
栃木	도치기	3	2	1	-	-	-	-	-
群馬	군마	6	1	5	1	-	1	1	-
埼玉	사이타마	18	12	6	4	-	4	3	-
千葉	지바	14	8	6	2	1	1	2	1
東京	도쿄	51	28	23	12	9	3	11	8
神奈川	가나가와	21	15	6	6	5	1	3	2
新潟	니이가타	1	1	-	1	1	-	1	1
山梨	야마나시	2	2	-	-	-	-	-	-
長野	나가노	2	1	1	3	2	1	1	1
富山	도야마	5	4	1	1	1	-	-	-
石川	이시카와	3	3	-	3	3	-	3	3
福井	후쿠이	4	1	3	2	-	2	2	-
岐阜	기후	6	4	2	1	1	-	1	1
静岡	시즈오카	7	4	3	-	-	-	-	-
愛知	아이치	9	4	5	1	-	1	1	-
三重	미에	3	3	-	1	1	-	1	1
滋賀	시가	8	7	1	5	4	1	4	3
京都	교토	15	6	9	6	2	4	6	2
大阪	오사카	28	22	6	32	26	6	15	13
兵庫	효고	24	21	3	11	10	1	8	7
奈良	나라	4	3	1	2	1	1	2	1
和歌山	와카야마	5	4	1	1	-	1	-	-
鳥取	돗도리	4	4	-	4	4	-	2	2
島根	시마네	4	4	-	3	3	-	2	2
岡山	오카야마	6	3	3	-	-	-	-	-
広島	히로시마	6	6	-	16	11	5	6	6
山口	아마구치	6	4	2	3	2	1	2	2
徳島	도쿠시마	-	-	-	-	-	-	-	-
香川	가가와	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛	에히메	-	-	-	2	2	-	-	-
高知	고치	2	1	1	-	-	-	-	-
福岡	후쿠오카	18	13	5	8	4	4	8	4
佐賀	사가	8	7	1	4	4	-	2	2
長崎	나가사키	9	8	1	1	1	-	-	-
熊本	구마모토	5	3	2	5	2	3	2	1
大分	오이타	9	5	4	6	3	3	6	3
宮崎	미야자키	5	4	1	4	3	1	4	3
鹿児島	가고시마	3	2	1	1	-	1	1	-
沖縄	오키나와	8	8	-	2	2	-	2	2
합계		353	242	111	165	113	52	107	75
									32

1) 한·중국어 교육에 착수하는 고등학교

표 3 한·중국어 교육 착수학교

지역(학교수)	학교 <sup>1)</sup> * 사립	개시년도 <sup>2)</sup>				지역(학교수)	학교 <sup>1)</sup> * 사립	개시년도 <sup>2)</sup>			
		C	K	기타	외국어			C	K	기타	외국어
北海道 焦가이도(1)	札幌國際情報	96	→	97	FR		佐野 工業定時制	98	←	91	
岩手 이와테(1)	不来方	87	→	89	FGS		此花 総合	99	=	99	F
宮城 미야기(2)	* 仙台育英学園 宮城野	91	→	97		兵庫 효고(8)	姫路商業	79	→	미정	
山形 야마가타(1)	* 山形城北女子	97	=	97	F		* 関西学院高等部	86	→	94	FG
群馬 군마(1)	* 白根開善	95	←	94			湊川	87	=	87	
埼玉 사이타마(3)	* 自由の森学園 * 慶応義塾志木	85	→	87	FS		尼崎(市)	98	=	98	
	* 立教	91	=	91	FG+17		神戸甲北	98	=	98	2
千葉 지바(2)	* 千葉明徳 流山東	96	=	96	FGSR+2		尼崎	99	=	99	
		93	→	94			六甲アイランド(市)	00	=	00	F
東京 도쿄(11)	* 武蔵 * 桜美林 国際	98	=	98		奈良 나라(2)	芦屋(市)	?	?		
	都立大学附属	73	→	90	FG		* 天理教校親里	89	→	94	FS+1
	飛鳥	88	→	99			山辺	97	=	97	
	葛西南定時制	89	→	92	FGSR		米子	92	→	93	
	西	90	[94]	FGS		島根 시마네(2)	青谷	95	=	95	
	日比谷	94	←	80	F		浜田商業	97	=	97	
	晴海総合	95	=	95		広島 히로시마(6)	邇摩	98	=	98	
	* 芝浦工業大学	97	=	97	FG		安芸府中	92	→	94	F+1
	狛江	97	=	97	FG		広島商業	93	=	93	
神奈川 가나가와(3)	* 栄光学園 神奈川総合	97	→	98	FS		大竹	98	=	98	
	大師	98	=	98	F		三次青陵	98	=	98	
新潟 니이가타(1)	新潟商業	94	=	94	R		舟入(市)	99	=	99	
長野 나가노(1)	塩尻	95	→	99	FGR		広島觀音	00	=	00	
石川 이시카와(3)	金沢辰巳丘	96	=	96		山口 야마구치(2)	響	97	←	96	
	金沢伏見	96	→	97			下関國際	?	?		
	金沢北陵	97	→	미정		福岡 후쿠오카(8)	戸畠商業	69	→	95	
福井 후쿠이(2)	* 啓新	89	?				* 九州国際大学付属	94	=	94	
	* 敦賀氣比	94	=	94			東鷹	94	=	94	
岐阜 기후(1)	土岐紅陵	98	→	99		佐賀 사가(2)	* 沖学園	97	→	99	
愛知 아이치(1)	* 安城学園	90	=	90			* 慶成	98	=	98	
三重 미에(1)	昂学園	96	=	96			博多青松	98	→	99	
滋賀 시가(4)	守山女子	87	→	99			福岡女子	?	94		
	国際情報	88	=	88		福岡第一	* 福岡第一	?	?		
	* 近江兄弟社	94	=	94			高志館	92	→	97	
	水口	95	→	96			神崎清明	96	→	?	
京都 교토(6)	* 南京都	94	→	미정		熊本 구마모토(2)	東稜	87	=	87	
	日吉ヶ丘	96	→	97	GS		* 玉名女子	92	=	92	
	* 同志社国際	97	=	97	FGS	大分 오이타(6)	* 別府大学附属	93	→	?	
	* 花園	97	=	97			* 日本文理大学附属	95	=	95	
	嵯峨野	97	→	98	FS		大分東	96	=	96	FG
	* 同志社	?	?	FG			日田三隅	97	=	97	
大阪 오사카(15)	* 帝塚山学院泉ヶ丘	84	→	87	FS		日出賀谷	98	=	98	
	* 大阪体育大学浪商	89	→	95	G	宮崎 미야자키(4)	* 楊志館	99	←	93	
	住吉	91	=	91	FS		* 日章学園	87	=	87	
	桃谷通信制·定時制	92	=	92			富島	90	→	98	
	旭	92	?	FG			本庄	91	=	91	
	佐野	92	?	FGS			都農	98	=	98	
	阪南	93	=	93		鹿児島 가고시마(1)	鹿児島東	86	→	98	FS
	松原	93	=	93	FS	沖縄 오키나와(2)	向陽	95	→	97	
	枚方	93	→	97	FGS		那霸國際	99	=	99	FGS
	箕面	93	?	FGS							
	花園	95	←	94							
	西	96	=	96	F						
	柴島	97	=	97	F						

1) 지역별 중국어 교육 개시년도순 (같은 년도의 경우 한국어 개시년도순)

2) 개시년도는 19--, 20--의 --만 기재함.

= 동시개강 → 중국어 선행 ← 한국어 선행

[ ] 확인되어 있는 실시년도 ? 개시년도 불명

미정 개시년도 미정

C 중국어 K 한국어 F 프랑스어 G 독일어

S 스페인어 R 러시아어 + 기타

교가 중국어 교육 선행형으로 되어 있지만 한국어 선행형도 일부(8개교, 7.5%) 볼 수 있습니다. 두 언어교육을 동시에 개강한 학교는 52개가 있으며 87년도 이후에 집중되어 있는 것은 주목할 만 합니다. 107개교 가운데서 영어 이외의 외국어로서 한국어와 중국어만 개강하는 학교는 64개이며 츄고쿠(中國), 시코쿠(四國), 규슈(九州) 지방 등에서 많이 볼 수 있습니다.

### ■ 지역과 공·사립별 학수률

표 2(p. 45)에서 본 바와 같이 98년도 말에 한국어교육에 학수한 학교가 확인되어 있지 않은 지역은 간토(關東) 북부로부터 도호쿠(東北), 시코쿠(四國)지방 등 11개 지역에 미치고 있습니다. 그에 비하여 중국어교육에 학수한 학교는 전국적으로 퍼져 98년도 말까지 확인하지 못한 곳은 도쿠시마(德島), 가가와(香川), 에히메(愛媛) 등 3 지역 뿐입니다.

지역과 공·사립별 학수상황의 차이를 명확하게 보기 위하여, 학수률(한 지역의 고등학교수에 대한 학수학교수의 비율)을 지역별과 공·사립별로 산출해 보았습니다. 표 4에는 한·중국어와 그 중 어느 한 언어에 대한 학수학교(CUK로 표시)의 학수률을 표시하였습니다. 그리고 표 5에는 공·사립 학교별 학수 상황을 표시하였습니다. 이러한 표들을 살펴보면 지역별 학수학교의 특징이 뚜렷하게 나타날 것입니다.

전국적으로는 전체 고등학교의 7.5%, 공립학교의 6.7%, 사립학교의 10.0%가 한국어 또는 중국어 교육에 학수하고 있습니다. 한국어는 전체 고등학교의 3.0%, 공립학교의 2.7%, 사립학교의 4.0%를 차지하며, 중국어는 전체 고등학교의 6.4%, 공립학교의 5.8%, 사립학교의 8.4%를 차지하고 있습니다.

표 4 지역별 한·중국어 교육 학수률

都道府県/ 지역	중국어 (C)	한국어 (K)	한·중국어 CUK <sup>1)</sup>
北海道	홋가이도	1.2	0.9
青森	아오모리	1.1	-
岩手	이와테	2.0	3.0
宮城	미야기	3.5	2.7
秋田	아키타	1.5	-
山形	야마가타	5.6	2.8
福島	후쿠시마	1.8	-
茨城	이바라키	2.3	-
栃木	도치기	3.6	-
群馬	군마	6.9	1.1
埼玉	사이타마	8.5	1.9
千葉	지바	6.8	1.0
東京	도쿄	11.1	2.6
神奈川	가나가와	8.0	2.3
新潟	니이가타	0.8	0.8
山梨	야마나시	3.9	-
長野	나가노	1.9	2.8
富山	도야마	8.5	1.7
石川	이시카와	4.5	4.5
福井	후쿠이	10.3	5.1
岐阜	기후	6.4	1.1
静岡	시즈오카	4.7	-
愛知	아이치	3.9	0.4
三重	미에	3.8	1.3
滋賀	시가	13.8	8.6
京都	교토	14.4	5.8
大阪	오사카	9.9	11.3
兵庫	효고	10.4	4.8
奈良	나라	6.2	3.1
和歌山	와카야마	9.3	1.9
鳥取	돗도리	11.4	11.4
島根	시마네	7.8	5.9
岡山	오카야마	5.6	-
広島	히로시마	4.3	11.3
山口	야마구치	6.5	3.3
徳島	도쿠시마	-	-
香川	가가와	-	-
愛媛	에히메	0.0	2.7
高知	고치	3.8	-
福岡	후쿠오카	9.7	4.3
佐賀	사가	17.4	8.7
長崎	나가사키	10.2	1.1
熊本	구마모토	5.9	5.9
大分	오이타	11.7	7.8
宮崎	미야자키	8.5	6.8
鹿児島	가고시마	2.9	1.0
沖繩	오키나와	12.1	3.0
全国	전국	6.4	3.0
			7.5

주) 지역별 고등학교수는 일본 문부성 자료에 의거함.

1) 한국어 또는 중국어 교육 학수 학교

표 5 공·사립별 한·중국어 교육 착수률

都道府県 / 지역	공 립			사 립		
	중국어 (C)	한국어 (K)	C U K <sup>1)</sup>	중국어 (C)	한국어 (K)	C U K <sup>1)</sup>
北海道	홋카이도	0.7	0.3	0.7	3.7	3.7
青森	아오모리	-	-	-	5.9	-
岩手	이와테	2.3	2.3	3.4	-	7.7
宮城	미야기	3.2	1.1	3.2	5.3	10.5
秋田	아키타	1.7	-	1.7	-	-
山形	야마가타	5.4	-	5.4	6.7	13.3
福島	후쿠시마	1.0	-	1.0	5.9	-
茨城	이바라키	1.8	-	1.8	4.8	-
栃木	도치기	2.9	-	2.9	6.7	-
群馬	군마	1.4	-	1.4	38.5	7.7
埼玉	사이타마	7.3	-	7.3	13.0	8.7
千葉	지바	5.3	0.7	5.3	10.9	1.8
東京	도쿄	12.7	4.1	13.1	9.7	1.3
神奈川	가나가와	8.1	2.7	9.7	7.9	1.3
新潟	니이가타	0.9	0.9	0.9	-	-
山梨	아마나시	5.0	-	5.0	-	-
長野	나가노	1.1	2.2	2.2	6.3	6.3
富山	도야마	8.0	2.0	10.0	11.1	-
石川	이시카와	5.4	5.4	5.4	-	0.0
福井	후쿠이	3.1	-	3.1	42.9	28.6
岐阜	기후	5.1	1.3	5.1	12.5	-
静岡	시즈오카	3.8	-	3.8	7.0	-
愛知	아이치	2.3	-	2.3	8.9	1.8
三重	미에	4.6	1.5	4.6	-	-
滋賀	시가	14.0	8.0	16.0	12.5	12.5
京都	교토	9.2	3.1	9.2	23.1	10.3
大阪	오사카	11.6	13.8	18.5	6.3	6.3
兵庫	효고	11.8	5.6	13.5	5.8	1.9
奈良	나라	6.1	2.0	6.1	6.3	6.3
和歌山	와카야마	8.7	-	8.7	12.5	12.5
鳥取	돗도리	13.8	13.8	20.7	-	-
島根	시마네	9.8	7.3	12.2	-	-
岡山	오카야마	3.6	-	3.6	12.5	-
広島	히로시마	5.7	10.4	10.4	-	14.3
山口	야마구치	5.6	2.8	5.6	10.0	5.0
徳島	도쿠시마	-	-	-	-	-
香川	가가와	-	-	-	-	-
愛媛	에히메	-	3.2	3.2	-	-
高知	고치	2.2	-	2.2	12.5	-
福岡	후쿠오카	10.5	3.2	10.5	8.1	6.5
佐賀	사가	18.4	10.5	23.7	12.5	-
長崎	나가사키	11.9	1.5	13.4	4.8	-
熊本	구마모토	4.8	3.2	6.3	9.1	13.6
大分	오이타	8.2	4.9	8.2	25.0	18.8
宮崎	미야자키	9.1	6.8	9.1	6.7	6.7
鹿児島	가고시마	2.4	1.2	2.4	4.5	-
沖繩	오키나와	12.9	3.2	12.9	-	-
全国	전국	5.8	2.7	6.7	8.4	4.0
						10.0

주) 지역별 고등학교수는 일본 문부성 자료에 의거함.

1) 한국어 또는 중국어 교육 착수학교

## 2 강좌명으로 본 한국어 교육 착수상황

표 6, 7에 강좌명과 개시년도별, 지역별 착수상황을 표시하였습니다. 전국적으로 보면 강좌명에 <한글>(ハングル)을 사용하는 학교 가 착수학교(회답학교 140) 중 42.1%, <한국어>(韓國語)는 24.3%, <조선어>(朝鮮語)는 20.0%, <한국조선어>(韓國朝鮮語)는 13.6%입니다. 또한 공립학교의 약 반수가 <한글>, 사립학교의 약 반수가 <한국어>를 강좌명으로 사용하고 있습니다. 이하 <>내에는 강좌명, [ ]내에는 연도를, 개시연도가 동일한 경우에는, 예를 들어 히로시마(廣島)·구마모토(熊本)[89]와 같이 표기합니다.

현재 가장 많은 학교에서 사용되고 있는 <한글>을 맨 처음에 도입한 지역은 오사카(大阪)[85]이고, 그 다음으로 이와테(岩手)[89], 아이치(愛知)[90], 와카야마(和歌山)·미야자키(宮崎)[91]현에서 잇따라 도입하였습니다. 그 후 전국적으로도 보급되어 현재 28지역에서 사용되고 있습니다. 공·사립학교별로 보면 <한글>을 사용하고 있는 학교 중 81.4%가 공립학교입니다. <한국어>명칭이 널리 사용된 것은 87년도 이후로서, 사이타마(埼玉)·오사카·미야자키[87]를 시초로 하여 야마가타(山形)·시가(滋賀)[88], 구마모토[89]현에서 잇따라 사용되었으며, 총 21지역에서 사용되고 있습니다. 공·사립학교별로 보면 <한국어>명칭을 사용하고 있는 학교 중 67.6%가 사립학교입니다. <한글>과 <한국어> 명칭을 사용하게 된 배경에는, 84년도에 시작한 NHK(일본방송협회) TV·라디오 <한글>강좌나 88년도에 개최된 서울올림픽의 영향이 있었다고 생각됩니다.

73년도부터 82년도 사이에 한국어를 개강한 학교는 효고(兵庫), 히로시마, 오사카, 도쿄(東京)에 집중되어 있으며, 모두 <조선어>명칭을 사용하고 있습니다. 91년도 이후에는 사이타마·나가노(長野)[96], 나라(奈良)[97] 등 8지역에서 사용되고 있으며, 히로시마, 오사카, 효고, 도쿄 등 4지역에서 특히 많이 사용되고 있습니다. <한국조선어>명칭이 사용된 것

은 90년대 이후로서 도쿄[90], 오사카[91], 히로시마[93] 등에서 사용되고 있습니다. 전국적으로는 6지역에서 사용되고 있으며 그 중 약 반수가 오사카에 집중되어 있습니다.

### 3 외국어 교육에 있어서의 한국어 및 중국어

지금까지 한·중국어교육 착수학교 개요를 지역별, 개시년도별, 공·사립학교별로 언급하였습니다. 여기서 일본의 고등학교 외국어교육에 있어서의 한·중 두 언어교육이 처한 위치에 대하여 살펴 보기로 하겠습니다.

표 8(p.50)은 영어 이외의 외국어교육에 착수하는 고등학교의 현황을 표시하고 있습니

다. 전국적으로 보면 90년도 이후는 중국어가 가장 많은 바, 97년도에 303개교이며, 한국어는 103개교로서 프랑스어 191개 다음으로 많은 학교에서 실시되고 있습니다. 각 언어의 학습자수가 전체 학생수<sup>주)</sup>에서 차지하는 비율은 중국어가 15,390명으로 0.35%이고, 한국어가 3,929명으로 0.09%입니다. 고교생 1,000명 당으로 보면 3.5명, 0.9명인 셈입니다. 같은 자료에 의하면 프랑스어, 독일어, 스페인어, 러시아어는 각각 2.1명, 1.1명, 0.5명, 0.2명으로서 영어 이외의 외국어 학습자수는 극히 적다는 것을 알 수 있습니다. 그러나 이러한 언어 착수학교와 학습자수는 해마다 늘어나고 있는 것도 사실입니다.

주) 97년도 학생수 4,371,360명. 98년도 학교기본 조사 보고서(일본 문부성)에 근거함.

표 6 개시년도별 강좌명

년도	<한글>			<한국어>			<조선어>			<한국조선어>			합 계		
	공립	사립	합계	공립	사립	합계	공립	사립	합계	공립	사립	합계	공립	사립	합계
미정	1		1										1	-	1
2001	1		1										1	-	1
2000	1		1				1		1	1		1	3	-	3
1999	5		5	2		2	1		1	1			8	-	8
1998	8	1	9	2	1	3	3		3	3	1	4	16	3	19
1997	9	3	12	3		3	3		3	2	1	3	17	4	21
1996	5		5	2		2		2	2	1		1	8	2	10
1995	2	1	3	1	1	2	1		1	1	1	1	4	3	7
1994	5	2	7	8	8	1	2	3	2	2		2	8	12	20
1993	2	1	3		1	1			3		3	5	2		7
1992	2		2	2	2	2	2		2			4	2		6
1991	2	1	3				1		1	1	2	4	2		6
1990		1	1							1	1	-	2		2
1989	1		1		1	1						1	1		2
1988				1	1	2						1	1		2
1987				3	3	1	1	2				1	4		5
1985		1	1									-	1	1	
1982					1		1					1	-	1	
1980					1		1					1	-	1	
1978					1		1					1	-	1	
1977					1		1					1	-	1	
1976					1		1					1	-	1	
1975					1		1					1	-	1	
1973					1	1	2					1	1	2	
1946				2 <sup>1)</sup>	2							-	2		2
불명	3	1	4	3	3	1	1	1	1	1	5	4	9		
합계	47	12	59	11	23	34	22	6	28	14	5	19	94	46	140

1) 금강학원(金剛學園) 및 건국(建國) 고등학교는 46년도에 개설되었으며, 각각 51, 86년도부터 일본 학교교육법 제1조에 해당하는 고등학교로 되어 있음.

표 7 지역·개시년도별 강좌명

년도	<한글>	<한국어>	<조선어 <sup>1)</sup>	<한국조선어 <sup>2)</sup>	합계
미정	1 滋賀				1
2001	1 長野				1
2000	1 兵庫		1 広島	1 広島	3
1999	5 岐阜、滋賀、大阪、兵庫、広島	2 石川、沖縄	1 東京		8
1998	9 千葉、東京(1+1*)、神奈川、富山、兵庫(2)、鳥取、宮崎	3 島根、福岡*、鹿児島	3 兵庫、広島(2)	4 大阪(2*)、大分、京都	19
1997	12 北海道、岩手、宮城(1+1*), 東京(2)、京都(1+1*), 鳥取、愛媛(2)、佐賀	3 島根、熊本、沖縄	3 大阪、奈良、広島	3 京都*、大阪、大分	21
1996	5 長野、石川、三重、滋賀、山口	2 島根、大分	2 埼玉*、長野*	1 大阪	10
1995	3 神奈川、鳥取、大分*	2 広島*、福岡	1 東京	1 大阪*	7
1994	7 神奈川*、新潟、福井*、広島、福岡(2)、佐賀	8 宮城*、山形*、群馬*、千葉*、滋賀*、奈良*、福岡*、熊本*	3 兵庫*、広島(1+1*)	2 大阪(2)	20
1993	3 北海道*、大阪、鳥取	1 大分*		3 大阪(2)、広島	7
1992	2 神奈川、佐賀	2 山口*、熊本*	2 東京、大阪		6
1991	3 岩手、和歌山*、宮崎		1 大阪	2 大阪、埼玉*	6
1990	1 愛知*			1 東京*	2
1989	1 岩手	1 熊本*			2
1988		2 山形*、滋賀			2
1987		3 埼玉*、大阪*、宮崎*	2 広島*、熊本		5
1985	1 大阪*				1
1982			1 東京		1
1980			1 東京		1
1978			1 大阪		1
1977			1 大阪		1
1976			1 大阪		1
1975			1 兵庫		1
1973			2 兵庫、広島*		2
1946		2 大阪(2*)			2
불명	4 東京、京都*、山口、佐賀	3 北海道*、福井*、大分*	1 兵庫	1 大阪	9
합계	59 (*11; 18.6%)	34 (*23; 67.6%)	28 (*6; 21.4%)	19 (*6; 31.6%)	140

1) &lt;조선말&gt;/choson-go/(1)을 포함함. 2) &lt;조선한국어&gt;(1), &lt;조선어(한국어)&gt;(1)를 포함함.

\* 시립학교 학계(\*) 속에 시립학교수 및 비율을 표시했음.

표 8 영어 이외의 외국어 교육 개강 상황

언어	학교수						이수자수
	1986	1988	1990	1993	1995	1997	
중국어	공립	19	40	64	96	124	7,915
	사립	27	31	47	58	68	7,475
	합계	46	71	111	154	192	15,390
한국어 <sup>1)</sup>	공립	4	8	10	25	47	2,046
	사립	3	6	14	17	26	1,883
	합계	7	14	24	42	73	3,929
프랑스어	공립	26	34	44	57	74	3,448
	사립	49	55	63	71	73	5,739
	합계	75	89	107	128	147	9,187
독일어	공립	17	24	31	37	43	1,549
	사립	26	30	30	36	42	3,218
	합계	43	54	61	73	75	4,767
스페인어							
	공립	7	9	13	23	27	1,249
	사립	12	12	18	16	16	987
	합계	19	21	31	39	43	2,236
러시아어							
	공립	1	2	3	5	11	315
	사립	1	2	3	6	9	504
	합계	2	4	6	11	20	819
기타 외국어							
	공립	0	0	0	0	0	71
	사립	6	6	5	6	20	324
	합계	6	6	5	6	20	395
합계							
	공립	74	117	165	243	326	484
	사립	124	142	180	211	244	325
	합계	198	259	345	454	570	809
							36,723

자료: 일본 문부성

1) 문부성 자료에서는 &lt;조선·한국어&gt;로 되어 있음.

### III

# 한국어 교육 현황

## 중국어 교육과의 비교를 통하여

각 학교에 있어서의 한국어 및 중국어 교육의 개강경위와 착수내용은 지역이나 도입 시기, 학교의 특성 등에 따라 각양각색이므로 한가지로 논할 수는 없습니다. 아래에 몇 개 학교의 구체적인 예를 소개하면서 한국어 교육이 처한 현황을 살펴 보려고 합니다. 한국어 교육 착수상황을 소개할 경우에는 <한글>(ハングル), <한국어>(韓國語)등 각 학교에서 쓰는 명칭을 <>를 붙이고 사용하기로 합니다.

### 1 도입 경위

각 학교에서 개강을 추진하고 또 유지하고 있는 교원들의 노력, 교장 또는 이사장 등의 생각, 학교의 개편(예/보통과·상업과로부터 종합학과로) 및 통폐합(統廢合), 지방자치체의 국제화 정책과의 관련 등 한·중국어 교육 착수에 영향을 미치는 요인들은 아주 다양합니다. 이하에 몇 개 학교 및 교육위원회의 예를 소개하겠습니다. 문장·발언을 인용할 경우 [ ]안에 필자·발언자의 성씨를 표기합니다.

◆ **효고현립 미나토가와(兵庫縣立湊川)고등학교** 전국에 앞서서 73년에 <조선어>를 필수과목으로 개강하였다. 지금이야 전국적으로 약 150개 고등학교에서 <조선어> 수업이 진행되어 외국어로서의 시민권을 얻으려고 있지만 이웃나라 언어가 일본의 공적인 교육에 들어갈 여지조차 없었던 당시에

언어를 배우는 과정을 통하여 이웃나라(제일 교포를 포함하여)를 바르게 이해하고 우호관계를 깊히려는 목표하에서 설치하였다. 그러기까지의 노력과 결단, 선견성(先見性)이 4분의 1세기를 거쳐 오늘 겨우 결실을 맺고 있다. [방 方] (표27 참조)

◆ **가고시마현립 가고시마히가시(鹿兒島縣立鹿兒島東)고등학교** 86년, 전국에서 두번째로 국제교양과를 설치하였다. 애초부터 설치하던 중국어에 추가하여 98년도에는 <한국어>, 프랑스어, 스페인어를 도입하였다. 1학년 전체가 필수과목으로서 중국어회화를 2단위 이수한다. 4개 언어 중에서 2학년은 2단위, 3학년은 3단위로 어느 하나를 선택·이수할 수 있는 커리큘럼을 작성하였다. 10~20명 학급을 편성하여 한국어와 중국어는 모어화자 교원과 팀·티칭(team teaching)으로 수업을 진행한다. 한국, 중국의 학교와 자매학교를 맺어 교류를 시작하고 있으며 장래는 교환 유학까지 연계시키려고 생각하고 있다.

◆ **효고현(兵庫縣) 교육위원회** 87년도에 다양한 외국어를 배울 기회를 만들기 위하여 3개 현립 고등학교를 중심으로 <한글>과 중국어 강좌를 시작하였다. 두 언어를 배우는 과정을 통하여 이웃나라와의 우호관계를 깊히려는 소원이 있었기 때문이다. 현립 고등학교에 다니는 모든 학생을 대상으로 하고 있다. 수업은 토요일(거의 격주) 오후와 여름 방학 때 실시하고 있다. 클럽활동이나 학교행사와 겹칠 때도 있어서 출석상황이 좋지 않거나 강좌실시학교에서 면 학생들

의 통학문제도 있지만 하나의 모델로써 주목된다. 강좌는 미나토가와(湊川)고등학교(<한글>과 중국어), 간자키(神崎)공업고등학교·히메지키타(姫路北)고등학교(중국어) 등 3개교에서 실시하고 있다. 이수 단위수는 2단위임. (표27 참조)

- ◆ 오사카부(大阪府) 교육위원회 91년도부터 93년도에 걸쳐 오사카부립 고등학교 9개교에 국제교양과를 설치하였다. 어학교육의 충실을 특색의 하나로 삼아 제2외국어를 커리큘럼에 도입하고 있다. 아사히(旭), 사노(佐野), 수미요시(住吉), 하나조노(花園), 히라카타(枚方), 미노오(箕面)의 6개교는 <한국조선어>와 중국어, 센보쿠(泉北), 센리(千里), 나가노(長野)의 3개교는 중국어를 개강하고 있다. <한국조선어>에 관해서는 97-98년도에 실시하지 않았던 학교도 포함함. (표27 참조)
- ◆ 듯도리현립 아오야(鳥取縣立青谷)고등학교 우호도시인 중국 강소성 태창(太倉)시와의 교류를 기반으로 환(環)동해 교류의 기점을 지향하고 있던 아오야쵸(青谷町)와, 학생들에게 목적의식을 갖게 하기 위한 코스제 도입을 검토하고 있던 아오야고등학교 와의 구상이 일치하여 95년도의 국제코스를 설치함과 동시에 제2외국어로서 <한글>과 중국어 교육을 시작하였다. 학교축제의 일환으로 일·한·중 고등학교 국제심포지움을 아오야쵸에서 주최하고 한국 경상도 거창상업고등학교와 중국 태창사범학교에서 학생과 교원을 초청하고 있다. <한글>강좌 강사는 아오야쵸에서 초청한 국제교류원이다.

## 2 이수개요

표 9에 한국어와 중국어 강좌가 설치되어 있는 학과를 표시하였습니다. 어느 경우에서나 보통(일반)과가 가장 많습니다. 보통과 안에 설치되어 있는 학교에서도 일부 코스에서

만 개강하는 경우가 많으며, 한국어는 52개교 중 14개(26.9%), 중국어는 94개교 중 42개(44.7%)가 보통과의 일부 코스 안에서 개강되고 있습니다. 97년도 이후에는 폭넓은 선택과목을 설치할 수 있는 종합학과로서 두 언어교육을 도입하는 경향이 있습니다.

한국어와 중국어를 동시개강한 52개교 중 14개는 한·중국어교육을 종합학과에 설치하고 있습니다. 98년도 현재 종합학과를 설치한 학교는 일본전국에 106개교가 있습니다. 그 중에서 두 언어교육 착수상황은 한국어 18개교, 중국어 29개교이며, 종합학과 설치학교 전체에서 한국어가 차지하는 비율은 17.0%이고, 중국어가 차지하는 비율은 27.4%입니다. 교육행정상에서도 각 통학 지역에 종합학과가 있는 학교를 한 학교씩 설치하는 것을 목표로 하고 있으며 종합학과의 보급이 두 언어교육 보급에 연계되는 것이 바람직합니다.

◆ 가나가와현립 다이시(神奈川縣立大師)고등학교 96년도에 종합학과에 이행하고 97년도에 중국어, 프랑스어, 스페인어, 98년도에 <한글>, 99년도에 포루투갈어를 개강하였다. 6개 계열(系列)이 있으며 지역국제계열의 학생들이 종합선택과목으로서 이수하고 있다.

표 9 설치학과별 한·중국어 교육 착수학교

학과 / 학과 <sup>1)</sup>	중국어	한국어
普通科	보통과	92
総合学科	종합학과	29
国際経済科	국제경제과	22
商業科	상업과	19
国際科	국제과	14
国際教養科	국제교양과	14
国際文化科	국제문화과	7
外国語科	외국어과	6
英語科	영어과	5
工業科	공업과	2
国際観光科	국제관광과	2
国際情報科	국제정보과	2
情報処理科	정보처리과	2
情報科	정보과	2

주) 한 학교가 복수 학과에서 개강하는 경우 증복이 있음.

1) 두 학교 이상에서 개강 되어 있는 학과

◆ **효고현립 고베코호쿠(兵庫縣立神戶甲北)고등학교** 97년도에 보통과에서 종합학과로 이행하였다. 재일교포를 비롯하여 아시아 각국의 재일외국인들이 학교 지역내에 많이 거주하고 있기 때문에 “아시아와의 연결”을 학교 특색의 하나로 삼아 외국어 과목으로서 <한글>, 중국어, 베트남어, 인도네시아어를 개강하고 있다. 자매학교 관계에 있는 한국 울산의 고등학교와 학생간의 상호 방문을 실시하고 있다. 98년도에는 한국으로 수학여행을 실시하였다.

전문(실업)고교에서의 한·중국어교육 착수상황을 표10에 표시하였습니다. 한국어교육의 경우 전문고교 중에서 상업고교의 비율이 가장 높고 공업고교가 버금 갑니다. 중국어는 상업고교에서 착수하는 학교가 43개로서 착수 학교 전체의 12.2%를 차지하고 있습니다.

표11에 이수형태별 한·중국어교육 착수학교 수를 표시하였습니다. 가장 많은 것은 자유선택으로서 한국어는 53.2%, 중국어는 46.6%입니다. 다음으로 많은 것이 필수선택으로서 한국어는 33.3%이고 중국어는 32.8%이며, 한국

어의 87.3%가 자유 또는 필수선택 과목이며, 필수과목은 9.5%입니다. 중국어는 83.8%가 자유 또는 필수선택 과목이며, 필수과목은 12.5%입니다. 필수와 필수선택 과목을 겸하고 있는 학교가 각각 3.2%, 3.7%입니다. 두 언어교육에 착수하는 학교에서는 대부분이 선택과목으로 되어 있다는 것을 알 수 있습니다.

표12은 이수기간별 한·중국어교육 착수상황을 표시하고 있으며 선택과목일 경우는 이수할 수 있는 최장 기간을 의미합니다. 이수기간이 1년인 학교는 한국어가 52.7%, 중국어가 46.9%이며, 이수기간이 2년인 학교는 한·중국어가 각각 35.7%, 38.5%이며, 1년과 2년을 합치면 한국어가 88.4%이고 중국어가 85.3%입니다.

◆ **지유노모리 학원(自由의森學園)** 1년에 30교시 밖에 없으며, 많아야 2년에 90분 수업이 60번이다. 학생들이 스스로 선택하는 것을 기본으로 하여 1년간인 경우에는 회화학습을 우선하고 문법학습 요구가 제기될 경우는 2년간 계속학습을 약속시킨다. 학생들의 수준을 고려한 다음에 목표에 대하여 학생과 상담하는 것이 좋다고 생각한다. 문자와 발음 학습으로부터 시작한다면 학생들이 처음에 받는 스트레스가 크기 때문에 그것을 이해시킨 다음 목표를 세우도록 하고 있다. [구로사와 黑澤] (표27 참조)

표 10 전문고교별 한·중국어 교육 착수학교

전문고교	중국어	한국어
상업고등학교	43	8
공업고등학교	4	4
농업고등학교	1	1

표 11 이수형태별 한·중국어 교육 착수학교

이수형태	중국어				한국어			
	합계	(%)	공립	사립	합계	(%)	공립	사립
자유선택	138	(46.6)	109	29	67	(53.2)	54	13
필수선택	97	(32.8)	77	20	42	(33.3)	33	9
필수	37	(4.1)	11	26	12	(9.5)	3	9
필수선택 + 자유선택	13	(6.5)	11	2	1	(0.8)	1	-
필수 + 필수선택	9	(3.0)	5	4	1	(0.8)	-	1
기타 <sup>1)</sup>	2	(0.7)	1	1	3	(2.4)	2	1
합계	296	(100.0)	214	82	126	(100.0)	93	33

주) 한 학교가 복수의 이수형태를 가질 경우 중복이 있음.

1) 필수 + 자유선택, 필수 + 필수선택 + 자유선택

표 12 이수기간별 한·중국어 교육 착수학교

기간	학년	중국어 (%)	한국어 (%)
1년	1	6	6
	2	43	22
	3	72	30
	기타	13	10
		134 (46.9)	68 (52.7)
2년	1-2	9	6
	2-3	97	40
	기타	4	0
		110 (38.5)	46 (35.7)
3년 이상	1-3	42	11
	기타	0	4
		42 (14.7)	15 (11.6)
합계		286 (100.0)	129 (100.0)

주) 한 학교가 복수의 이수형태를 가질 경우 중복이 있음.

표13에는 이수단위수별 개강상황을 표시하였습니다. 선택과목인 경우는 이수할 수 있는 최대단위수를 의미합니다. 한·중국어는 2단위가 가장 많은 바 각각 40.8%, 37.6%를 차지하고 있습니다. 다음으로 많은 것이 4단위로서 각각 30.8%, 29.3%입니다. 2단위와 4단위 선택률을 합치면 한국어가 71.7%, 중국어가 66.9%입니다. 표14는 이수단위수와 형태를 합쳐 본 것입니다. 많은 학교에서 한·중국어를 선택과목으로 하고 이수단위수는 2 내지 4단위로 하

고 있음을 볼 수 있습니다. 표15에 단위수가 많은 한국어 교육 착수학교를 표시하였습니다. 이상에서 보다시피 고등학교에서의 한국어, 중국어 등의 외국어교육 학습자는 실제상 일부분의 학생 뿐이라는 것을 알 수 있습니다. 그것은 학교별 학습자수(표16)에도 나타나고 있습니다. 학습자수가 11-20명 규모인 학교가 가장 많으며 한국어는 25.4%이고 중국어는 23.0%입니다. 그리고 한국어는 10명 이하가 22.2%이고 101명 이상이 14.3%이며, 31-40명

표 13 이수단위수별 한·중국어 교육 착수학교

단위수	중국어			한국어				
	합계	(%)	공립	사립	합계	(%)	공립	사립
1	4	(1.4)	2	2	5	(4.2)	3	2
2	108	(37.6)	81	27	49	(40.8)	41	8
3	24	(8.4)	14	10	7	(5.8)	4	3
4	84	(29.3)	66	18	37	(30.8)	30	7
5	13	(4.5)	10	3	6	(5.0)	4	2
6	29	(10.1)	21	8	10	(8.3)	7	3
7	8	(2.8)	7	1	1	(0.8)	1	0
8	3	(1.0)	3	0	0	(0.0)	0	0
9	2	(0.7)	1	1	2	(1.7)	1	1
10-19	8	(2.8)	4	4	2	(1.7)	1	1
20-28	4	(1.4)	2	2	1	(0.8)	0	1
	287	(100.0)	211	76	120	(100.0)	92	28

주) 한 학교가 복수의 이수형태를 가질 경우 중복이 있음.

표 14 이수단위수와 형태별 한·중국어 교육 착수학교

단위수	중국어				한국어			
	자유 선택	필수 선택	필수	기타	자유 선택	필수 선택	필수	기타
1	1	0	3	0	2	0	3	0
2	52	42	13	1	30	15	3	1
3	11	9	4	0	6	1	0	0
4	40	35	3	6	19	16	0	2
5	6	4	1	2	1	4	1	0
6	17	4	6	2	4	3	2	1
7	1	1	1	5	0	1	0	0
8	2	0	0	1	0	0	0	0
9	1	0	0	1	1	0	1	0
10-19	0	1	4	3	0	1	0	1
20-28	0	0	2	2	0	0	1	0
	131	96	37	23	63	41	11	5

주) 한 학교가 복수의 이수형태를 가질 경우 중복이 있음.

표 15 이수단위수가 많은 한국어 교육 착수학교

학교 (*사립)	현	지역	단위수	설치학과 (개시년도)
* 敦賀氣比	福井	후쿠이	28	국제과 <한글> 코스 (94-97)
* 金剛学園	大阪	오사카	13	보통과 (46)
佐野工業定時制	大阪	오사카	12	보통과 (91)
* 建国	大阪	오사카	9	(46)
下関国際	山口	야마구치	9	[98] <sup>1)</sup>
長吉	大阪	오사카	7	보통과 (77)
* 酒田南	山形	아마가타	6	(94)
花巻南	岩手	이와테	6	국제과 (91)
南葛飾定時制	東京	도쿄	6	보통과 (82)
* 上田西	長野	나가노	6	(96)
* 同志社国際	京都	교토	6	보통과 (97)
今宮工業定時制	大阪	오사카	6	보통과 (78)
阪南	大阪	오사카	6	보통과 (93)
神戸甲北	兵庫	효고	6	종합학과 (98)
湊川	兵庫	효고	6	보통과 (정시제) (73)
青谷	鳥取	돗토리	6	보통과 (95)

주) 단위수 6단위 이상의 착수학교

1) 98년도만 확인되어 있음.

이 12.7%이고 21~30명이 9.5%입니다. 중국어는 21~30명이 15.3%, 10명 이하 및 101명 이상이 11.5%, 31~40명이 10.0%입니다. 학습자수가 20명 이하인 학교는 한국어가 47.6%이고 중국어가 34.4%이며, 30명 이하인 학교는 한국어가 57.1%이고, 중국어가 49.8%입니다. 중국어 착수학교의 약 반수는 학습자수가 30명 이하인데 반해 한국어 착수학교의 약 반수는 학습자수가 20명 이하라는 실태입니다.

표17에는 학습자수가 특히 많은 학교를 표시하였습니다. 한국어의 경우는 학습자수가 100명을 넘는 10개교 가운데서 4개가 사립학교이며 중국어의 경우는 학습자수가 150명을 넘는 17개교 가운데서 13개가 사립학교입니다. 한국어교육의 상위 6개교는 한국으로 수학여행을 실시하고 있으며 중국어에서는 수학여행 이외에도 어학연수, 자매학교 결연 등을 실시하고 있는 학교가 많은 것을 볼 수 있습니다. 지역적으로 보면 중국어가 전국적으로 보급되고 있는데 반해 한국어는 야마가타(山形)·도쿄(東京)[각각 1개교]이외에는 관서 서쪽지방에 집중되어 있습니다.

### 3 교원들을 둘러싸는 상황

강좌를 담당하는 교원으로서 한국어 교육 101명, 중국어 교육 360명을 확인하였습니다.

그 중에는 중복해서 가르치는 교원도 많이 있으며 실제 교원수는 더 적은 것으로 추측됩니다.

한·중 두 언어교육을 도입하여 학교에서 어느 정도의 위치를 차지하기 위하여, 강좌 담당교원 뿐만 아니라 강좌 추진사업을 담당하고 있는 교사들이 중요한 역할을 하고 있습니다. 수업이 있는 시간 밖에 학교에 오지 않은 시강강사와 학생, 그리고 학교측과의 조절역할을 할 뿐더러 교직원이나 관리직원을 설득하는 일부터 시작하여 강사의 확보, 수강생 모집, 교실 준비 등을 맡아 개강후의

표 16 학습자수별 한·중국어 교육 착수학교

학습자수	중국어			한국어				
	합계	(%)	공립	사립	합계	(%)	공립	사립
2 - 10	24	(11.5)	19	5	14	(22.2)	12	2
11 - 20	48	(23.0)	34	14	16	(25.4)	7	9
21 - 30	32	(15.3)	27	5	6	(9.5)	4	2
31 - 40	21	(10.0)	17	4	8	(12.7)	6	2
41 - 50	10	(4.8)	7	3	4	(6.3)	2	2
51 - 60	17	(8.1)	11	6	2	(3.2)	1	1
61 - 70	12	(5.7)	9	3	3	(4.8)	1	2
71 - 80	10	(4.8)	8	2	0	(0.0)	0	0
81 - 90	6	(2.9)	3	3	0	(0.0)	0	0
91 - 100	5	(2.4)	5	0	1	(1.6)	1	0
101 以上	24	(11.5)	7	17	9	(14.3)	5	4
학교수	209	(100.0)	147	62	63	(100.0)	39	24
학습자수	11,981		5,990	5,991	3,276		1,589	1,687

주) 일본 문부성 자료에 의하면 97년도의 한국어 및 중국어 개강 학교수(학습자수)는 각각 103개교(3,929명), 303개교(15,390명).

표 17 학습자수가 많은 한국어 교육 착수학교

학교 (*사립)	현	지역	학습자수	이수형태 (개시년도)	한국과의 교류
* 楊志館	大分	오이타	464	1학년 모두 필수 (93)	수학여행
* 酒田南	山形	야마가타	315	각 학년 필수 (94)	수학여행
唐津商業	佐賀	사가	210	상업과 2-3학년 필수 + 자유 선택 (92)	수학여행
菊池農業	熊本	구마모토	207	1학년 모두 필수 (97)	수학여행
* 早鞆	山口	야마구치	180	보통과, 상업과, 가정(家政)과 2학년 필수 (92)	수학여행
* 建國	大阪	오사카	169	각 학년 필수 (46)	수학여행
湊川	兵庫	효고	135	보통과(정시제) 2-4학년 필수 (73)	
尼崎工業	兵庫	효고	130	외국어과 <조선어> 코스 자유 선택 (75)	
西成	大阪	오사카	126	보통과 2-3학년 필수 선택 (76)	
南葛飾定時制	東京	도쿄	100	보통과(정시제) 2-3학년 필수 (82)	

주) 학습자수가 100명 이상인 학교

강좌운영에 적극적으로 참여하고 있는 교사들(본인이 수업을 맡을 경우와 그렇지 않을 경우가 있음)이 한·중국어 교육을 받드는 큰 힘이 되고 있습니다. 다음에 소개하는 문장은 한 공립고등학교에서 <한글>강좌 도입에 힘쓴 교원의 글입니다.

◆ 나가노현립 마쓰모토아리가사카(長野縣立 松本蟻ヶ崎) 고등학교 <한글기초>수업을 개강한지 3년이 지났다. 교재 선택으로부터 평소의 수업전개에 이르기까지 모색 속에서 진행하여 왔다. 3학년 2단위 선택과목이라는 개강형태에서 무엇을, 어떻게 취급하면 좋을지 시행착오 속에서 98년 여름, 한국어교육에 종사하고 있는 고등학교 교사들과의 만남 그 자체가 나에게 있어서 뜻 깊은 일이었다<sup>주)</sup>. 교과서·교재개발, 한국어 교육의 보급, 각종 개강형태에 맞는 학습 지도요령 작성 등 해야할 과제가 아찔할 정도로 많지만 착실하게, 할 수 있는 일부터 하나하나씩 해나갈 수 밖에 없다고 생각한다. [니시자와 西澤](표27 참조)

주) 제1차 고등학교 한국어 교사 연수회(p.64 참조)

표18에는 강사·교사 등 직명별 담당교원수를 표시하였습니다. 한국어 경우도 중국어 경우도 강사가 많으며 각각 59.4%와 65.0%입니다. 교유(敎諭)가 차지하고 있는 비율은 각각 33.7%와 26.1%입니다.

표19에는 교원자격증별 교원수를 표시하였습니다. 중국어 자격증 소지자가 63.9%인데 반해 한국어 자격증 소지자는 37.3%로서 교원자격증 보유률에 큰 차이가 있습니다. 중국어는 국어자격증 소지자가 42.2%인 것이 특징이며 한국어는 영어자격증 소지자가 27.5%인 것이 특징입니다. 임시자격증 소지자는 중국어가 5.6%이고 한국어가 15.7%입니다. 담

표 18 직명별 한·중국어 교육 담당교원수

직명	중국어		한국어
	94년도 (%)	97년도 (%)	97년도 (%)
강사	128 (59.8)	234 (65.0)	60 (59.4)
교유	59 (27.6)	94 (26.1)	34 (33.7)
ALT <sup>1)</sup>	27 (12.6)	25 (6.9)	3 (3.0)
기타	0 (0.0)	7 (1.9)	4 (4.0)
	214 (100.0)	360 (100.0)	101 (100.0)

1) ALT: Assistant language teacher

표 19 자격증별 한·중국어 교육 담당교원수

중국어 교원		
자격증	과목 / 종류	교원수 (%)
중국어	중국어만	40
	+ 국어(일본어)	48
	+ 영어	20
	+ 기타 교과	7
		115 (63.9)
임시자격증	임시자격증만	6
	+ 사회	2
	+ 국어(일본어)	1
	+ 국어 + 사회	1
		10 (5.6)
기타 교과	국어(일본어)	26
	사회	10
	영어	9
	기타 교과	10
		55 (30.6)
합계		180 (100.0)

1) 자격증 과목명은 <조선어>로 되어 있음. 2) 임시자격증 과목명은 교육위원회에 따라 다르다.

한국어 교원		
자격증	과목 / 종류	교원수 (%)
조선어 <sup>1)</sup>	조선어 <sup>1)</sup> 만	11
	+ 영어	5
	+ 기타 교과	3
		19 (37.3)
임시자격증 <sup>2)</sup>	임시자격증만	6
	+ 영어	2
		8 (15.7)
기타 교과	영어	7
	국어(일본어)	4
	음악	3
	상업	2
	사회 + 기타 교과	2
	농업	2
	기타 교과	4
		24 (47.1)
합계		51 (100.0)

당교과의 외국어 자격증(임시자격증을 포함)을 소지하는 교원의 비율은 중국어교원이 69.4%인데 반해 한국어교원은 52.9%입니다.

한국어와 중국어 JET 프로그램<sup>주)</sup>에 의한 어학지도조수는 98년도에 처음으로 한국에서 1명(돗도리현), 중국에서 3명(나가사키·후쿠이현)이 초치되었습니다. 영어권보다 약 5년 뒤떨어져 92년도에 중국에서, 93년도에 한국에서 초치된 국제교류원도 중국어 혹은 한국어 강사를 하고 있습니다. 지역에 거주하는 유학생 또는 모어화자가 수업에 참가하고 있는 예도 많이 볼 수 있습니다.

이하, 98년 8월에 개최된 제1차 고등학교 한국어교사 연수회 및 그 운영위원회에서의 발언을 인용하면서 교원을 둘러싸는 상황을 제시하도록 합니다. 한국어 경우 교원자격증은 <조선어>라는 명칭을 사용하고 있습니다. 임시자격증에 대해서는 각 지역 교육위원회에 따라 명칭이나 유효기간이 다릅니다.

#### ◆ 교원자격에 관한 요망

- 구마모토(熊本)현에는 교원자격증 소지자가 현내에 1명 밖에 없다. 강좌개설시에 현 교육위원회가 걱정하는 것도 교원의 자격문제이다. 한국어능력시험에 자격증 취득에 연결되는 시스템이 있었으면 좋겠다.

- 대학통신교육에서 한국어 교원자격증 취득을 위한 전문과목을 수강할 수 있게 되었으면 좋겠다.

- 게이오기쥬쿠(慶應義塾)대학교, 다마가와학원(玉川學園)대학교, 불교(佛教)대학교 등 교직과정을 갖고 있고 통신교육과정이 있는 대학교와 연결할 수 없을까.

#### ◆ 임시자격증

- 자격증이 하나 있는 전제하에서 교장으로부터 효고현 교육위원회에 임시자격증을 신청한다. 원칙은 3년간이고 3번 연장할 수 있다. 자치체와 학교에 따라 상황이 다르기 때문에 다른 학교에서는 통하지 않을 경우도 있다.

- 다른 자격증을 갖고 있을 경우 교장의 추천을 받고 오사카부 교육위원회와의 협의 하에 임시자격증을 교부(交付)하였지만 임시자격증 교부가 엄격하고 유효기한이 3년이며, 갱신은 못 한다. 또 제2외국어 교육에 종사하는 교원은 자격증이 없어도 되지만 보통과 교원은 자격증이 필요하다는 문제점이 있다.

표20에는 교원수별 한·중국어교육 착수학교를 표시하였습니다. 한국어와 중국어는 모두 1명의 교원만으로 담당하는 경우가 많으며 각각 75.4%와 69.1%입니다. 2명인 경우 (14.5%, 22.0%)를 포함한 교원수 1-2명은 각각 89.9%와 91.1%이며 대부분의 착수학교에서 상근, 비상근 강사를 합쳐서 2명 이하의 교원이 담당하고 있음을 알 수 있습니다.

표21에는 담당교원의 모어에 대하여 표시하였습니다. 그리고 두 언어에서 담당교원의 약 60%를 차지하고 있으며 앞으로도 두 언어

표20 담당교원수별 한·중국어 교육 착수학교

교원수 / 직명	중국어(%)	한국어(%)
1명	강사	128 39
	교유	35 10
	ALT	3 1
	기타	4 2
	170 (69.1)	52 (75.4)
2명	교유+강사	22 4
	강사	16 4
	강사+ALT	8 0
	교유+ALT	4 2
	교유	2 0
	교유+기타	2 0
	54 (22.0)	10 (14.5)
3명	교유+강사	3 2
	강사	3 1
	교유+강사+ALT	3 0
	교유	1 2
	강사+ALT	1 0
	교유+기타	1 0
	12 (4.9)	5 (7.2)
4명 이상	교유+강사	4 2
	교유+ALT	3 0
	강사	2 0
	교유+강사+ALT	1 0
	10 (4.1)	2 (2.9)
합계	246 (100.0)	69 (100.0)

주) Japan Exchange and Teaching Program 어학지도 등을 진행하는 외국청년초치사업

교육을 추진시키는데 있어서 큰 힘이 된다고 예상되는 강사의 모어를 살펴 본 것이 표22입니다. 일본어를 모어로 하는 교사의 비율은 담당교원과 강사 사이에 10% 이상 차이가 있으며, 한국어에서는 41.1%와 27.8%, 중국어에서는 56.4%와 44.3%로 되어 있습니다.

표23에 수업시간별 담당교원수를 표시하였습니다. 한·중국어 다 2시간이 가장 많으며, 각 교원수의 28.9%, 28.7%를 차지하고 있습니다. 다음으로 4시간이며 17.8%, 23.1%이므로 담당교원의 약 반수가 2-4시간으로 되어 있는 상태입니다.

#### 4 교재와 수업 연구

지금까지 살펴 본 단워수·학습자수나 교원수 등으로 인한 실태에 따라, 한·중국어 교육 착수학교 중 많은 학교에서 회화와 사회·문화를 중심으로 한 학습에 중점을 두고 있습니다. 지도요령도 없고 교재도 부족한 상황에서 담당교원들은 날마다 수업에 임하고 있습니다.

표 21 담당교원의 모어

모어	중국어 (%)
중국어	141 (42.7)
일본어	186 (56.4)
일본어 + 중국어	3 (0.9)
	330 (100.0)

표 22 담당강사의 모어

모어	중국어 (%)
중국어	114 (54.3)
일본어	93 (44.3)
일본어 + 중국어	3 (1.4)
	210 (100.0)

#### ■ 교재

한국어 교원들이 가장 많이 호소하는 것이 고등학생들에게 알맞는 교재가 부족하다는 것입니다. 어느 특정한 교과서나 교재가 많이 쓰이는 것도 아니지만 그 중에서도 가장 많았던 것이 《한국어 1》(한국문화체육부, 한림출판사)과 《쓰고 배우는 초급 조선어》(書いて覚える初級朝鮮語、白水社) 2개입니다.

중국어의 경우 전국 고등학교 중국어교육 연구회<sup>주)</sup> 편저인 《고교 중국어》(高校中國語, 초판 87년, 개정판 94년 白帝社)가 많은 고등학교에서 사용되고 있습니다.

연구회에서는 99년 6월에 《고등학교 중국어 교육의 목표》를 발행하였습니다. 풍부한 경험을 가진 고등학교의 중국어 담당교원들이

주) 고등학교에 있어서의 중국어교육의 교수법 연구와 회원상호간의 교류와 친선도모를 목적으로 82년도에 설립됨. 회원은 주로 고등학교에서 중국어교육을 담당하고 있는 교원들. 주요활동으로 연차연구대회의 개최, 고교생을 대상으로 한 교재의 편찬, 회보의 발행 등이 있다. 전국에 6개 지부가 있고 지부마다 연구회나 고교생 중국어변론대회 등을 개최하고 있다.

표 23 수업시간별 담당교원수

수업 시간수	중국어 교원수 (%)		한국어 교원수 (%)	
	교원수	(%)	교원수	(%)
1	8	(2.6)	4	(4.4)
2	87	(28.7)	26	(28.9)
3	28	(9.2)	8	(8.9)
4	70	(23.1)	16	(17.8)
5	15	(5.0)	5	(5.6)
6	39	(12.9)	3	(3.3)
7	4	(1.3)	1	(1.1)
8	10	(3.3)	6	(6.7)
9	3	(1.0)	4	(4.4)
10	9	(3.0)	2	(2.2)
11	6	(2.0)	1	(1.1)
12	2	(0.7)	3	(3.3)
13	0	(0.0)	1	(1.1)
14	2	(0.7)	4	(4.4)
15	5	(1.7)	1	(1.1)
16	9	(3.0)	0	(0.0)
17	1	(0.3)	1	(1.1)
18	5	(1.7)	3	(3.3)
19	0	(0.0)	1	(1.1)
	303	(100.0)	90	(100.0)

중심이 되어 고교생들이 제2외국어로서 중국어를 배우는데에 무엇을 어떤 배열·순서로 배울 것이 바람직하는가를 토대로 하여 진지하게 제정·작성한 것이며, 구속적 성격을 가진 것이 아닙니다. 고등학교 중국어교육의 목표로서 (1) 중국어 음성의 특징을 고려하고 발음지도를 중시하여 중국어의 기초적인 능력을 키우는 것, (2) 커뮤니케이션 능력 양성을 도모하며 국제이해, 이문화이해를 깊히는 것을 목표로 합니다. 입문단계와 초급단계인 음성지도에 최소한 3-4단위가 필요하다고 보며 표준단위수를 3-4단위로 합니다. 문법편과 어휘편(약 700개 어휘)으로 구성되며, 본문 20페이지(A4 판)임.

아래에 인용한 것은 제1차 고등학교 한국어 교사연수회와 운영위원회의 검토내용입니다.

#### ◆ 교재와 교과서 작성

- 3년전에 개강했을 때 여러가지 교과서를 보았는데 양이 많고 고교생들에게 가르치기에는 적합하지 않았다. 20년전의 영어 교과서를 보고 있는 듯한 느낌이었다. 교재개발을 생각할 때 각 학교의 단위수가 크게 영향을 준다고 생각된다. 6단위 정도 되면 문법을 체계적으로 학습할 필요도 있겠지만 대부분 학교에서는 단위수가 거기에 따라가지 않는다.

- 자주작성교재를 사용하고 있다. 자기가 구입한 교재의 좋은 점을 택하여 가르치는 대상에 맞추어 다시 짠다. 정시제(定時制) 일 경우는 등교거부생(登校拒否生)이나 야간중학교(夜間中學校) 졸업 후의 할머니들 등 학습자 수준에 맞춘 교재를 만들 필요가 있다. 학생들의 자주성을 키울 수 있는 교재작성을 생각하고 있다. 학생들은 문법에 흥미를 가지지 않는다. 문법을 가르친 다음 노래, 회화 등을 가르치는 식으로 수업을 바꾸어 가면서 학생들이 주동적으로 배우도록 하는 강좌를 만들고 있다.

- 제1차 연수회에서의 발언을 듣고 표준적인 교과서, 지도지침, 센터 입시에 <조선어>를 도입하는 일, 교원자격 등이 과제라고 생각했다.

- 교과서와 지도지침은 밀접히 관계되어 있다. 영어의 경우 표준 단위수와 지도요령에 기초하여 편성되어 있다. 한국어 경우는 국제교양적인 것으로부터 인권교육까지 여러 가지 형태가 있으며 통일적인 교과서를 만들기는 어렵다.

- 통일적인 교과서가 있으면 개강할 때 자치체의 허가를 얻기 쉽다. 개강을 위한 환경이 마련되어 있는 증거가 되기 때문이다.

- 기존 교과서의 대상은 대학생이나 일반사회인들이다. 고교생을 주인공으로 한 교재를 원한다. 수업에 따라 단위수가 다르기 때문에 상하 2권으로 하고 단위수가 많은 경우에는 하권으로 진도를 나이가도록 한다. 가격은 1,000엔내지 1,500엔으로 제한하는 것이 좋다. 화제가 풍부하고 일본이나 한국의 고교생 뿐만 아니라 미국 고교생들의 장면도 등장하는 것이 좋겠다.

- 교과서를 만들 경우 화제(topic) 등은 현장의 교사도 설정할 수 있지만 어학적 측면에서 기본 어휘의 선정이 필요하다. 문법, 어휘, 화제 등이 잘 조화된 교과서가 작성되었으면 좋겠다.

- 학생들은 일상적으로 사용할 수 있는 언어를 원하고 있다. 기존 교재는 여행자 위주가 많다. 동세대의 한국인 고교생들의 생활을 이해할 수 있는 초보적인 회화를 중심으로 그들과 말할 때 사용할 수 있고 즐겁게 배울 수 있는 교과서가 만들어 졌으면 좋겠다.

- 전일제(全日制)·정시제(定時制)를 위한 문화이해 중심의 교과서 등 여러종류의 교과서가 필요하다.

- 적어도 입문, 초급, 문화이해 등 3가지가 필요하지만 작성할려면 막대한 작업이다. 우선 오래 사용되고 있는 교재를 보조 교재로 하여 정리하는 작업부터 착수하는 것이 어떻겠는가?

- 한국에서 역사교육이나 일본어교육을 담당하고 있는 교사와의 공동집필도 고려할 수 있다.

- 몇개 학교에서 장기간 사용되고 있는 일

반 교재를 모델으로 하여 개정하는 방법도 있다.

-평소의 수업내용의 축적과 정리가 필요하다. 다른 사람의 수업내용을 보면 많이 참고가 된다.

-교재수집과 정리로부터 시작하는 것이 어떻겠는가? 3년간분의 프린트를 수집하는 것도 의미가 있다. 기존에 있는 것으로부터 착수하는 것이 좋겠다.

### ■ 수업연구

영화나 비디오감상, 조리실습, 민속예술과 노래, 유학생이나 지역에 거주하는 모어화자에 의한 수업참가 등 학생들의 학습의욕을 불러 일으키기 위한 여러가지 연구를 하고 있습니다. 아래에 수업 예를 소개하겠습니다. (표27 참조)

#### ◆ 오시카부립 한난(大阪府立阪南)고등학교

93년에 한국어가 선택필수과목으로 개강되어 6년이 지났다. 그 이전의 비상근 강사 기간도 포함한 고등학교에서의 10년간을 합하면 16년이나 한국어교육에 종사한 것으로 된다. 갖 졸업했을 때 가끔씩 야간중학교, 민족학급, 고등학교 등에서 <조선어> 수업을 경험하게 되었는데 지금 생각하면 정말 귀중한 체험들이었다. 소학교 민족학급에서는 서투른 손풍금을 타고 점토로 거북선을 만들기도 하고 야간중학교에서는 할머니들과 민요를 부르고 고등학교에서는 조선문화연구회의 학생들과 함께 장고를 쳤으며 치마 저고리를 만들기도 하고 부채춤을 추기도하면서 학생시절에는 생각도 할 수 없었던 민족과의 만남이 있어 정말로 자극적인 매일이었다.

수업은 될 수록 천천히 복습하면서 진도를 나가고 있다. 대학생이나 일반 사회인을 대상으로 한 교재가 많기 때문에 지명이나 단어를 바꾸어 넣으면서 회화 응용학습을 한다. 학생들이 변격활용(變格活用)을 사전을 찾으면서 하는 것은 어렵다. 또 짧은 문장을 읽게 할 교재가 없다. 민화, 동

화 책을 한국에서 구입해 오고 있지만 한 책의 분량이 많고 대상이 아동이기 때문에 내용이 유치하여 적절하지 않다. 짧은 세대들이 쓰고 있는 말이나 인기가수, 배우 등의 말들을 바탕으로 한 짧고 간단한 문장으로 된 교재가 바람직하다. [임任]

◆ 히로시마 여학원(廣島女學院) 첫 수업에서 자기 소개를 한다. 문자구성에 대하여 설명한 다음, 반절표를 보면서 자기의 이름을 한글으로 쓰게 한다. 그 다음 학생들에게 관심이 있는 표현이나 간단한 인사말을 가르친다. 지금은 발음도 할 줄 알고 글자도 쓸 줄 안다. 1년의 학습목표는 검정 시험 합격이 아니라 의미가 통하는 것이다. 3,4교시 쯤 되면 학생들도 잠이 오기 때문에 신체 부위의 이름을 기억하는 게임을 하여 별적으로 한국어 노래를 부르게 하는 등 교사보다 학생이 말하는 시간을 많이 갖고 있다. 예산 내에서 여러가지 교재를 구입하여 부교재용 프린트를 작성하고 있다. 문법이나 연습 같은 것은 수시로 보충하고 있다. 한글로 일본어의 50음도를 쓰기 위한 프린트를 꼭 배부한다. 한글을 써우기 위하여 연습문제를 숙제로 한다. 발음도 중요하지만 쓰는 것이 필요하다. 받침 학습을 중시하고 주된 교재에 따라 수업을 진행하고 있다. [국鞠]

### 5 수학여행과 자매학교 교류

학생들이 조금이라도 한국어나 중국어 사용지역의 문화를 가깝게 느끼도록 하기 위하여 한·중국어교육 착수학교에서는 수업외에 여러가지 프로그램을 실시하고 있습니다.

#### ■ 한국·중국어권으로의 수학여행

언어학습을 추진하는 프로그램으로 가장 많이 실시되어 있는 것이 수학여행입니다. 한국어 착수학교 가운데서 한국을 방문하고 있는 학교는 예정을 포함해서 25.5%(42개교)입니다.

니다. 중국어 경우, 중국·대만·싱가포르 등 중국어권에 수학여행을 실시하고 있는 학교는 15.6%(55개교)입니다. 수학여행을 목표로 학습을 진행하는 등 언어 학습과 적극적으로 관련시키고 있는 학교도 있습니다.

72년도에 두 사립고등학교에서 한국 수학 여행을 실시한 것이 해외 수학여행의 시작입니다. 공립고등학교의 해외 수학여행은 84년 한국(후쿠오카福岡현), 87년 중국(우라와浦和市)에서 시작하여 그 후 실시학교와 학생 수는 해마다 늘어나고 있습니다. 한편, 해외로의 수학여행을 규제하고 있는 자치체도 있습니다. 98년 현재 8개 지방(이바라키茨城, 도치기栃木, 지바千葉, 도쿄東京, 가나가와神奈川, 나가노長野, 아이치愛知, 와카야마

和歌山)과 6개 정령 지정도시(삿보로札幌, 지바千葉, 가와사키川崎, 요코하마横濱, 나고야名古屋, 고베神戶)에서 해외 수학여행을 인정하지 않기 때문에 이런 지역에 있는 공립 고등학교에서는 실시하지 못하고 있습니다. 그러나 이미 시행에 들어간 데도 있으며 규제 완화의 방향이 되고 있습니다.

목적지별 수학여행 실시상황을 보면 학생 수로는 한국이 가장 많고 중국이 그 다음으로 많이 가고 있습니다. 97년도는 한국 38,769명(228개교), 중국 27,810명(124개교), 북미·하와이 27,303명(155개교), 오세아니아 19,352명(104개교) 순으로 되어 있습니다(표24 참조). 97년도에 수학여행으로 한국을 방문한 학생 수는 한국어 학습자수의 약 10배이며, 중국을

표 24 해외 수학여행 실시상황: 1991-98

나라·지역	학교 / 학생수	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998
한국	공립	40	45	49	67	107	139	146	145
	사립	90	85	92	90	84	90	82	79
	합계	130	130	141	157	191	229	228	224
	학생수	-	-	33,760	36,570	40,677	41,599	38,769	37,180
중국	공립	5	10	31	44	57	62	69	89
	사립	21	21	40	46	46	54	55	57
	합계	26	31	71	90	103	116	124	146
	학생수	-	-	19,619	25,126	29,497	27,840	27,810	31,537
아시아 (한국·중국 이외)	공립	3	3	7	3	10	17	36	50
	사립	31	30	34	40	45	60	55	65
	합계	34	33	41	43	55	77	91	115
	학생수	-	6,714	6,815	6,591	9,666	11,736	13,896	16,867
북미 <sup>1)</sup> 하와이	공립	0	1	2	4	8	13	17	19
	사립	72	66	84	100	113	132	138	137
	합계	72	67	86	104	121	145	155	156
	학생수	-	8,635	18,759	21,916	23,218	26,556	27,303	26,346
오세아니아 <sup>2)</sup>	공립	0	1	1	1	3	12	16	24
	사립	22	24	39	48	59	85	88	102
	합계	22	25	40	49	62	97	104	126
	학생수	-	6,160	8,570	10,157	13,339	20,047	19,352	21,166
유럽 외	공립	0	0	0	0	0	4	2	3
	사립	5	7	18	22	27	45	47	68
	합계	5	7	18	22	27	49	49	71
	학생수	-	446	1,008	1,633	3,047	5,508	5,160	7,822
합계	공립	48	60	90	119	185	247	286	330
	사립	241	233	307	346	374	466	465	508
	합계	289	293	397	465	559	713	751	838
	학생수	-	-	88,531	101,993	119,444	133,286	132,290	140,918

자료: 일본수학여행협회(日本修學旅行協會)

1) 미국, 캐나다, 멕시코      2) 호주, 뉴질랜드, 람, 사이판

방문한 학생수는 중국어 학습자수의 약 2배가 됩니다. 교과목 속에 한국어와 중국어가 없어도 수학여행 사전학습으로 방문지역의 문화·언어 등에 대하여 배우는 학교가 많으며, 수학여행(외국으로부터 받아들이는 것도 포함)과의 관련으로 대상지역의 언어·문화에 대하여 배우는 기회가 많아지기를 기대합니다.

### ■ 자매학교 교류

한국어의 경우, 한국에 자매학교가 있는 학교는 13.3%(22개교, 공립 4, 사립 18)이고 중국어의 경우는 중국, 대만, 싱가포르 등 중국어권에 자매학교를 가지고 있는 학교는 13.0%(46개교, 공립 19, 사립 27)입니다. 수학여행·어학연수 여행시에 자매학교를 방문하여 교류회를 개최하는 예가 많이 있습니다. (표25 참조)

표 25 해외 자매학교 결연상황

나라·지역	1986	1989	1991	1993	1995	1997
미국	공립	64	81	133	137	150
	사립	68	83	123	121	197
	합계	132	164	256	258	347
호주	공립	17	26	45	56	83
	사립	23	34	61	75	136
	합계	40	60	106	131	219
뉴질랜드	공립	0	0	8	11	15
	사립	6	10	25	28	47
	합계	6	10	33	39	62
한국	공립	6	9	17	20	28
	사립	56	65	79	77	83
	합계	62	74	96	97	111
캐나다	공립	7	8	19	20	19
	사립	7	14	30	32	62
	합계	14	22	49	52	81
중국	공립	11	13	20	13	21
	사립	19	29	24	29	51
	합계	30	42	44	42	99
대만	공립	0	0	3	2	4
	사립	24	11	32	31	29
	합계	24	11	35	33	35
기타	공립	2	3	7	8	14
	사립	15	18	34	52	58
	합계	17	21	41	60	72
합계 지역	공립	107	140	252	267	334
	사립	218	264	408	445	663
	합계	325	404	660	712	997
합계 1,352						

자료: 일본 문부성

이하, 제1차 연수회에서의 발언 및 한국의 농업학교와의 교류를 통해서 언어학습이 이루어진 예를 소개합니다.

### ◆ 자매학교 교류 및 수업실천

- 가나자와후시미(金澤伏見)고등학교에는 자매학교가 없었다. 이시카와(石川)현에서 4년전부터 초치하고 있는 한국인 국제교류원이 중개역이 되어 한국에 수학여행을 갔을 때의 교류로부터 시작되어 자매학교결연의 방향으로 나아가고 있다.
- 히로시마현에서는 한국교육원<sup>주1)</sup>을 통하여 한국교육부로부터 교류학교를 소개받고 있다.
- 일상적인 교류라는 의미에서 한일합동수업연구회<sup>주2)</sup>에서는 공통 교재를 사용한 한·일간의 수업실천 예를 서로 보고하는 것을 통하여 교류를 실시하고 있다.

◆ 구마모토현 기쿠치(熊本縣立菊池)농업고등학교 한국어회화가 도입된 것은 한국에 있는 농업고등학교와 교류를 시작하여서부터 10년이 지난 97년 4월이었다. “적어도 몇마디라도 한국어를 할 수 있었으면” “적어도 한글이라도 읽을 수 있었으면” 쌓이고 쌓인 마음들을 학교에 보내여 1학년 전체에 1단위의 <한국어>가 도입하게 되었다. 교재 등, 준비도 제대로 못 한 상태에서 시작한 것이다. 한국 학생을 자택에 받아들여 침식을 같이 하면서 손짓 발짓으로 서로 마음이 통하게 되었다 하면 헤어지게 되어, 서로 눈물을 흘리면서 끌어안고 마지막 악수를 나누었다. 하지만 손바닥의 따뜻함만 남아 있어 더욱 애달프기만 한다. [바바 馬場](표27 참조)

주1) 일본에 파견된 한국정부 기관. 대도시에 설치된 종합교육원(5개) 및 전국적으로 각 지역에 설치된 교육원(13개)이 있다.

주2) 94년에 발족한 한일교육교류를 도모하는 시민단체(<http://www.asahi-net.or.jp/~bi8k-ysmt/>). 학식자를 초빙하여 학습회를 개최하는 외에 95, 97, 98년도에는 서울, 96, 99년도에는 도쿄에서 교류회를 실시하고 있다.

표 26 한국·중국 등과 자매교류하는 한·중국어 교육 착수학교

학교 (*사립)	현	지역	교류 상대 학교	소재지
* 山形城北女子	山形	야마가타	정의여자	서울
* 白根開善	群馬	군마	신일	서울
* 細田学園女子	埼玉	사이타마	영동여자	서울
* 敦賀気比 国際情報 (C)	福井	후쿠이	대전	대전
滋賀	시가	문일	서울	
* 京都西 (C)	京都	교토	동명정보공업	부산
佐野工業定時制	大坂	오사카	서대전공업	대전
* 帝塚山学院泉ヶ丘	大阪	오사카	숙명여자	서울
			근화여자	경주
神戸甲北	兵庫	호고	울산정보통신 위육(位育)중학교	울산 상해(중국)
高取(C)	奈良	나라	부여	부여
星林(C)	和歌山	와카야마	대원외국어	서울
* 智辯学園和歌山	和歌山	와카야마	한양공업	서울
* 岡山理科大学附属 (C)	岡山	오카야마	기장종합 창원경일	
* 山陽女子	広島	히로시마	무학여자	서울
* 広島県新庄	広島	히로시마	부산진호상업	부산
広島皆実	広島	히로시마	대신	서울
下関商業 (C)	山口	야마구치	부산상업	부산
			청도(靑島)제일직업고급중학	청도(중국)
* 早鞆	山口	야마구치	덕명여자상업	부산
* 九州国際大学付属	福岡	후쿠오카	배화여자	서울
* 麗成	福岡	후쿠오카	선화여자상업	부산
戸畠商業	福岡	후쿠오카	경일여자상업	대구
* 熊本中央女子	熊本	구마모토	논산여자상업	논산
* 熊本フェイス女学院	熊本	구마모토	동구여자상업	서울
* 玉名女子	熊本	구마모토	마산여자상업	마산
* 楊志館	大分	오이타	부평	인천
			북경월단(月壇)중학	북경(중국)
* 日章学園	宮崎	미야자키	우신 협화(協和)고급공상직업학교 대련(大連)제일중학	서울 대북(대만) 대련(중국)

주) 교류 상대 학교의 명칭은 양케이트 조사 회답 내용에 의거하여 기재했음. 대만의 학교 1개교를 포함함.

(C): 중국어 교육 착수학교 중에서 한국의 학교와 자매교류 하는 고등학교

# 한국어 교육의 기반 조성

## 교사연수회를 토대로

본 리포트에서는 한·중국어교육의 현황을 비교함으로서 두 언어교육이 서로 상관되면서 일본의 고등학교 교육 속으로 보급되고 있는 상황을 제시하였습니다. 두 언어 교육이 공통점을 가지면서도 다른 점도 적지 않다는 것이 명확해졌으며, 몇 가지 과제도 표명화 되었다고 생각합니다.

한국어교육의 경우는 중국어교육과 같은 전국적인 교원조직이 없기 때문에 교원간의 정보교환이 생각대로 되지 않은 상황이며 교재나 교과서 작성을 위해서도 한국어교육에 종사하는 교원들 사이에 네트워크가 급히 형성되어야 한다고 생각합니다.

### 1 고등학교 한국어 교사 연수회의 개최

이러한 상황 속에서 98년 8월에 도쿄의 재일한국YMCA에서 개최된 제1차 고등학교 한국어교사연수회가 가진 의의는 매우 크다고 생각합니다. 이 연수회에는 일본전국에서 한국어를 가르치는 교원들 34명이 참가하였습니다. 참가자 리스트는 표27에 제시하였습니다.

한국문화원의 인적·물적인 지원과, TJF의 조사를 통하여 얻은 전국 고등학교 한·중국어교육에 관한 정보가 잘 어울렸기에 제1차 연수회가 실현된 것입니다. 99년 4월에는 전국 한국어 교원을 대상으로 한 소식지 『물결』이 창간되었습니다. 이 간행물이 1년에 한번씩 열리는 연수회와 연수회 사이를 연결해 주는 매개역할이 되어 연수회 참가자들 사이

의 네트워크형성을 추진할 것을 기대하고 있습니다. (제2차 연수회는 99년 8월에 개최될 예정임.)

다음으로 제1차 연수회의 마지막에 열린 교사간의 네트워크형성에 관한 프로에서 교환된 참가자의 의견과 감상의 일부를 소개하겠습니다. 앞으로의 한국어교육에 관한 실마리들이 많이 포함되어 있다고 생각됩니다.(표27 참조)

#### ◆ 네트워크에서 조직형성으로

-한국어교육을 실시하는 고등학교가 100 개교를 넘는 가운데서 이번의 참가자는 34명이다. 참가자를 확대하기 위해서는 지역별로 도시를 순회하면서 개최하고 각 지역의 결과를 보고서에 귀납하면 어떻겠는가? 연수회를 현장 교사들의 고민에 귀를 기울이는 장소가 되었으면 좋겠다.

-이번에는 모이는 그것만으로 의의가 있었다. 늘 고립되어 혼자서 수업을 하고 있던 우리가 이렇게 많은 동료들을 만날 수 있었던 것만으로도 용기가 난다. 처음이기도 하고 총체적이었는데 금후에는 모델수업 등 구체적으로 내일의 수업에 도움이 될 수 있는 형식이 좋지 않겠는가. 앞으로 뭔가를 시도하려면 개인의 의견보다는 조직적인 힘이 크다고 생각한다.

-모이는 것만으로도 의의가 있었다. 또다시 현장에서 노력할 결심을 새롭게 하였다. 조총련계 교원들도 참가할 수 있게 되면 좋겠다.

-한국문화원으로서는 국적에 관하여 문제 삼지 않는다.

-연수회를 계속하자면 조직이 필요하다.  
야마가타현에도 나 외에 한국어교원이 있다. 조직적인 네트워크 없이는 학습자가 늘어나지 않는다.

-저변화대는 찬성이지만 정보교환만으로도 의미가 있다. 오사카나 효고현에서도 작은 규모로 계속해 왔지만 네트워크는 형성되지 않았다. 정보교환, 교류, 실천보고,

그리고 센터입시<sup>1)</sup>나 사립대학 입시과목에 넣어 줄 것을 요구하는 등 운동과 연결시

주) 97년 1월부터 프랑스어와 독일어 외에 중국어가 들어갔다. 99년 1월 수험자수는 중국어 223명, 프랑스어 178명, 독일어 134명임(대학입시센터 자료). 센터입시를 중국어로 수험한 학생이 있는 차수학교는 15개교(회답수의 5.7%)이며 그 중 7개교는 중국어 코스 등 3년간의 이수단위수가 10단위를 초월한다.

표27 제1차 고등학교 한국어 교사 연수회 참가자들

지역(인수)	학교 등 (*시립)	참가교원	각 학교의 특징 또는 교원 각자 한마디	[ ]: 참조 페이지
岩手 이와테 (2)	花巻南 不来方 외	阿部宣姫 毛利靖子	한국 수학여행 중에 1주일간 어학 연수를 실시하고 있음. 외국어 과목 중 한 클래스에 한하여 <한글>과목을 설치했음.	
山形 야마가타 (1)	* 酒田南	金昶寧	한국 수학여행 가기 전과 갔다 온 후 학생들의 한국관이 달라짐.	
埼玉 사이타마 (1)	* 自由의森学園	黒澤眞爾	99년도는 발음기호 IPA <sup>1)</sup> 를 도입해 보았다. [p. 53]	
千葉 지바 (1)	* 千葉明徳	朴章美	학생들의 학습 의욕을 어떻게 일으키는가가 과제이다.	
東京 도쿄 (1)	葛西南 (定時制)	田附和久	교사의 실력 향상을 위해 연수회가 필요하다.	
神奈川 가나가와 (1)	岸根	山下誠	부임해서 3년째, 99년도 자유 선택으로 <한국어> 과목 개강.	
長野 나가노 (1)	松本蟻ヶ崎	西澤俊幸	왜 <조선어>를 안 배우는지 모든 학생들에게 물어 보고 싶다. [p. 56]	
石川 이시카와 (1)	教育센터	鳴田進	97년도까지 공립고교에서 <한글>을 담당했음.	
京都 교토 (1)	* 南京都	尹道心	매년 한국에 수학여행/클럽 활동으로 실시하고 있음.	
大阪 오사카 (8)	桃谷 (通信制) 외 住吉 외 西成 今宮工業 (定時制) 枚方津田 외 阪南 * 帝塚山学院泉ヶ丘 * 建国	大島知美 鄭一珠 李愈知 鄭良二 李貞榮 任喜久子 李章柱 李庭宮	이쿠노구(生野區)의 고등학교에서 인권 교육의 일환으로. 4개 고등학교의 강사/모국어를 공부하려는 재일동포 학생이 많지 않다. 재일동포와 많은 일본인 학생들의 서명으로 개강했음. 인권 교육과 국제 이해 교육의 두 가지 흐름이 있음. 5개 고등학교 및 야간 중학교, 민족 학급의 강사담당. 어학, 인권, 국제 이해, 민족교육으로서 <조선어>교육. [p. 60] 1기생(84년)부터 한국에 연수여행을 실시하고 있음. 고등학교 커리큘럼 이외에 한국어, 한국역사를 공부함.	
兵庫 효고 (5)	尼崎工業 姫路商業 武庫 (定時制) 湊川 (定時制) 외 尼崎 (市)	文東載 大垣輝行 辻本久夫 方政雄 鄭奈美	필수선택의 학생들에게 학습 의욕을 불러일으키게 하는 것이 과제이다. 상업과의 과제연구로서 개강. 99년도부터 선택과목이 됨. 한국 수학여행을 전제로 교육위원회에서 개강 허가 받았음. 당연한 외국어로써 이웃나라의 언어를 배운다. [p. 51] 자신이 한국을 좋아해야 학생들에게 전달할 수 있는 것이 있음.	
和歌山 와카야마 (1)	* 智弁学園和歌山	朴貴善	79년부터 한국에 수학여행/한국어 교육과 대학진학과의 관계.	
鳥取 뜻도리 (2)	米子 외 米子南商業	金映希 遠藤宏子	JET프로그램으로는 처음으로 한국어 ALT <sup>2)</sup> 로서 일본으로 왔음. 현(縣)의 방침에 따라 개강, 98년도부터 한국 수학여행 실시로.	
島根 시마네 (2)	松江商業 浜田商業	横田正四郎 金秀明	상업학교의 개혁의 일환으로서 <한국어>를 개강하였음. 한국 수학여행에서 사용할 언어들을 정리한 교재로 학습.	
広島 히로시마 (2)	* 広島女学院 * 崇徳 외	鞠承姫 李菊枝	3학년 때 선택 과목/대학 수험 과목과의 밸런스를 도모함. [p. 60] 어학과 수학여행, 문화, 스포츠교류를 조합하면서.	
熊本 구마모토 (1)	菊池農業	馬場純二	전 학과에 한 명씩 한국어가 가능한 교원을 양성하고 있음. [p. 62]	
大分 오이타 (3)	* 楊志館 大分東 日出賀谷	趙源逸 宋孝源 李鍾洙	학력에 부응하면서 학습 의욕을 높이는 것이 과제이다. 현(縣)국제교류원으로서 일본인 교원과 함께 팀·티칭함. 국제교류원 업무와 더불어 한국어 강사를 담당하고 있음.	

1) International phonetic alphabet

2) Assistant language teacher 어학지도조수

키고 싶다. 이러한 운동이 없이는 양·질의 확대와 연결되지 않는다. 보다 많은 사람들이 모일 수 있는 개방적인 조직을 만들어 가는 것이 좋지 않을까 생각한다.

-10년전에 가르치기 시작했을 때 고등학교 한국어 교사는 주위에 거의 없었다. 줄곧 네트워크를 바라고 있었는데 10년후에 이런 연수회가 실현되어 매우 큰 자극을 받았다. 교재작성보다 보급에 관심이 있다. 교재에 관한 문제와 보급에 관한 문제는 같아서 생각하는 것이 좋겠다. 보급에 대해서는 한국문화원이나 TJF 등 지원단체에서 고려해 주기 바란다. 오사카에서는 인권교육이라는 과제가 있으며 지방에서는 고등학교의 개혁으로 새로운 커리큘럼의 설정이라는 움직임이 있다. 도쿄에는 그러한 자극이 없기에 어떻게 보급하면 좋을지 어렵다. 교원 자신이 설명할 수 있도록 연수회의 기록을 정중하게 작성하여 성과를 정리해 놨으면 좋겠다.

#### ◆ 연수와 학습회의 장소로

-어떻게 수업을 진행하느냐 하는 화제도 있었고 하여 처음으로 참가한 연수회였지만 공부가 되었다. 금년부터 전임강사가 되어 어떻게 수업을 전개하면 좋을지 혼자서 고민하고 있었기에 교육실천에 대하여 들을 수 있었으니 좋았다. 어학이나 문화를 계속해서 배우지 않으면 안 되겠구나 하는 생각을 다시 하게 되었다. 내년 이후에는 교사 연수의 장으로 교원이 전문적으로 학습하는 기회가 되도록 프로그램을 짰으면 한다.

-서로의 입장에 따라 고민도 다르기 때문에 내년부터는 분과회가 있어도 좋을 것 같다. 지역별 분회도 고려해 볼 수 있다.

-도쿄에서 온 참가자가 적은 것이 유감스럽다. 교원자격증의 규정이 엄격한 것 등 행정적인 문제도 있다. <조선어>는 다른 언어교육에 비하여 기본적인 연구가 부족하다. 배우기 쉬운 것도 있고 자주적으로 만든 교재도 있다고 생각된다. 저변의 부분에서 교원자신이 공부하는 것이 보급을 위해서도 필요하다. 교사자신의 실력향상을

위한 학습회가 필요하다. 모교사들도 배워야 하는 것이 많다. 연수회에서 학습한 내용의 축적이 교재작성과 네트워크형성에 연결된다. 일본에 있어서의 <조선어>연구 상황 등에 관한 학습회가 있었으면 좋겠다고 생각한다.

#### ◆ 교과서와 교재를 작성하기 위하여

-문부성 검정교과서가 나올 때까지는 시간이 걸리리라 생각한다. 한국어 능력시험 등을 기준으로 하면서 교사들이 함께 통일교과서를 만들 수는 없을까. 교과서 문제로 고민하거나 개인적으로 여러가지로 고민하면서 가르치고 있다고 생각한다. 교과서 문제를 해결해 가고 싶다.

-교과서를 만들자면 고등학교 학생들의 학습도달도의 기준이 필요하다. 우선 저변을 확대하는 방법을 생각하는 것이, 한국어 교육의 수준이 높은 학교이나 새로 시작한 학교에나 다 필요하지 않겠는가. 기존 교재에 대한 평가를 해 보는 일도 괜찮다.

-학생들이 한국어를 배워 잘 됐구나 하는 마음을 가지고 후배들에게 그것을 전해 가도록 하기 위해서는 좋은 교재가 필요하다. 도달도를 결정하는 것으로 자기의 목을 조르는 일이 없도록 참고적인 교재를 만들면 어떻겠는가.

#### ◆ 센터시험 과목으로

-전국의 많은 학교가 한국어교육을 실시하고 있다는 것을 알고 용기를 얻었다. 장래적으로는 조직을 만드는 것이 필요하지만 당분간은 정보교환을 계속하는 것이 중요하다고 생각한다. 센터시험, 사립대학교에 대한 시도가 필요하다. 교사도 학생도 열정이 들어가 입학시험에 도전하는 학생도 나올 것이라고 생각하기에 대학입시와 연결시키는 작업은 아주 중요하다.

-개강하지는 않았지만 한국어 학습을 계속하고 있는 교사들에게 연수회 내용을 보고하려고 생각한다. 센터입시 과목으로서 한국어가 들어가는 것에 찬성한다. 재일교포를 둘러싸는 민족문제를 안고 있는 학교

나 명문진학학교 등 각자의 고민을 가지고 와서 상담, 토론할 수 있는 장소가 바로 이 연수회가 아니겠는가. 검토결과를 정리하는 과정에서 교과서가 만들어 진다면 좋겠다고 생각한다. 매년 연수회를 개최하고 참가자를 확대해 가는 것이 바람직하다. 교사의 연수장소로서, 교원들간의 연계를 확대해 감으로서 앞으로의 연수회의 방향이 보이는 것이 아니겠는가.

—오사카부립(府立)재일외국인교육협의회에서 센터입시에 한국어를 도입하도록 요구한 배경에는 재일동포들이 한국어를 배웠으면 하는 소원에서였다. 명문진학학교에 재일동포가 많이 재적해 있다. 그들에게 한국어를 공부하도록 하기 위하여 수험과목에 넣도록 하는 것이 효과적이라고 생각한다. 재일동포 민족교육의 관점에서 생각하며 동포들에게 모국어를 배우도록 하기 위한 어필이었다.



교사 연수회에서 한 장면

습의욕은 없지만 한국어를 선택하지 않은 학생들도 안녕하세요?하고 말을 건넨다. 이전부터 수학여행을 실시하거나 학교의 식사회에서 한국요리가 나오고 있다. 학생들한테서 이상한 편견에 대한 의문이 나오기를 바란다. 사람들의 의식을 개변시키는 것으로부터 시작하려고 생각한다.

#### ◆ 수업실천과 문화제

—다음 연수회에서는 수업실천보고, 문화제에서의 한국어교육 실시상황 등을 교환하는 것이 좋겠다.

—개인적으로 이와테현에서 무엇을 할 수 있을까 생각했다. 문화제에서 비빔밥을 내놓는 것으로서 다른 학교에서 온 사람들에게 학교에서 <한글>을 학습하고 있다는 것을 알리고 싶다. 중·고등학교 학생 뿐만 아니라 초등학생들, 어린이들에게도 관심이 있을 듯한 화제를 만들고 싶다. 국어 교과서에 한국의 민화가 들어가 있는데 딱딱한 언어로 전할 것이 아니라 초등학생, 중학생에게 한국에 대하여 이해하는 기회를 만드는 등의 일을 하고 싶다. 그러기 위해서도 시험에 응시하기 쉽고 합격하기 쉬운 한국어 능력시험의 되었으면 한다.

—문화제에서 10분 정도의 발표시간이 있다. 민단에서 받은 치마 저고리, 바지 저고리를 입는 체험을 한다. 조선, 한국에 대하여 편견을 갖고 있는 사람이 많은 것도 사실이지만 학생들에게는 평판이 좋다. 겸임(兼任)학교에서는 현립 고등학교보다 학

#### ◆ 앞으로의 한국어교육

—97년부터 시작된 제6기 중앙교육심의회의 담신이 내려 초등학교로부터의 외국어 회화 도입 등이 표명되었다. 어학은 될 수록 어린 연령에서 시작하는 것이 좋다고 생각한다. 고등학교에서는 국제교류관계 등 과목 속으로 한국어가 들어갈 여지가 있다.

—학생들이나 주위 사람들이 관심을 가질 수 있는 평소의 수업이 중요하다. 매년 같은 교재를 사용하고 있지만 내용의 질적인 향상을 고려할 시기가 왔다고 생각된다. 양적인 확대와 질적인 확대를 위하여 주동이 될 수 있는 모임, 수업실천예의 교환을 할 수 있는 조직이 꼭 필요하다. 각 지역의 연수회 운영위원, 전국적인 연락회가 열리고 의견교환을 할 수 있는 기관지가 발행하게 되면 좋겠다.



마지막으로 고등학교 한국어 교사 연수회 개최를 적극적으로 추진한 한 한국인의 글을

인용함으로서 제1차 연수회 개최에 힘을 기울인 관계자의 속마음을 실겠습니다.

한일간에 있어 나의 주제는 “감동”이다.

한국인이 일본어를 하는 것만으로 일본인을 감동시킬 수는 없지만, 일본인의 짧은 한국어 몇마디는 충분히 한국인을 감동시킬 수 있다…….

내게 있어 “일본”은 일생의 과제로 삼을 만한 것을 찾던 중 열렬결에 포착된 표적(標的)이었다. 일본과 인연을 맺게 된 이래, 업무적으로 일본과 관련된 일을 하게 된 것은 물론 일본은 내게 있어 뗄래야 뗄수 없는 생활의 한 부분이 되고 말았다.

취미 정도로 “일본을 알아봐야 겠다”하면서 일본어 공부가 시작되었고, 일본이 정말 흥미있는 세상이라는 것을 느끼게 되면서 한국과 일본 사이에는 일감이 왜 이렇게 많은지를 늘 생각해 왔다. 한일민족은 경제적으로나 문화적으로나 상호 보완재임은 틀림 없다고 생각한다. 따라서, 내가 해야 할 일들은 일본 사람들에게 한국으로부터의 메세지를 전하는 일과 한국 사람들에게 일본을 대로 알리는 일을 같은 비율로 수행하지 않으면 안 될 것 같다.

일본 근무를 시작하면서 첫 번째 숙제였던 한국어 교사 연수회가 국제문화포럼의 도움으로 정착하게 되어 더없이 기쁘다. 한국어를 가르치는 일본인 선생님들과 한국어를 배우는 일본인 학생들, 한국에서는 쉽게 인상이 떠오르지 않을 것이다. 나는 이런 사실들을 가급적 널리 한국에 알리고 싶다. [김]

## 2 네트워크의 형성과 TJF의 역할

TJF의 중국어교육 관련사업에는 기관지를 통한 한·중국어교육 착수학교의 소개, 중국 동북부의 중·고등학교에서 일본어를 가르치는 중국인 교사와 일본의 고등학교에서 중국어교육에 종사하는 교사를 매개로 한 “우호클래스교류”, 《고등학교 중국어교육의 목표》(p.58 참조) 작성에 대한 조성과 편집 협력, 고등학교 중국어 교육 관계자들을 위한 소식지 《小溪》 발행 등이 있습니다.

TJF는 고등학교에서의 한국어교육에 관한 조사를 시작함과 아울러 한국문화원과 함께 연수회 사업에 관여하면서 한국어 관련사업에 착수하게 되었습니다. 그 후 연수회 운영위원회의 활동을 보좌하며 운영위원회 소식지 《물결》의 편집협력을 통하여 네트워크형성을 도와 주고 있습니다. TJF가 고등학교의 중국어 교육에 관련한 사업을 통하여 축적한 정보와 인맥이 고등학교에 있어서의 한국어 교육의 기반 작성에도 큰 역할을 하고 있습니다.

고등학교에 있어서의 한국어 교육에 관한 우리의 이런 사업들은 다른 단체로부터도 평가를 받고 있으며 담당교원을 핵으로 주변의 관계자들을 끌어 넣은 네트워크는 확대되고 있습니다. 앞으로도 기관지와 홈페이지에 한국어교육 착수학교를 소개하거나 관련정보를 게재하면서 한국어교육의 기반을 닦는데 유용한 사업을 전개해 나가려고 생각하고 있습니다.

**日本の高等学校における韓国朝鮮語教育**

中国語教育との比較で見る

**일본 고등학교에 있어서의 한국어 교육**

중국어 교육과의 비교를 통하여

1999年6月 発行

編集人 편집인 高嶋伸和 ダカシマ ノブカズ

発行所 발행소 財団法人国際文化フォーラム

제단법인 국제문화포럼

〒163-0726 東京都新宿区西新宿 2-7-1 第一生命ビル 26F

tel. 813-5322-5211 fax. 813-5322-5215

e-mail. forum@tjf.or.jp http://www.tjf.or.jp/

©1999 The Japan Forum

本レポート発行に関して社団法人東京俱楽部より資金助成をいただいています。

본 리포트 발행에 대하여 사단법인 도쿄클럽으로부터 자금조성을 받고 있습니다.

本レポートの表紙デザイン、ハングル部分の校閲、韓国内における配布について  
駐日韓国文化院のご協力をいただいています。

본 리포트의 표지 디자인, 한국어 페이지 교열, 한국내에서의 배포에 관하여  
주일한국문화원의 협력을 받고 있습니다.

協力 駐日韓国文化院

협력 주일한국문화원